
次期小樽市総合計画策定のための
アンケート調査 報告書

平成 29 年 2 月

小樽市総務部企画政策室

目次

第Ⅰ部	市民アンケート調査	1
第Ⅱ部	地区別アンケート調査	69
第Ⅲ部	団体別アンケート調査	79
第Ⅳ部	市外在住者アンケート調査	91
第Ⅴ部	観光客アンケート調査	107
第Ⅵ部	調査票	113
	市民アンケート調査票	115
	地区別アンケート調査票	127
	団体別アンケート調査票	131
	市外在住者アンケート調査票	135
	観光客アンケート調査票	139

報告書の見方

- ・ 図中のNとは（N=Number of cases）のことであり、回答者総数あるいは分類別の回答者数を示す。
- ・ 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。このため、単一選択式の質問においては、全ての選択肢の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上の回答をする事ができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・ 図表やコメント部分においては、調査票における設問及び選択肢の語句などを一部簡略化している場合がある。

第 I 部 市民アンケート調査

1 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、市民が市の現状に対しどのような意識を持ち、どう評価しているのか。また、まちの将来に対し何を望み、どういう認識を持っているのか。これらを把握、分析し、総合計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

1.2 調査方法と回収結果

- (1) 調査地域 小樽市内全域
- (2) 調査対象 小樽市内在住の18歳以上の男女
- (3) 標本構成 標本数 3,000件
回収数 1,174件
無効数 2件
有効回収数 1,172件 (回収率39.1%)
- (4) 抽出方法 平成28年度7月31日現在の住民基本台帳より
市民3,000人を無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間 平成28年8月22日(月)～平成28年9月14日(水)

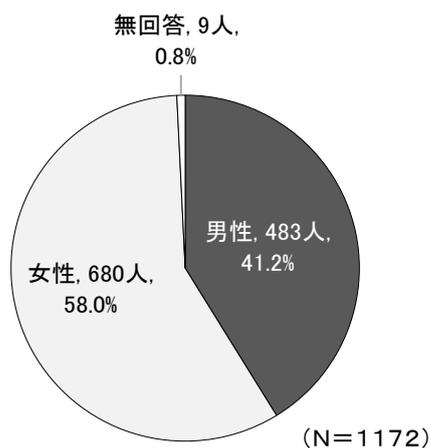
2 アンケート結果

(1) 回答者属性

① 性別

性別では、「女性」が680人(58.0%)と「男性」483人(41.2%)より多くなっている。

図1 性別

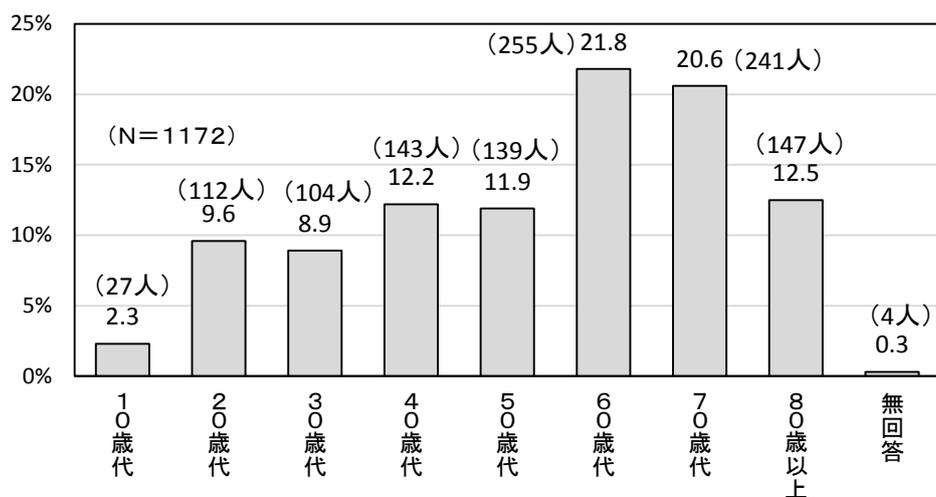


② 年齢構成

年齢構成では、「60歳代」が21.8%と最も多く、次いで「70歳代」(20.6%)と『60歳以上』が54.9%と半数以上を占めている。

一方、『30歳以下』の年代はそれぞれ10%未満に留まり、若い年齢層ほど少なくなる傾向がある。

図2 年齢別

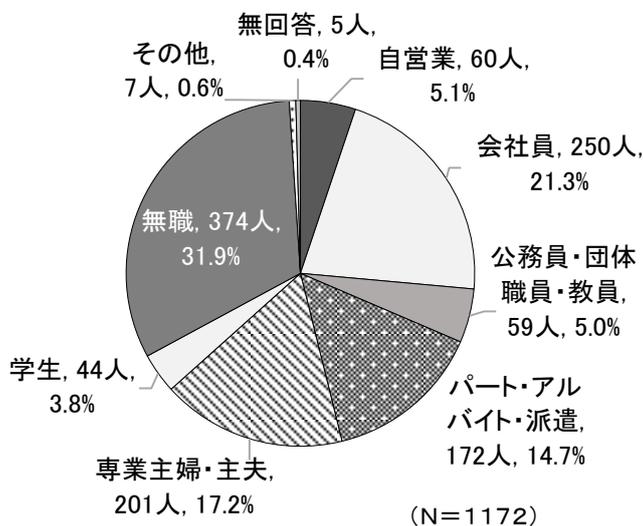


③ 職業

職業では、「無職」が31.9%と最も多く、以下、「会社員」(21.3%)、「専業主婦・主夫」(17.2%)、「パート・アルバイト・派遣」(14.7%) などとなっている。

「その他」の内訳は、「アパート経営」「女優」などがあつた。

図3 職業別

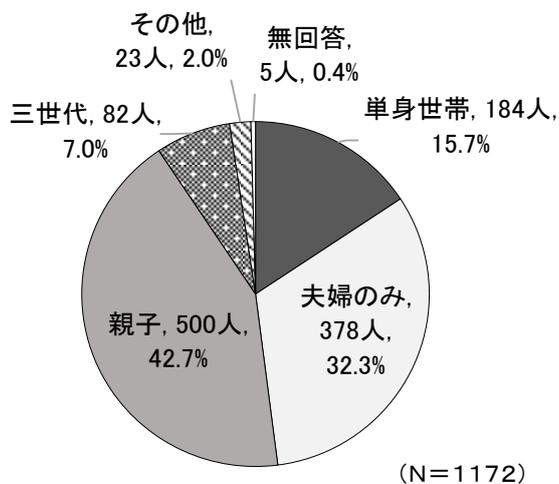


③ 世帯構成 (その1)

世帯構成では、「親子」が42.7%と最も多く、以下、「夫婦のみ」(32.3%)、「単身世帯」(15.7%)、「三世代」(7.0%) などとなっている。

「その他」の内訳は「姉妹・兄弟」5件、「祖父母」2件などがあつた。

図4 世帯構成 (その1)

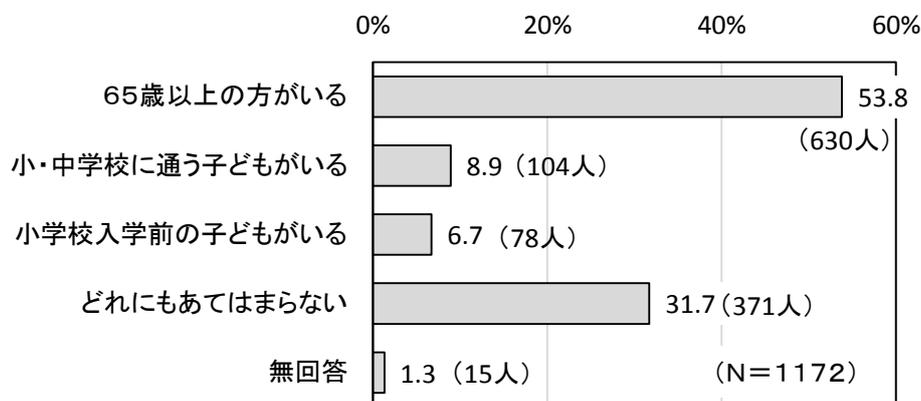


⑤ 世帯構成（その2）

世帯での中学生以下の子どもや65歳以上の有無については、「65歳以上の方がいる」が53.8%と半数以上を占める。

一方、子どもの同居状況については、「小・中学校に通う子どもがいる」（8.9%）及び「小学校入学前の子どもがいる」（6.7%）といずれも1割以下となっている。

図5 世帯構成（その2）



⑥ 居住地区

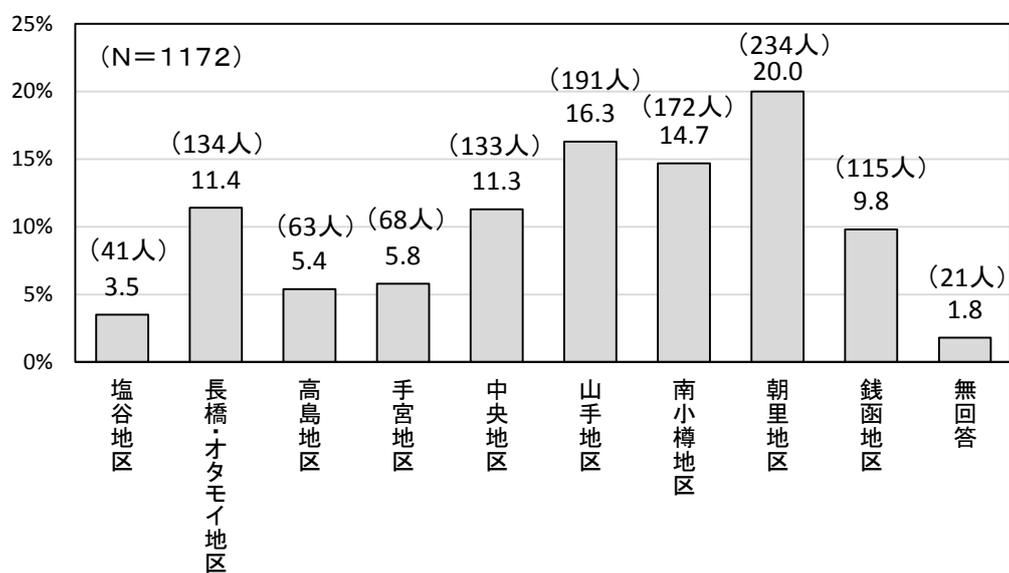
居住地については、下表のとおり区分し集計した。

表1 居住地区区分

1. 塩谷地区	蘭島、忍路、桃内、塩谷
2. 長橋・オタモイ地区	オタモイ、幸、長橋、旭町
3. 高島地区	祝津、赤岩、高島
4. 手宮地区	手宮、末広町、梅ヶ枝町、清水町、錦町、豊川町、石山町、色内3丁目
5. 中央地区	稲穂、花園、色内1・2丁目、港町、堺町、東雲町、山田町、相生町、入船1・2丁目
6. 山手地区	富岡、緑、最上、松ヶ枝、入船3~5丁目、天狗山
7. 南小樽地区	住ノ江、住吉町、有幌町、信香町、若松、奥沢、天神、真栄、潮見台、新富町、勝納町、若竹町、築港
8. 朝里地区	桜、船浜町、朝里、新光、新光町、望洋台、朝里川温泉
9. 銭函地区	張碓町、春香町、桂岡町、見晴町、星野町、銭函

居住地区別では、「朝里地区」が20.0%（234人）と最も多く、以下、「山手地区」16.3%（191人）、「南小樽地区」14.7%（172人）などとなっている。

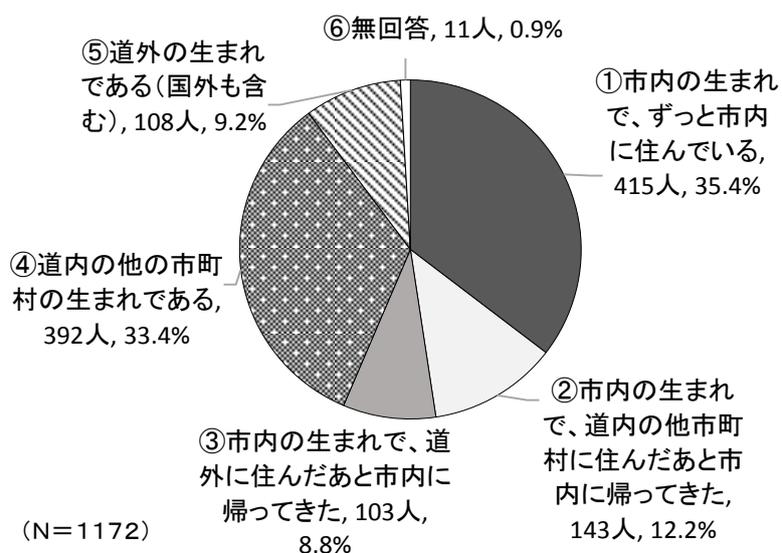
図6 居住地区区分



⑦ 居住歴

居住歴では、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」人が35.4%と最も多く、次いで「道内の他の市町村の生まれである」(33.4%)、「市内の生まれで、道内の他の市町村に住んだあと市内に帰ってきた」(12.2%)、「道外の生まれである(国外も含む)」(9.2%)、「市内の生まれで、道外に住んだあと市内に帰ってきた」(8.8%)となっている。

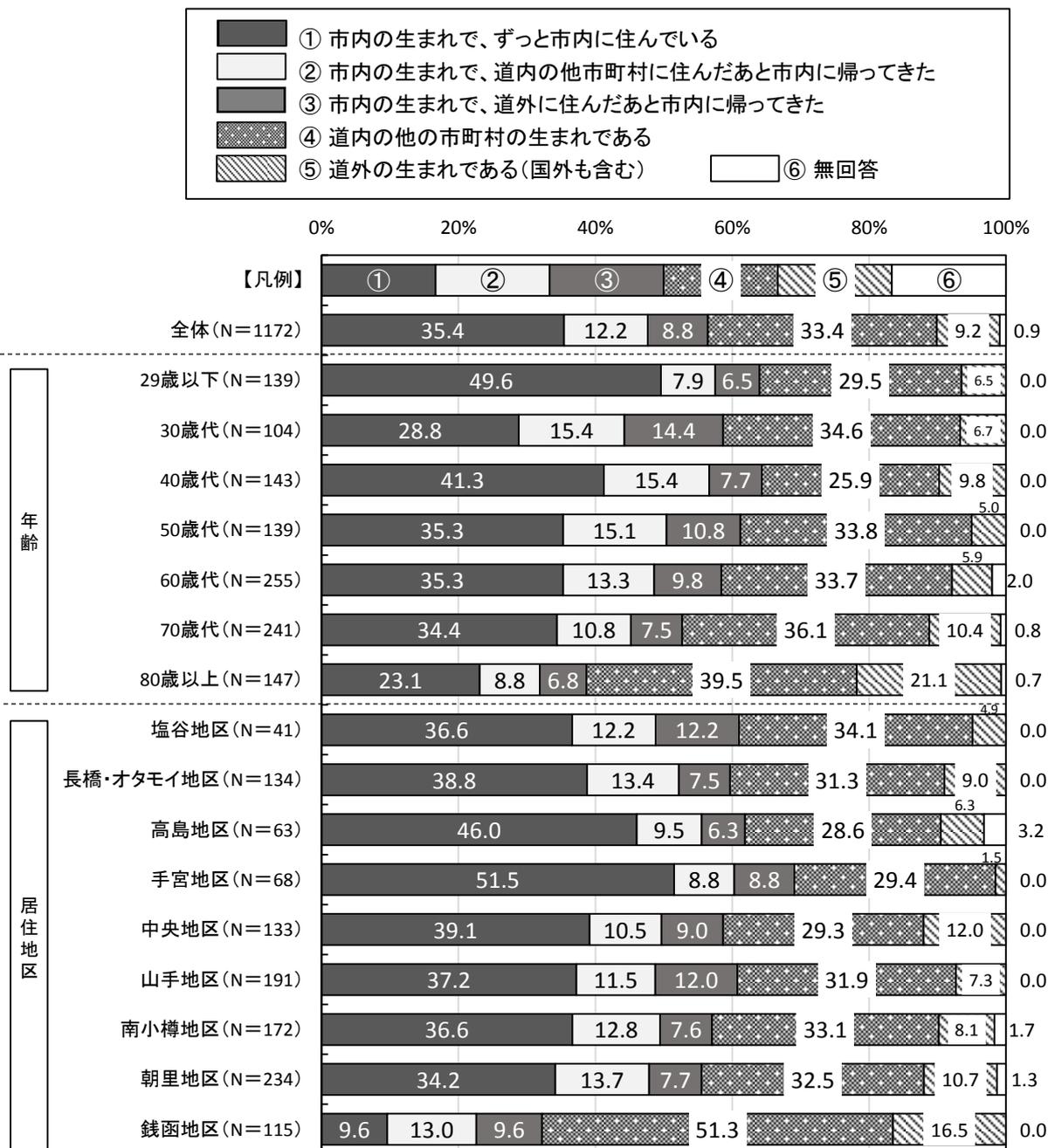
図7 居住歴



年齢別に見ると、29歳以下及び40歳代で「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」が多く4割以上となっている。70歳代以上では「道内の他の市町村の生まれである」が最も多くなっている。

居住地区別に見ると、高島地区及び手宮地区で「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」が多く5割前後となっている。一方、銭函地区では「道内の他の市町村の生まれである」が半数以上を占めている。

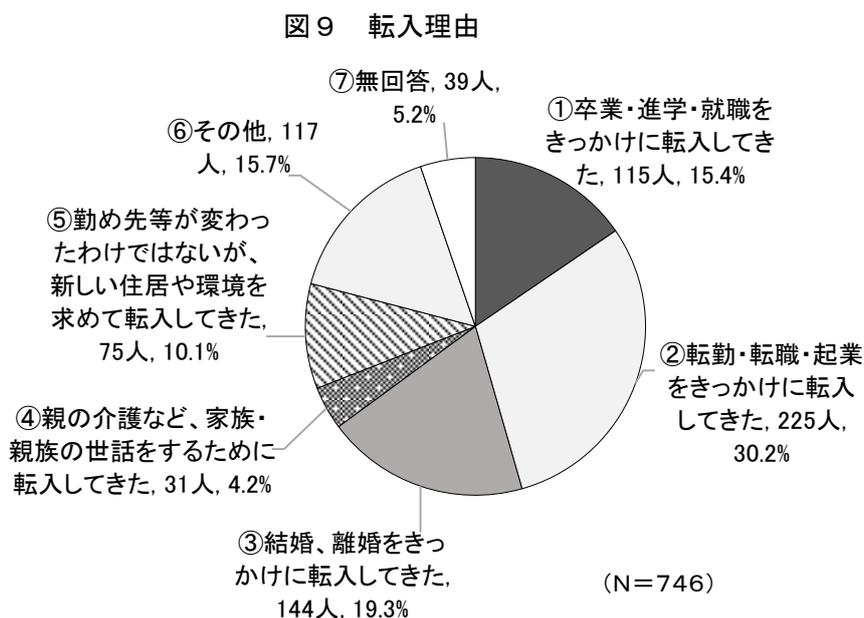
図8 居住歴（年齢・居住地区別）



⑧ 転入理由

居住歴で「市内の生まれでずっと市内に住んでいる」と答えた人以外の746人に対する転入理由の質問では、「転勤・転職・起業をきっかけに転入してきた」が30.2%と最も多く、以下、「結婚、離婚をきっかけに転入してきた」(19.3%)、「卒業・進学・就職をきっかけに転入してきた」(15.4%)、「勤め先等が変わったわけではないが、新しい住居や環境を求めて転入してきた」(10.1%)、「親の介護など、家族・親族の世話をするために転入してきた」(4.2%)となっている。

「その他」の内訳は「子どもの時転入・親の転勤」(50件)、「定年後、故郷で暮らしたい。小樽が大好きで転入」(16件)、「終戦により、外地から引き揚げて」(10件)などとなっている。

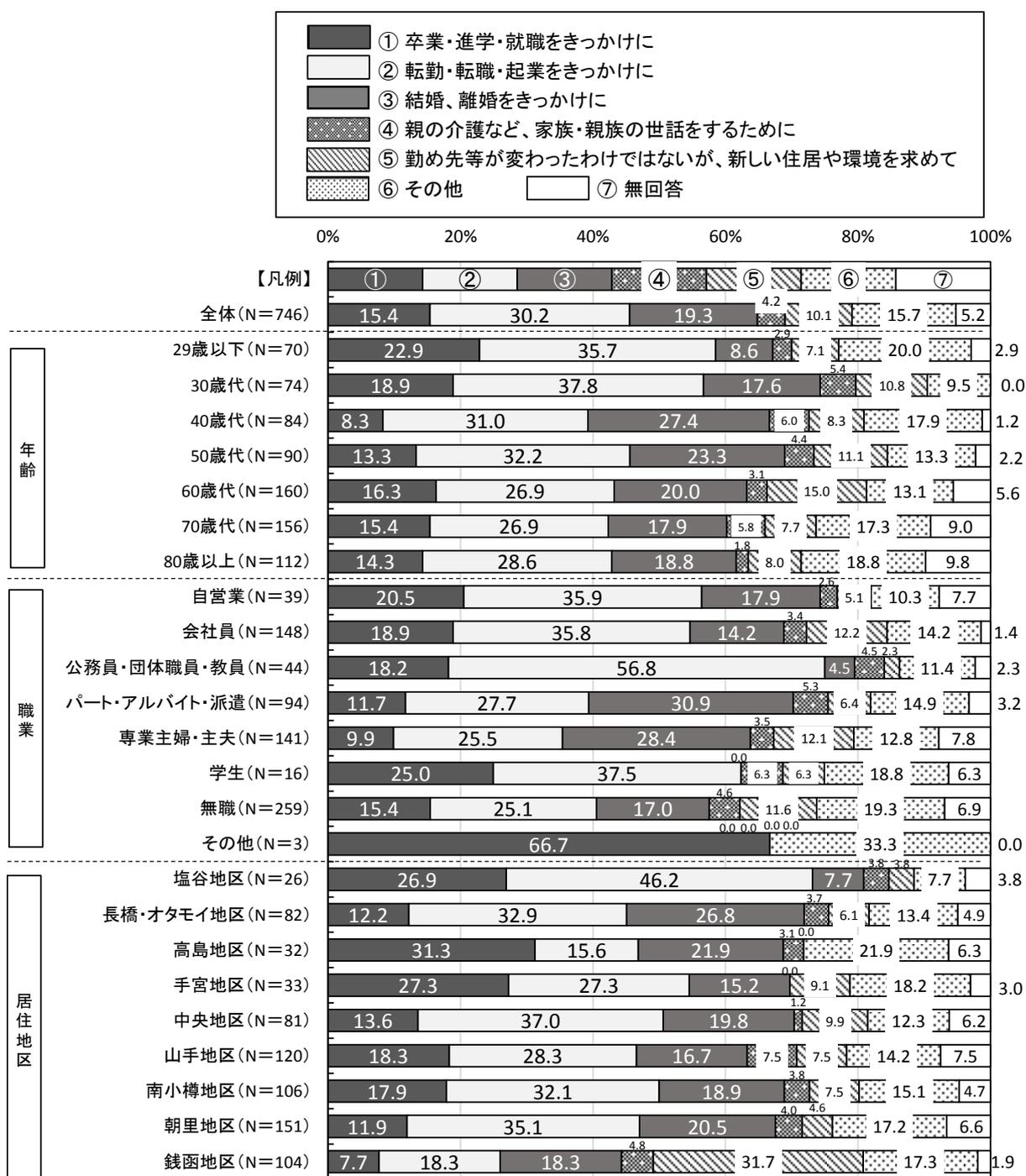


年齢別に見ると、いずれの年代も「転勤・転職・起業をきっかけに転入してきた」が最も多い。30歳代以下は他の年代に比べて「卒業・進学・就職をきっかけに転入してきた」が多く、40歳代及び50歳代では「結婚、離婚をきっかけに転入してきた」が多くなっている。

職業別に見ると、「パート・アルバイト・派遣」及び「専業主婦・主夫」以外の職業で「転勤・転職・起業をきっかけに転入してきた」が最も多く、特に「公務員・団体職員・教員」で半数以上となっている。「パート・アルバイト・派遣」及び「専業主婦・主夫」では「結婚、離婚をきっかけに転入してきた」が最も多い。

居住地区別に見ると、塩谷地区で「転勤・転職・起業をきっかけに転入してきた」が最も多い。また、銭函地区では「勤め先等が変わったわけではないが、新しい住居や環境を求めて転入してきた」が他の居住地区に比べて2割以上高くなっている。

図 10 転入理由（年齢・職業・居住地区別）



(2) 小樽市に暮らして感じることについて

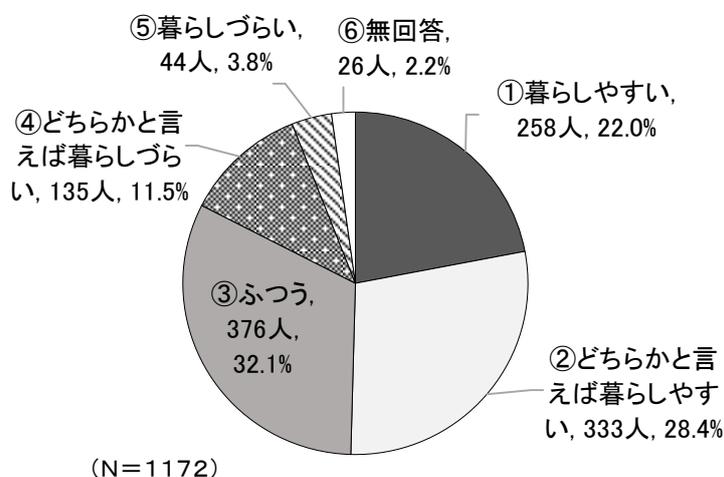
① 暮らしやすさ

あなたは、小樽市の暮らしやすさについてどう思われているかお答えください。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

暮らしやすさについては、「ふつう」が32.1%と最も多く。「暮らしやすい」(22.0%)と「どちらかと言えば暮らしやすい」(28.4%)を合わせた『暮らしやすい計』は50.4%と約半数となっている。

一方、「暮らしづらい」(3.8%)と「どちらかと言えば暮らしづらい」(11.5%)を合わせた『暮らしづらい計』は15.3%となっている。

図11 暮らしやすさ



性別に見ると、大きな違いはない。

年齢別に見ると、『暮らしやすい計』は年代が高くなるにつれて多くなる傾向がある。

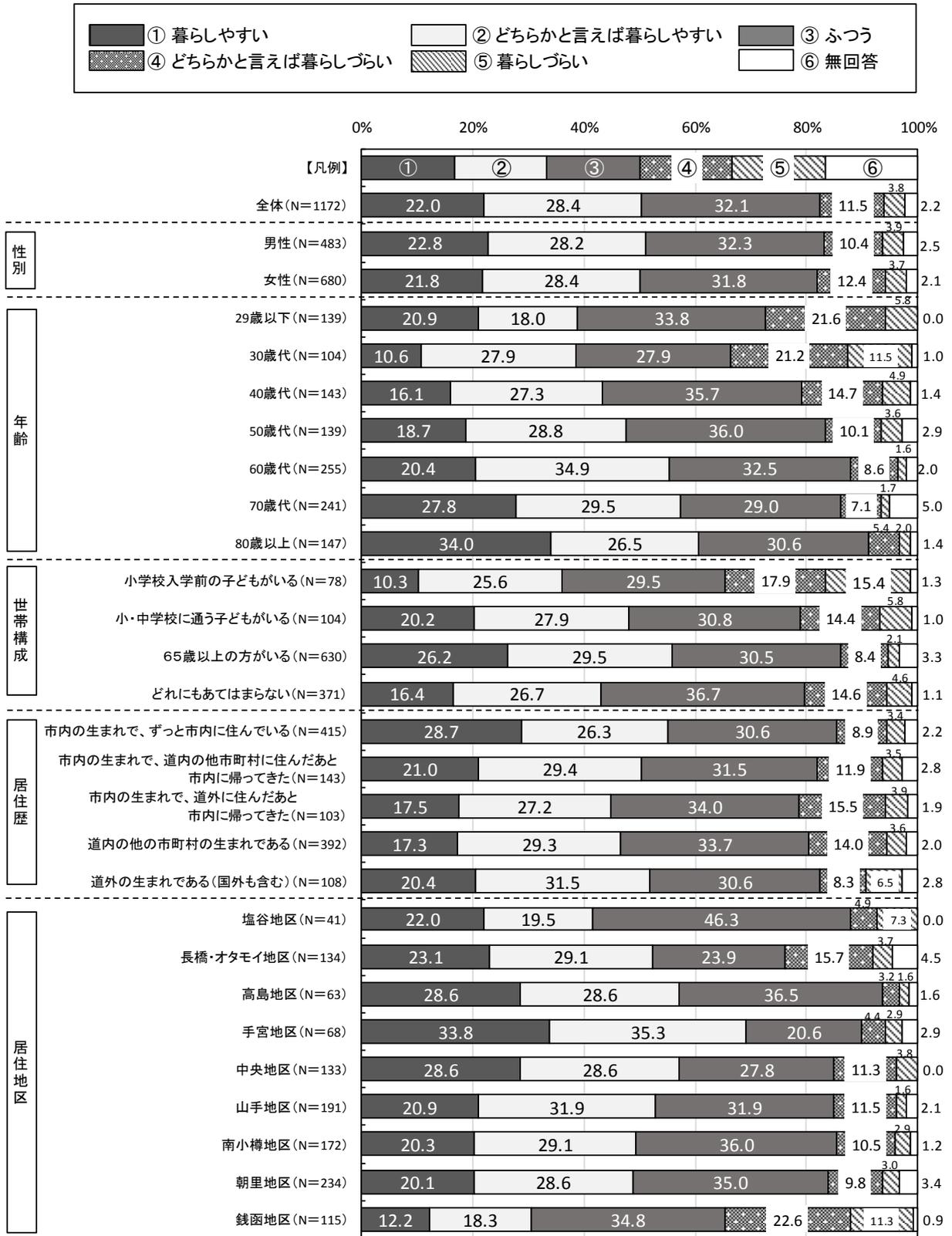
一方、『暮らしづらい計』は30歳代以下で3割前後と、他の年代に比べて高くなっている。

世帯構成別に見ると、小学校入学前の子どもがいる世帯で『暮らしづらい計』が3割以上と、他の世帯に比べて高くなっている。

居住歴別に見ると、市内の生まれでずっと市内に住んでいる人より、他の地域に住んだことがある人の方が、『暮らしづらい計』の割合が高くなっている。

居住地区別に見ると、銭函地区で『暮らしづらい計』と答えた人の割合が圧倒的に多く、3割を超えている。

図 12 暮らしやすさ（性別・年齢・世帯構成・居住歴・居住地区別）



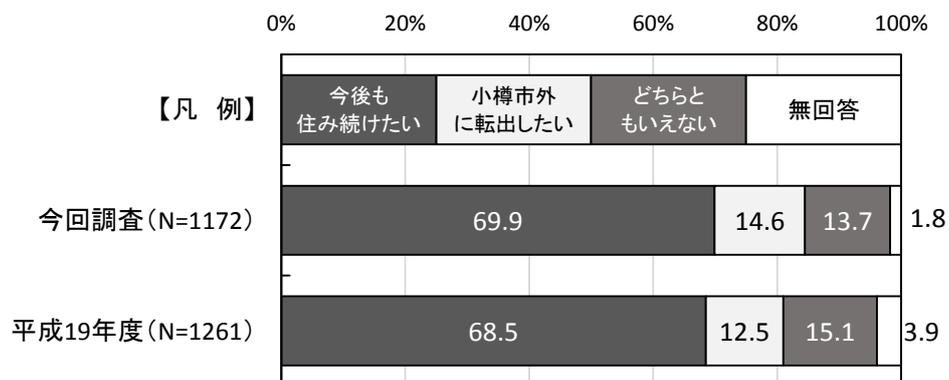
②-1 定住の意向

あなたは、今後も小樽市に住み続けたいと思いますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

定住の意向については、前回調査（平成19年度）と同じく「今後も住み続けたい」が最も多く69.9%となっている。

一方、「小樽市外に転出したい」が前回調査に比べて、2.1ポイント増加している。

図13 定住の意向



性別に見ると、男性の方が女性よりも「今後も住み続けたい」が5.7ポイント上回っている。

年齢別に見ると、年代が高くなるにつれて「今後も住み続けたい」人は多くなる傾向がある。

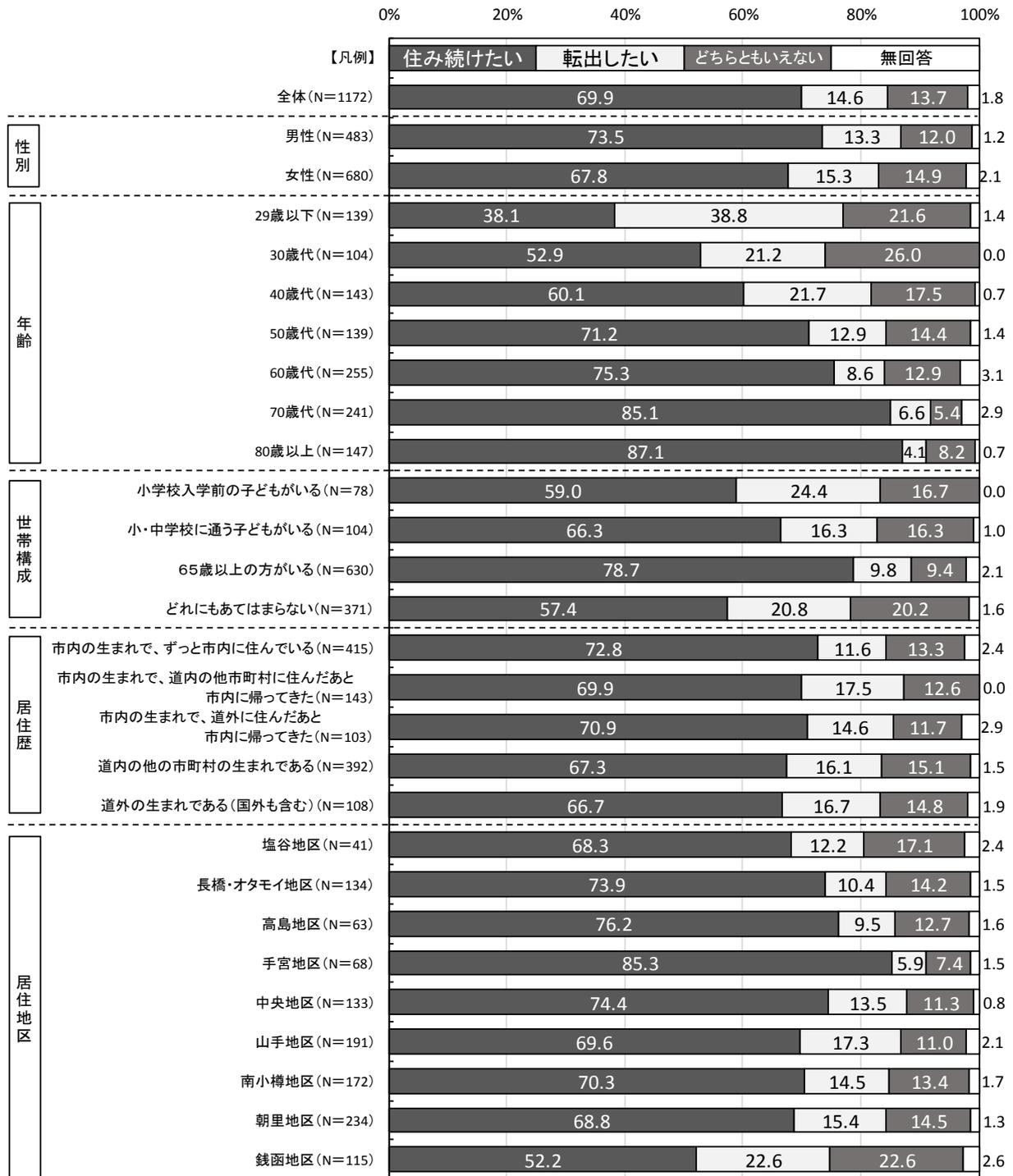
一方、29歳以下では「小樽市外に転出したい」が約4割と他の年代に比べて高くなっており、若い世代の人口流出が懸念される。

世帯構成別に見ると、「65歳以上の方がいる」世帯では「住み続けたい」が約8割と、他の世帯に比べて高くなっている。

居住歴別に見ると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる人」は「小樽市外に転出したい」が少なくなっている。

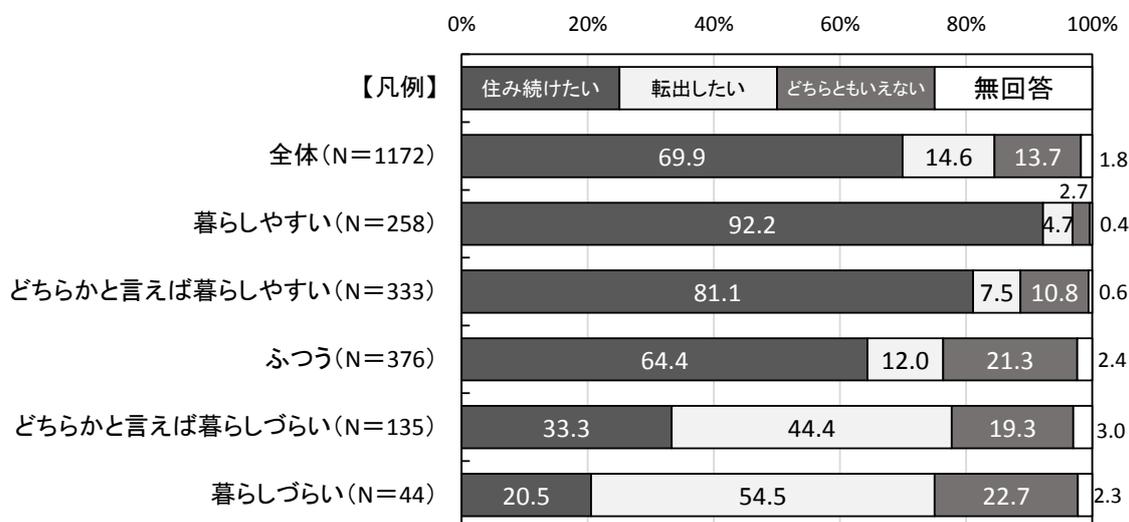
居住地区別に見ると、「手宮地区」で「住み続けたい」が8割以上と高いのに対し、銭函地区では約5割にとどまっており、前問で『暮らしづらい計』が他の地区に比べて高くなっている状況を反映しているといえる。

図 14 定住の意向（性別・年齢・世帯構成・居住歴・居住地区別）



暮らしやすさ別に見ると、『暮らしやすい計』と回答した人ほど「今後も住み続けたい」割合が高く、『暮らしづらい計』と回答した人は「小樽市外に転出したい」割合が高くなっている。

図 15 定住の意向（暮らしやすさ別）



②-2 居住理由

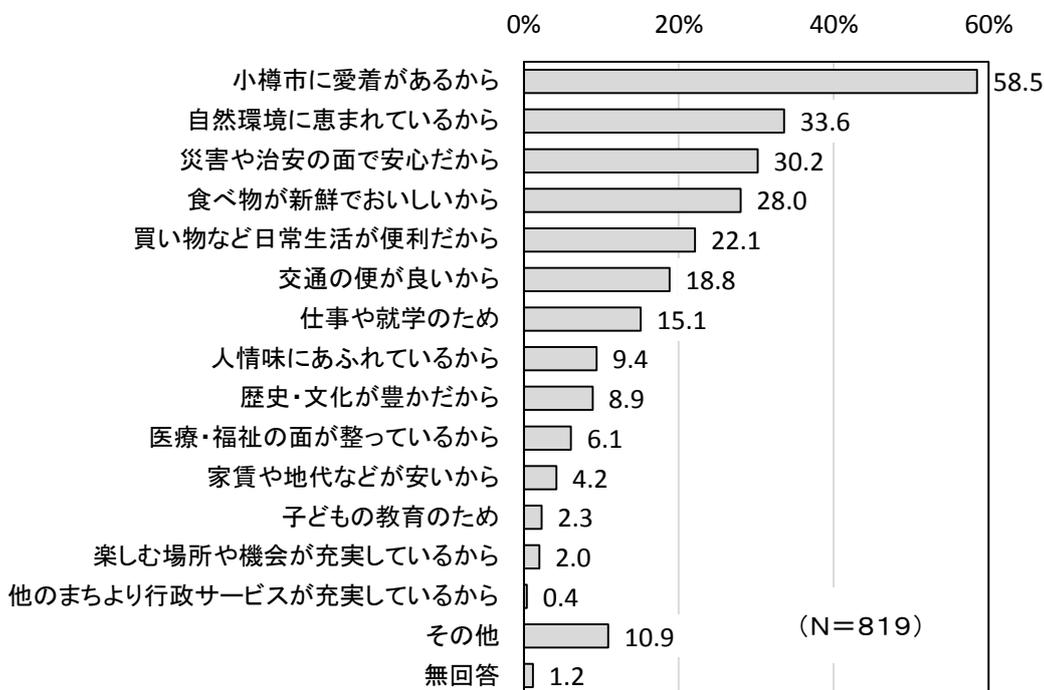
「②-1」で「1」と答えた方のみお答えください。

今後も住み続けたいと思う理由は何ですか。次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

前問で「1. 住み続けたい」と答えた 819 人に対する居住理由についての質問では、「小樽市に愛着があるから」が 58.5%と最も多く、以下、「自然環境に恵まれているから」(33.6%)、「災害や治安の面で安心だから」(30.2%)、「食べ物が新鮮でおいしいから」(28.0%)、「買い物など日常生活が便利だから」(22.1%) などとなっている。

「その他」の内訳は「持ち家があるから」(44 件)、「他に住む所が無い」(11 件)、「知り合いがいる」(7 件)、「年だから」(6 件)、「市外に出る理由がないから」(4 件) などとなっている。

図 16 居住理由



性別に見ると、大きな違いはない。

年齢別に見ると、どの年代も「小樽市に愛着があるから」が半数以上を占め最も多くなっている。50 歳代以下では「仕事や就学のため」が 3 割以上と多く、また、「自然環境に恵まれているから」「災害や治安の面で安心だから」「食べ物が新鮮でおいしいから」は年代が高くなるにつれて多くなる傾向がある。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「仕事や就学のため」「子どもの教育のため」が他の世帯に比べて多くなっている。

居住歴別に見ると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」人は、「小樽市に愛着があるから」が 7 割以上と断然多くなっている。また、「市内の生まれで、道外に住んだあと市内に帰ってきた」人は、いずれの項目も他の居住歴に比べて低くなっている。

居住地区別に見ると、「塩谷地区」及び「銭函地区」では「自然環境に恵まれているから」が半数以上で最も多く、その他の居住地区では「小樽市に愛着があるから」が最も多く5～6割となっている。また、「長橋・オタモイ地区」では「災害や治安の面で安心だから」もやや多い。

表2 居住理由（性別・年齢・世帯構成・居住歴・居住地区別）

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	居住理由																
		から 小樽市に 愛着がある	仕事や 就学のため	子ども の教育のため	い 家賃や 地代などが 安い	が 買物など 日常生活 が便利だから	整 つて いるから	医療・ 福祉の 面が	自然 環境に 恵まれて	から 歴史・ 文化が 豊かだ	交通 の便が 良いから	心 だ から 災害や 治安の 面で安	る から 人情味 にあふ れてい	し 食 べ物 が新鮮 でおい	充 実して いる から 楽しむ 場所や 機会が	い る から サービ スが充 実して	他 のま ちより 行政	そ の 他
全体	819 100.0	47.9 58.5	12.4 15.1	2.3 2.3	3.4 4.2	18.1 22.1	5.0 6.1	27.5 33.6	7.3 8.9	15.4 18.8	24.7 30.2	7.7 9.4	22.9 28.0	1.6 2.0	0.4 0.4	3.0 3.7	8.9 10.9	1.2 1.2
性別																		
男性	355 100.0	21.2 59.7	6.0 16.9	3.1 3.1	4.8 4.8	21.4 21.4	7.3 7.3	37.7 37.7	11.8 11.8	15.5 15.5	28.7 28.7	7.9 7.9	26.5 26.5	2.3 2.3	0.3 0.3	8.7 8.7	1.1 1.1	4.0 4.0
女性	461 100.0	57.7 13.7	13.7 1.7	1.7 1.7	3.7 3.7	22.6 22.6	5.2 5.2	30.6 30.6	6.7 6.7	21.3 21.3	31.0 31.0	10.6 10.6	28.9 28.9	1.7 1.7	0.4 0.4	12.6 12.6	1.3 1.3	6.0 6.0
年齢																		
29歳以下	53 100.0	36.7 67.9	16.0 30.2	2.3 3.8	2.0 3.8	11.1 20.8	2.0 3.8	12.1 22.6	8.0 15.1	8.0 15.1	8.0 15.1	5.0 9.4	10.0 18.9	1.0 1.9	-	7.0 13.2	-	-
30歳代	55 100.0	30.0 54.5	24.0 43.6	8.0 14.5	2.0 3.6	6.0 10.9	1.0 1.8	15.0 27.3	8.0 14.5	9.0 16.4	7.0 12.7	3.0 5.5	12.0 21.8	3.0 5.5	-	4.0 7.3	-	-
40歳代	86 100.0	56.1 65.1	29.0 33.7	7.0 8.1	5.0 5.8	8.0 9.3	2.0 2.3	27.0 31.4	3.0 3.5	14.0 16.3	19.0 22.1	9.0 10.5	16.0 18.6	2.0 2.3	-	10.0 11.6	-	-
50歳代	99 100.0	52.0 52.5	34.0 34.3	1.0 1.0	6.0 6.1	18.0 18.2	1.0 1.0	35.0 35.4	9.0 9.1	15.0 15.2	30.0 30.3	6.0 6.1	28.0 28.3	1.0 1.0	-	14.0 14.1	-	-
60歳代	192 100.0	111.0 57.8	16.0 8.3	0.5 0.5	9.0 4.7	45.0 23.4	6.0 3.1	73.0 38.0	14.0 7.3	40.0 20.8	71.0 37.0	11.0 5.7	60.0 31.3	5.0 2.6	-	22.0 11.5	2.0 2.1	4.0 4.0
70歳代	205 100.0	121.0 59.0	4.0 2.0	-	6.0 2.9	62.0 30.2	19.0 9.3	71.0 34.6	20.0 9.8	45.0 22.0	66.0 32.2	30.0 14.6	68.0 33.2	3.0 1.5	2.0 1.0	23.0 11.2	1.0 0.5	1.0 1.0
80歳以上	128 100.0	73.0 57.0	1.0 0.8	-	4.0 3.1	31.0 24.2	9.0 14.8	42.0 32.8	11.0 8.6	23.0 18.0	45.0 35.2	13.0 10.2	34.0 26.6	0.8 0.8	0.8 0.8	7.0 7.0	3.0 3.9	5.0 5.0
世帯構成																		
小学校入学前の子 どもがいる	46 100.0	24.0 52.2	21.0 45.7	10.0 21.7	5.0 10.9	7.0 15.2	-	12.0 26.1	3.0 6.5	9.0 19.6	4.0 8.7	3.0 6.5	4.0 8.7	2.0 4.3	-	4.0 8.7	-	-
小・中学校に通う子 どもがいる	69 100.0	45.0 65.2	27.0 39.1	12.0 17.4	4.0 5.8	9.0 13.0	1.0 1.4	21.0 30.4	5.0 7.2	12.0 17.4	17.0 24.6	3.0 4.3	12.0 17.4	2.0 2.9	-	5.0 7.2	-	-
65歳以上の方が いる	496 100.0	294.0 59.3	30.0 6.0	0.2 0.2	3.4 24.6	44.0 8.9	35.0 35.7	9.0 9.1	21.0 21.0	31.0 31.7	11.0 11.1	29.0 29.8	1.0 1.0	0.6 0.6	10.0 10.7	1.6 1.6	8.0 8.0	8.0 8.0
どれにもあてはま らない	213 100.0	120.0 56.3	51.0 23.9	0.5 0.5	4.0 4.7	10.0 18.8	5.0 2.3	70.0 32.9	20.0 9.4	29.0 13.6	67.0 31.5	17.0 8.0	64.0 30.0	6.0 2.8	-	27.0 12.7	1.0 0.5	1.0 1.0
居住歴																		
市内の生まれで、 ずっと市内に住ん でいる	302 100.0	223.0 73.8	46.0 15.2	2.3 2.3	7.0 2.2	67.0 22.2	13.0 4.3	96.0 31.8	24.0 7.9	51.0 16.9	100.0 33.1	28.0 9.3	91.0 30.1	3.0 1.0	0.3 0.3	21.0 7.0	4.0 1.3	4.0 1.3
市内の生まれで、 道内の他市町村 に住んだあと市内 に帰ってきた	100 100.0	60.0 60.0	14.0 14.0	1.0 1.0	5.0 5.0	16.0 16.0	4.0 4.0	36.0 36.0	11.0 11.0	24.0 24.0	29.0 29.0	7.0 7.0	24.0 24.0	-	-	13.0 13.0	1.0 1.0	1.0 1.0
市内の生まれで、 道外に住んだあ と市内に帰って きた	73 100.0	46.0 63.0	14.0 19.2	2.0 2.7	2.0 2.7	12.0 16.4	4.0 5.5	16.0 21.9	8.0 11.0	7.0 9.6	20.0 27.4	4.0 5.5	18.0 24.7	2.0 2.7	-	11.0 15.1	1.0 1.4	1.0 1.4
道内の他の市町 村の生まれであ る	264 100.0	111.0 42.0	42.0 15.9	3.4 3.4	6.4 26.5	8.0 8.0	37.0 37.1	8.3 8.3	22.0 22.7	60.0 28.4	75.0 10.6	28.0 28.0	3.8 3.8	0.4 0.4	12.0 12.1	0.8 0.8	2.0 2.0	2.0 2.0
道外の生まれで ある(国も含む)	72 100.0	34.0 47.2	7.0 9.7	-	3.0 4.2	15.0 20.8	7.0 9.7	26.0 36.1	8.0 11.1	10.0 13.9	21.0 29.2	9.0 12.5	19.0 26.4	1.0 1.4	1.0 1.4	11.0 15.3	2.0 2.8	2.0 2.8
居住地区																		
塩谷地区	28 100.0	13.0 46.4	6.0 21.4	3.6 3.6	-	3.0 10.7	1.0 3.6	16.0 57.1	2.0 7.1	3.0 10.7	7.0 25.0	1.0 3.6	7.0 25.0	-	-	3.0 10.7	-	-
長橋・オタモイ 地区	99 100.0	56.0 56.6	15.0 15.2	-	4.0 4.0	21.0 21.2	6.0 6.1	31.0 31.3	9.0 9.1	15.0 15.2	41.0 41.4	11.0 11.1	29.0 29.3	2.0 2.0	-	13.0 13.1	2.0 2.0	2.0 2.0
高島地区	48 100.0	27.0 56.3	11.0 22.9	4.2 4.2	2.0 2.1	16.0 16.7	6.0 6.3	33.0 33.3	6.0 6.3	8.0 16.7	18.0 37.5	3.0 6.3	14.0 29.2	-	-	2.0 4.2	1.0 2.1	1.0 2.1
手宮地区	58 100.0	40.0 69.0	15.0 25.9	3.4 3.4	5.2 5.2	24.0 24.1	6.0 6.9	17.0 17.2	8.0 8.6	4.0 6.9	31.0 31.0	12.0 12.1	25.0 25.9	-	-	10.0 10.3	-	-
中央地区	99 100.0	59.0 59.6	17.0 17.2	-	5.0 5.1	33.0 33.3	3.0 3.0	24.0 24.2	15.0 15.2	21.0 21.2	27.0 27.3	9.0 9.1	27.0 27.3	5.0 5.1	-	10.0 10.1	1.0 1.0	1.0 1.0
山手地区	133 100.0	84.0 63.2	15.0 11.3	3.0 3.0	3.8 3.8	18.0 18.8	6.0 6.0	33.0 33.1	11.0 11.3	18.0 18.8	32.0 32.3	7.0 7.5	29.0 29.3	3.0 3.0	-	10.0 10.5	1.5 1.5	1.5 1.5
南小樽地区	121 100.0	73.0 60.3	17.0 14.0	4.1 4.1	0.8 0.8	34.0 28.1	6.0 6.6	28.0 28.1	8.0 8.3	34.0 24.0	29.0 24.8	15.0 12.4	32.0 26.4	0.8 0.8	-	6.6 6.6	1.7 1.7	1.7 1.7
朝里地区	161 100.0	98.0 60.9	25.0 15.5	2.5 2.5	4.0 2.5	40.0 24.8	5.0 5.6	39.0 24.4	5.0 5.6	36.0 22.4	51.0 31.7	8.0 5.0	52.0 32.3	1.2 1.2	-	11.0 11.8	0.6 0.6	0.6 0.6
銭函地区	60 100.0	20.0 33.3	3.0 5.0	1.0 1.7	11.0 18.3	2.0 3.3	6.0 10.0	30.0 50.0	5.0 8.3	10.0 16.7	10.0 16.7	11.0 18.3	10.0 16.7	2.0 3.3	1.0 1.7	14.0 23.3	1.0 1.7	1.0 1.7

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

②-3 市外転出希望理由

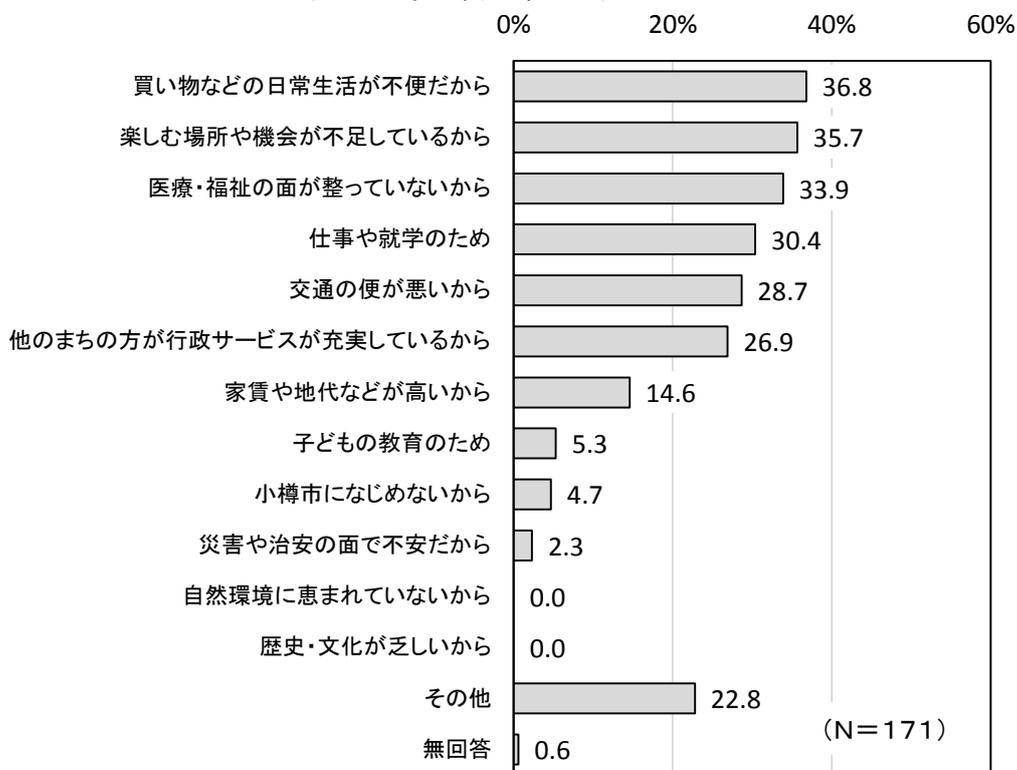
「②-1」で「2」と答えた方のみお答えください。

市外に転出したいと思う理由は何ですか。次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

前問で「小樽市外に転出したい」と答えた 171 人に対する市外転出希望理由についての質問では、「買い物などの日常生活が不便だから」が 36.8%と最も多く、次いで「楽しむ場所や機会が不足しているから」(35.7%)、「医療・福祉の面が整っていないから」(33.9%)、「仕事や就学のため」(30.4%)、「交通の便が悪いから」(28.7%) などとなっている。

「その他」の内訳は「除排雪が大変」「坂が多い」(ともに 8 件)、「税金・物価が高い」(7 件)、「家族が市外にいる」(4 件) などとなっている。

図 17 市外転出希望理由



性別に見ると、男性は「仕事や就学のため」が女性よりも多く、女性は「家賃や地代などが高いから」が男性よりも 10.5 ポイント多くなっている。

年齢別に見ると、29 歳以下は「仕事や就学のため」が他の年齢層に比べて多くなっている。30 歳代以上では「医療・福祉の面が整っていないから」が多くなっている。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「他のまちの方が行政サービスが充実しているから」が他の世帯に比べて多くなっている。また、「小学校入学前の子どもがいる」世帯は、「医療・福祉の面が整っていないから」が 6 割以上と多くなっている。

居住歴別に見ると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」人は、「交通の便が悪いから」が他の居住歴に比べて多くなっている。また、「市内の生まれで、道内の市町村に住んだあと市内に帰ってきた」人及び「道内の他の市町村の生まれである」人は、「買い物などの日常生活が不便だから」及び「医療・福祉の面が整っていないから」が 4 割

以上と高くなっている。

居住地区別に見ると、「銭函地区」で「買い物などの日常生活が不便だから」がやや多い。

表3 市外転出希望理由（性別・年齢・世帯構成・居住歴・居住地区別）

	調査数	市外転出希望理由																	
		から小樽市になじめない	仕事や就学のため	子どもの教育のため	いから家賃や地代などが高	活買物などの日常生活	整っていいの面が	医療・福祉の面が	自然環境に恵まれて	から歴史・文化が乏しい	交通の便が悪いから	安だから	災害や治安の面で不	不足しているから	楽しむ場所や機会が	いるから	他のまちの方が行政サービスが充実して	その他	無回答
全体	171 100.0	8 4.7	52 30.4	9 5.3	25 14.6	63 36.8	58 33.9	-	-	49 28.7	4 2.3	61 35.7	46 26.9	39 22.8	1 0.6				
性別	男性	64 100.0	3 4.7	21 32.8	3 4.7	5 7.8	24 37.5	24 37.5	-	-	17 26.6	3 4.7	21 32.8	16 25.0	12 18.8	-			
	女性	104 100.0	5 4.8	30 28.8	5 4.8	19 18.3	38 36.5	34 32.7	-	-	31 29.8	1 1.0	39 37.5	30 28.8	27 26.0	-			
年齢	29歳以下	54 100.0	1 1.9	38 70.4	2 3.7	4 7.4	20 37.0	6 11.1	-	-	16 29.6	1 1.7	27 50.0	5 9.3	7 13.0	-			
	30歳代	22 100.0	2 9.1	3 13.6	4 18.2	5 22.7	8 36.4	9 40.9	-	-	6 27.3	1 4.5	9 40.9	10 45.5	6 27.3	-			
	40歳代	31 100.0	2 6.5	9 29.0	2 6.5	8 25.8	11 35.5	13 41.9	-	-	10 32.3	1 3.2	4 12.9	10 32.3	5 16.1	-			
	50歳代	18 100.0	1 5.6	1 5.6	-	2 11.1	8 44.4	8 44.4	-	-	3 16.7	-	8 44.4	4 22.2	6 33.3	-			
	60歳代	22 100.0	1 4.5	-	-	3 13.6	5 22.7	12 54.5	-	-	6 27.3	-	6 27.3	9 40.9	10 45.5	-			
	70歳代	16 100.0	-	-	-	2 12.5	9 56.3	8 50.0	-	-	6 37.5	2 12.5	4 25.0	7 43.8	3 18.8	-			
	80歳以上	6 100.0	1 16.7	-	-	-	1 16.7	2 33.3	-	-	1 16.7	-	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-		
	世帯構成	小学校入学前の子どもがいる	19 100.0	2 10.5	3 15.8	5 26.3	4 21.1	7 36.8	12 63.2	-	-	3 15.8	1 5.3	7 36.8	8 42.1	5 26.3	-		
小・中学校に通う子どもがいる		17 100.0	-	7 41.2	-	1 5.9	8 47.1	8 47.1	-	-	5 29.4	-	6 35.3	8 47.1	4 23.5	-			
65歳以上の方がいる		62 100.0	2 3.2	11 17.7	2 3.2	9 14.5	20 32.3	20 32.3	-	-	19 30.6	2 3.2	16 25.8	17 27.4	18 29.0	1 1.6	-		
どれもあてはまらない		77 100.0	4 5.2	29 37.7	1 1.3	11 14.3	30 39.0	23 29.9	-	-	22 28.6	1 1.3	35 45.5	18 23.4	15 19.5	-			
居住歴	市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる	48 100.0	2 4.2	24 50.0	2 4.2	3 6.3	11 22.9	10 20.8	-	-	20 41.7	-	17 35.4	10 20.8	10 20.8	-			
	市内の生まれで、道内の他市町村に住んだあと市内に帰ってきた	25 100.0	-	5 20.0	2 8.0	5 20.0	12 48.0	12 48.0	-	-	1 4.0	1 4.0	12 48.0	12 48.0	5 20.0	-			
	市内の生まれで、道外に住んだあと市内に帰ってきた	15 100.0	-	7 46.7	1 6.7	3 20.0	5 33.3	3 20.0	-	-	2 13.3	-	3 20.0	5 33.3	3 20.0	-			
	道内の他の市町村の生まれである	63 100.0	6 9.5	11 17.5	1 1.6	9 14.3	28 44.4	29 46.0	-	-	20 31.7	3 4.8	24 38.1	15 23.8	14 22.2	-			
	道外の生まれである(国外も含む)	18 100.0	-	4 22.2	2 11.1	4 22.2	6 33.3	4 22.2	-	-	5 27.8	-	4 22.2	4 22.2	7 38.9	1 5.6	-		
	居住地区	塩谷地区	5 100.0	-	1 20.0	-	1 20.0	3 60.0	-	-	4 80.0	-	2 40.0	-	-	-	-		
長橋・オタモイ地区		14 100.0	1 7.1	6 42.9	1 7.1	2 14.3	5 35.7	3 21.4	-	-	3 21.4	-	3 21.4	4 28.6	3 21.4	-			
高島地区		6 100.0	1 16.7	3 50.0	-	-	2 33.3	-	-	1 16.7	-	4 66.7	-	2 33.3	-	-			
手宮地区		4 100.0	-	2 50.0	-	-	-	-	-	1 25.0	-	1 25.0	-	2 50.0	-	-			
中央地区		18 100.0	1 5.6	5 27.8	2 11.1	5 27.8	5 27.8	4 22.2	-	-	3 16.7	-	6 33.3	7 38.9	7 38.9	-			
山手地区		33 100.0	-	10 30.3	1 3.0	9 27.3	11 33.3	14 42.4	-	-	4 12.1	-	12 36.4	8 24.2	7 21.2	-			
南小樽地区		25 100.0	3 12.0	7 28.0	-	6 24.0	8 32.0	8 32.0	-	-	9 36.0	1 4.0	9 36.0	8 32.0	3 12.0	-			
朝里地区		36 100.0	1 2.8	15 41.7	2 5.6	1 2.8	9 25.0	13 36.1	-	-	8 22.2	-	18 50.0	10 27.8	14 38.9	-			
銭函地区		26 100.0	1 3.8	2 7.7	2 7.7	-	17 65.4	16 61.5	-	-	13 50.0	3 11.5	5 19.2	9 34.6	1 3.8	1 3.8	-		

注1) は各分類の中で最も高い項目を示す。

注2) は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、 は-10%以上差がある項目を示す。

(3) 市政に対する現在の満足度と今後の重要度について

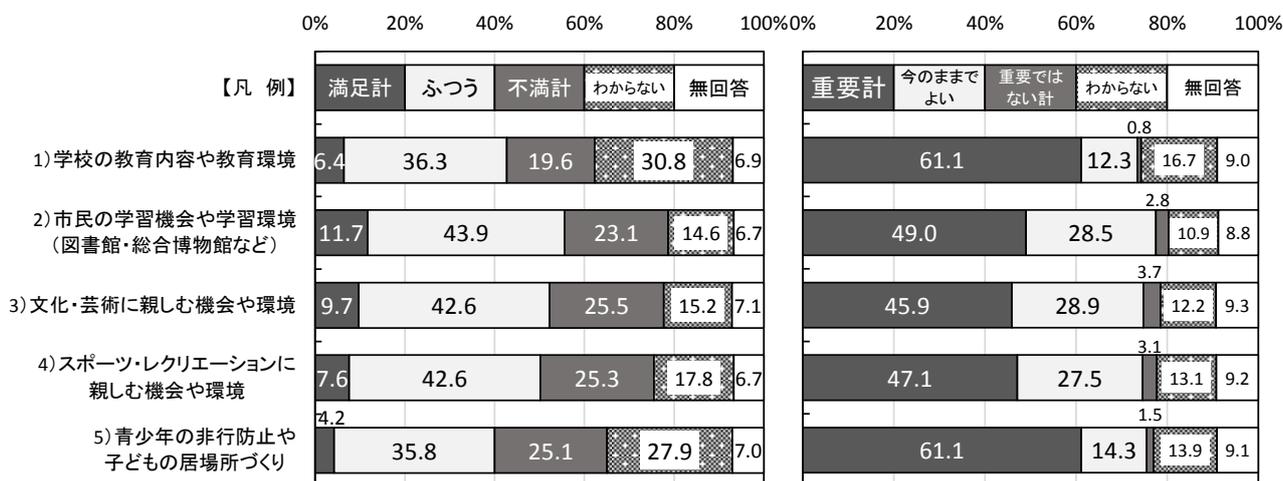
★ 各項目の分析

「満足」+「やや満足」を『満足計』、「やや不満」+「不満」を『不満計』、「やや重要」+「重要」を『重要計』、「あまり重要ではない」+「重要ではない」を『重要ではない計』とした。

① 生涯学習に関する項目（満足度・重要度）

生涯学習に関する項目に対する現在の満足度と今後の重要度については、「学校の教育や教育環境」及び「青少年の非行防止や子どもの居場所づくり」の重要度がいずれも6割超と高く、かつ満足度が低いものとなっており、子どもの環境に関する項目の満足度が低く、重要度が高くなっている。また、満足度で「わからない」が3割前後と他の項目に比べて高いのは、核家族化・少子高齢化により子どもがいない家庭が多いからではないかと考えられる。

図 18 生涯学習に関する項目
【満足度】 【重要度】



特に『重要計』が高い「学校の教育や教育環境」及び「青少年の非行防止や子どもの居場所づくり」の現在の満足度と今後の重要度を年齢別・世帯構成別で見た。

「学校の教育や教育環境」を年齢別に見ると、年齢が低くなるにつれて『不満計』『重要計』ともに高くなる傾向がある。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、いずれも『不満計』が4割以上、『重要計』も6～8割以上と他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

「青少年の非行防止や子どもの居場所づくり」を年齢別にみると、「学校の教育や教育環境」と同様に年齢が低くなるにつれて『不満計』『重要計』ともに高くなる傾向がある。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、いずれも『不満計』が4割前後、『重要計』も7割以上と他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

図 19 学校の教育内容や教育環境（年齢・世帯構成別）

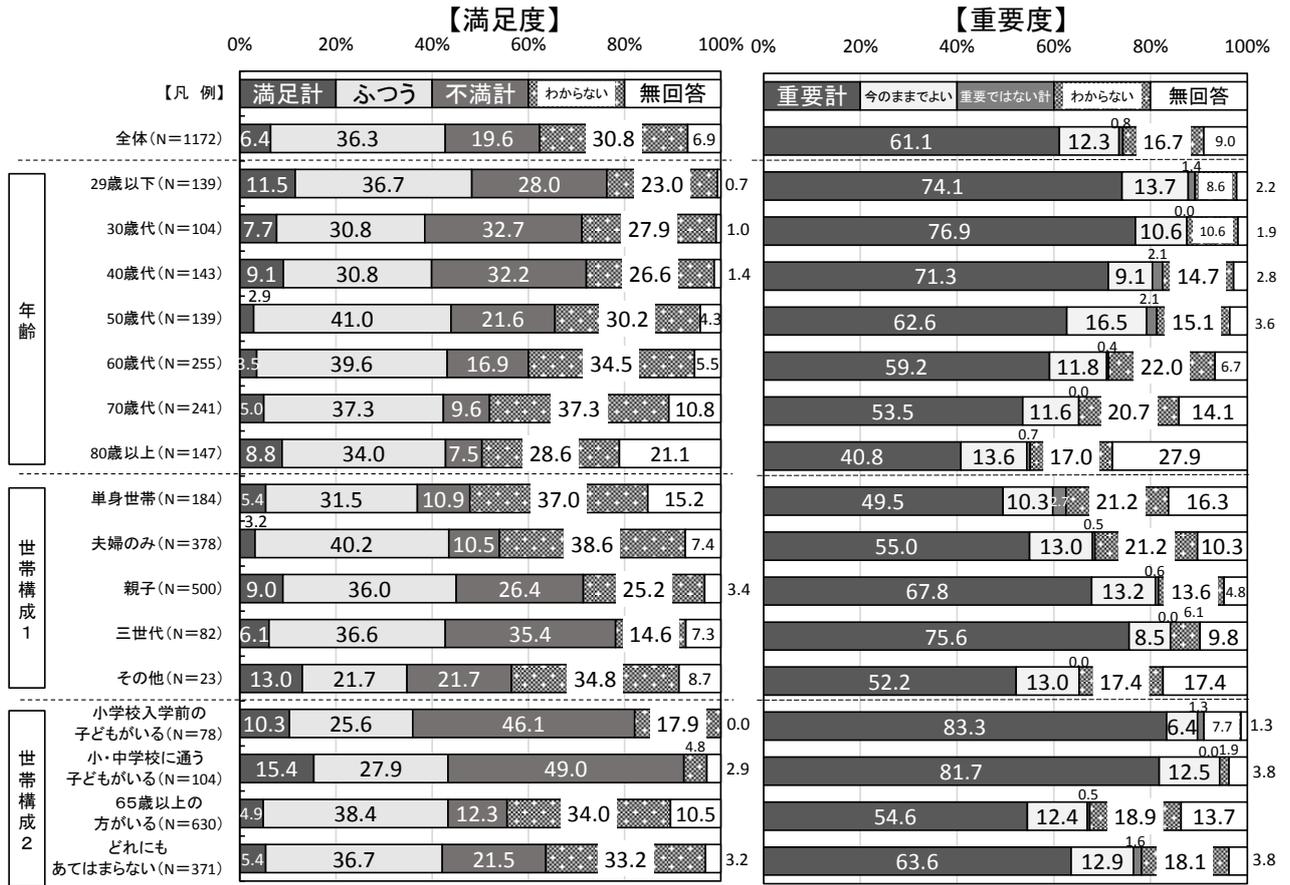
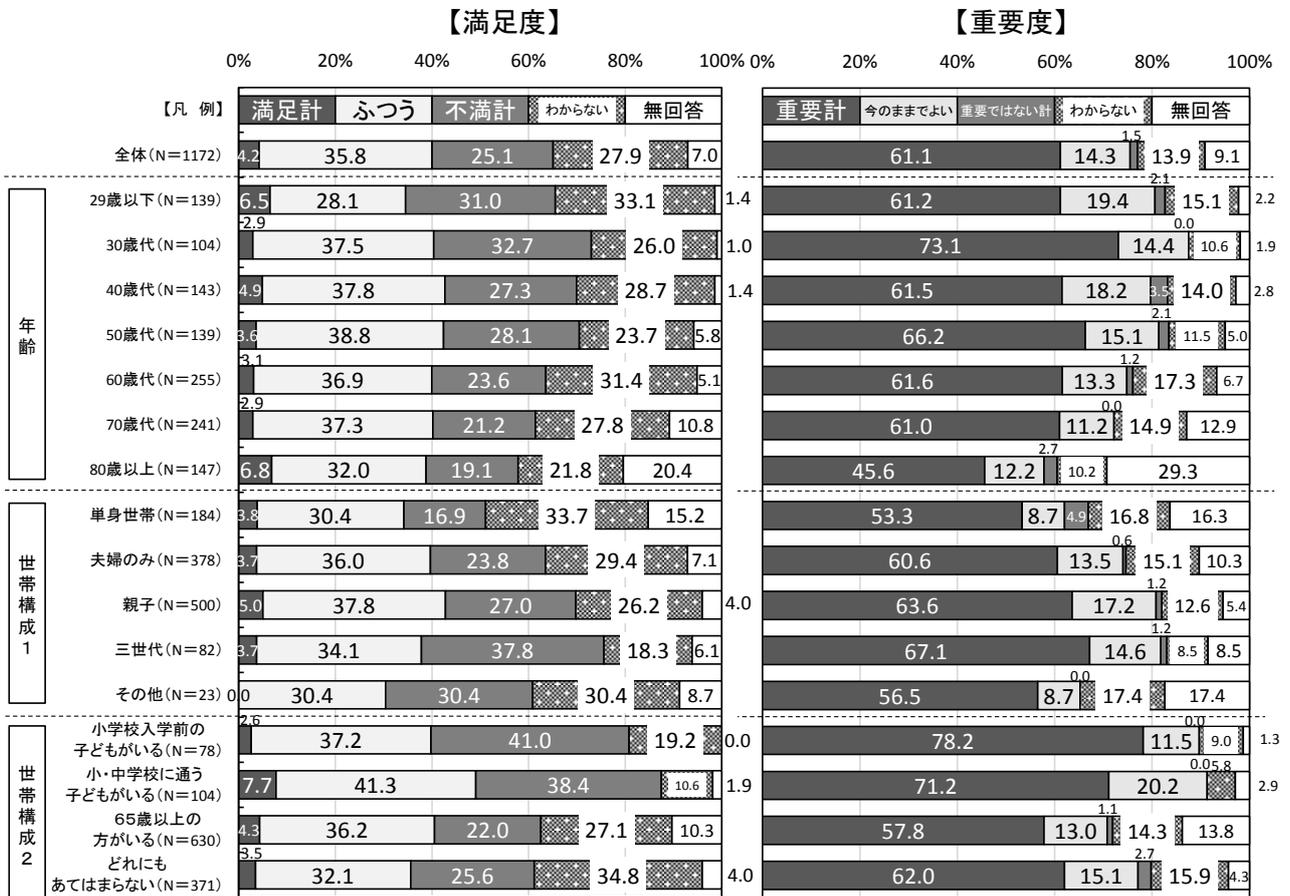


図 20 青少年の非行防止や子どもの居場所づくり（年齢・世帯構成別）

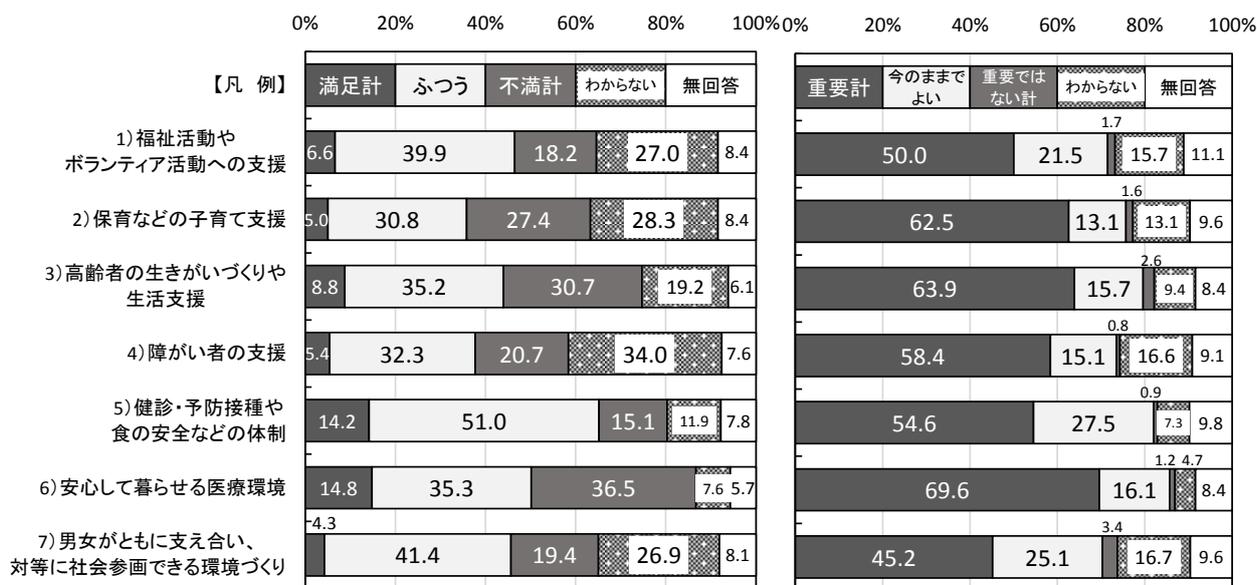


② 市民福祉に関する項目（満足度・重要度）

市民福祉に関する項目の現在の満足度と今後の重要度については、「安心して暮らせる医療環境」、「高齢者の生きがいがづくりや生活支援」及び「保育などの子育て支援」の項目で『重要計』が6割以上と高いものとなっている。

一方、「障がい者の支援」及び「保育などの子育て支援」は『重要計』が約6割と高いものの、満足度で「わからない」が3割前後となっている。

図 21 市民福祉に関する項目
【満足度】 【重要度】



特に『重要計』が高い「保育などの子育て支援」、「高齢者の生きがいがづくりや生活支援」及び「安心して暮らせる医療環境」の現在の満足度と今後の重要度を年齢別・世帯構成別で見た。

「保育などの子育て支援」を年齢別に見ると、年齢が低くなるにつれて『不満計』『重要計』ともに高くなる傾向がある。

世帯構成別に見ると、中学校以下に通う子どもがいる世帯では『不満計』が5割前後、『重要計』も7割以上と他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

「高齢者の生きがいがづくりや生活支援」を世帯構成別に見ると、三世帯世帯では『不満計』が4割以上、『重要計』も7割近くと他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

「安心して暮らせる医療環境」を年齢別に見ると、年齢が低くなるにつれて『不満計』が高くなる傾向がある。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯いずれも『不満計』が5割以上、『重要計』も8割前後と他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

図 22 保育などの子育て支援（年齢・世帯構成別）

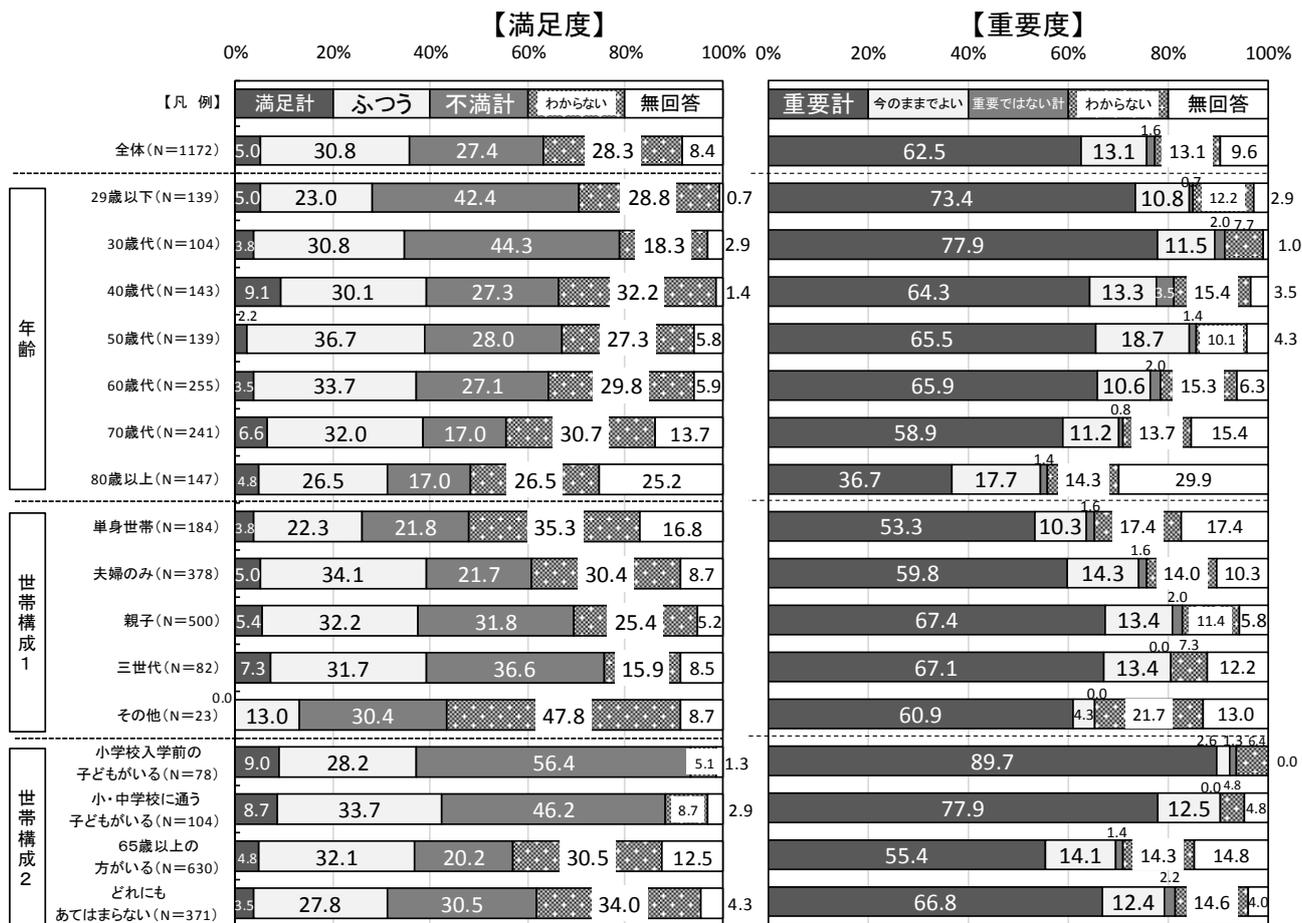


図 23 高齢者の生きがいづくりや生活支援（年齢・世帯構成別）

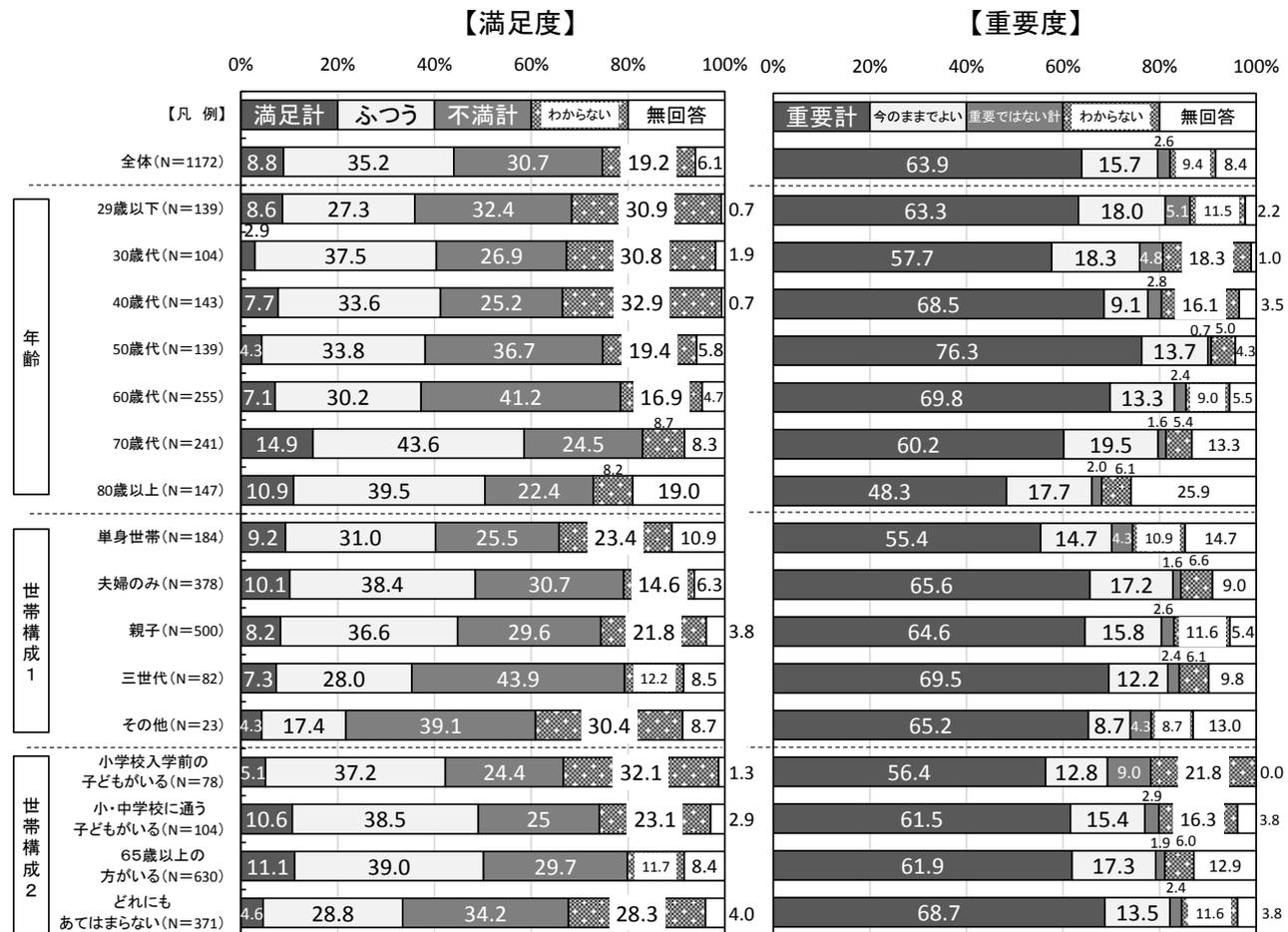
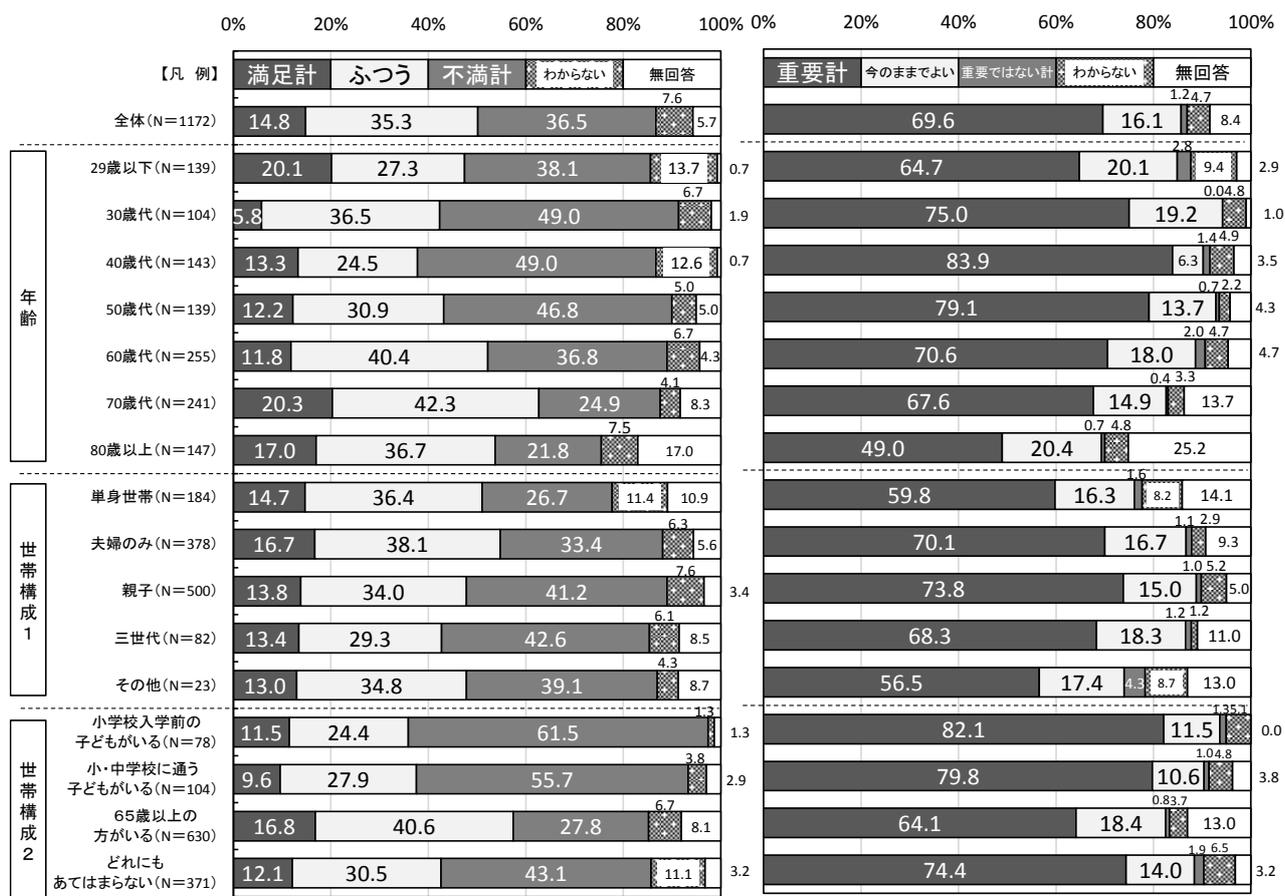


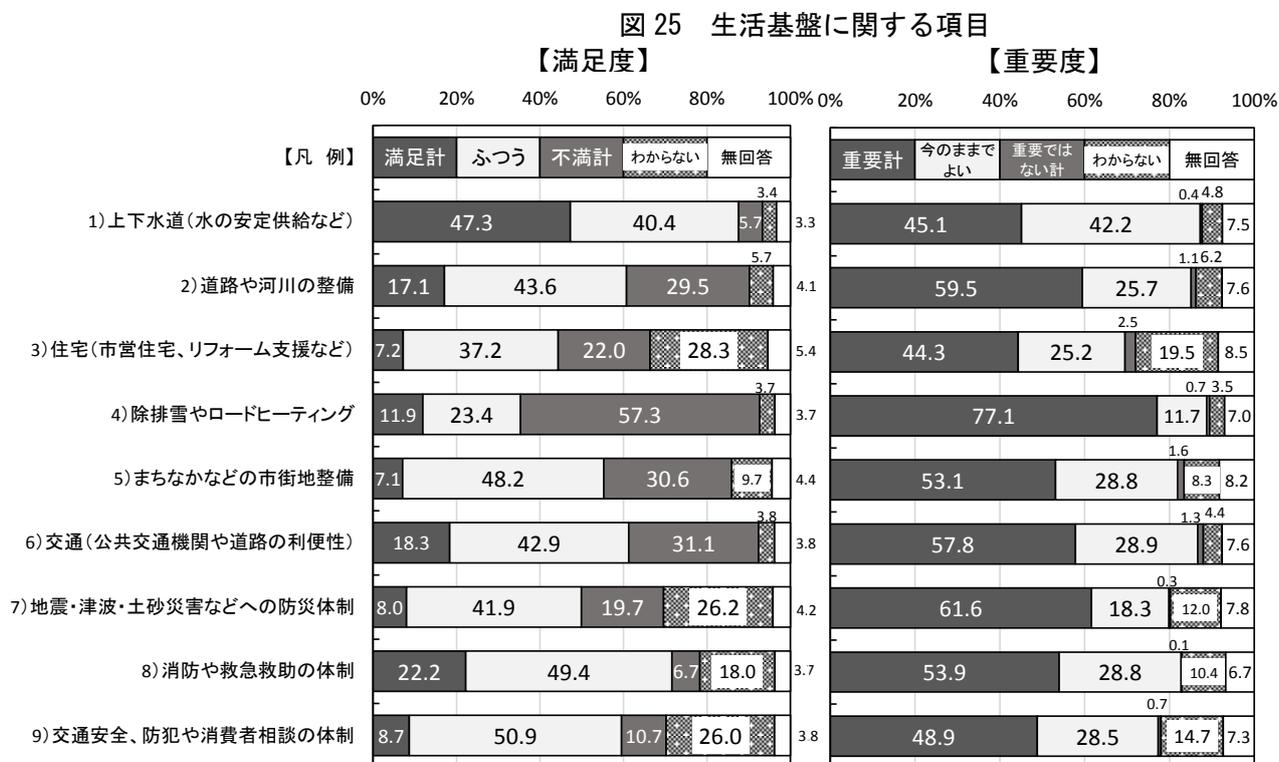
図 24 安心して暮らせる医療環境（年齢・世帯構成別）
【満足度】



③ 生活基盤に関する項目（満足度・重要度）

生活基盤に関する項目の現在の満足度と今後の重要度については、「上下水道（水の安定供給など）」は満足度が高く、「今のままでよい」も4割を超えている。

一方、「除排雪やロードヒーティング」は重要度が高く、かつ満足度が低いものとなっており、『不満計』は6割近く、『重要計』は8割近くと突出している。



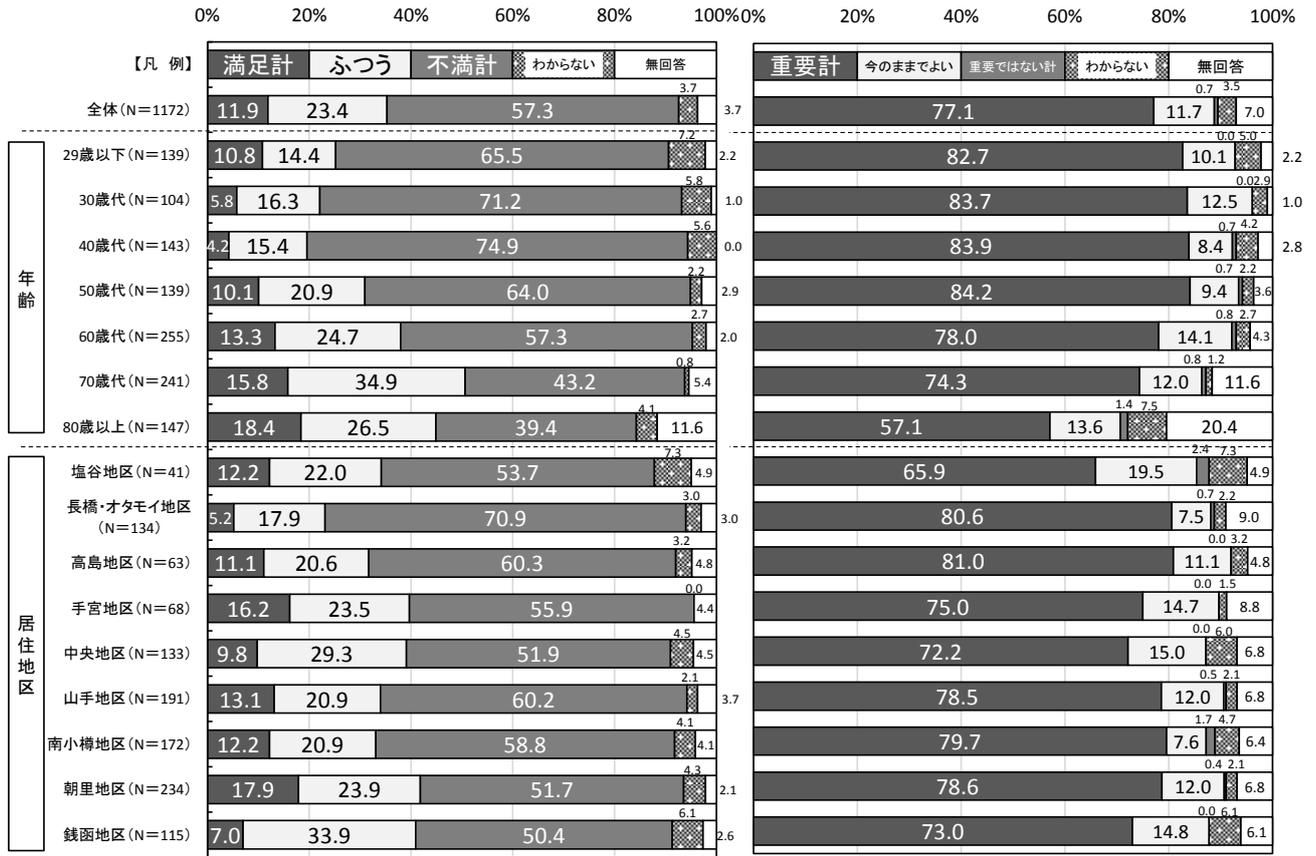
特に『重要計』が高い「除排雪やロードヒーティング」の現在の満足度と今後の重要度を年齢別・居住地区別で見た。

「除排雪やロードヒーティング」を年齢別に見ると、50歳代以下で『不満計』が6割を超えており、『重要計』は8割を超えている。

一方、70歳代以上では『不満計』は半数以下と他の年代に比べて少なく、『重要計』も80歳以上では6割を下回っている。

居住地区別に見ると、「長橋・オタモイ地区」で『不満計』が7割以上と他の地区に比べて高くなっている。

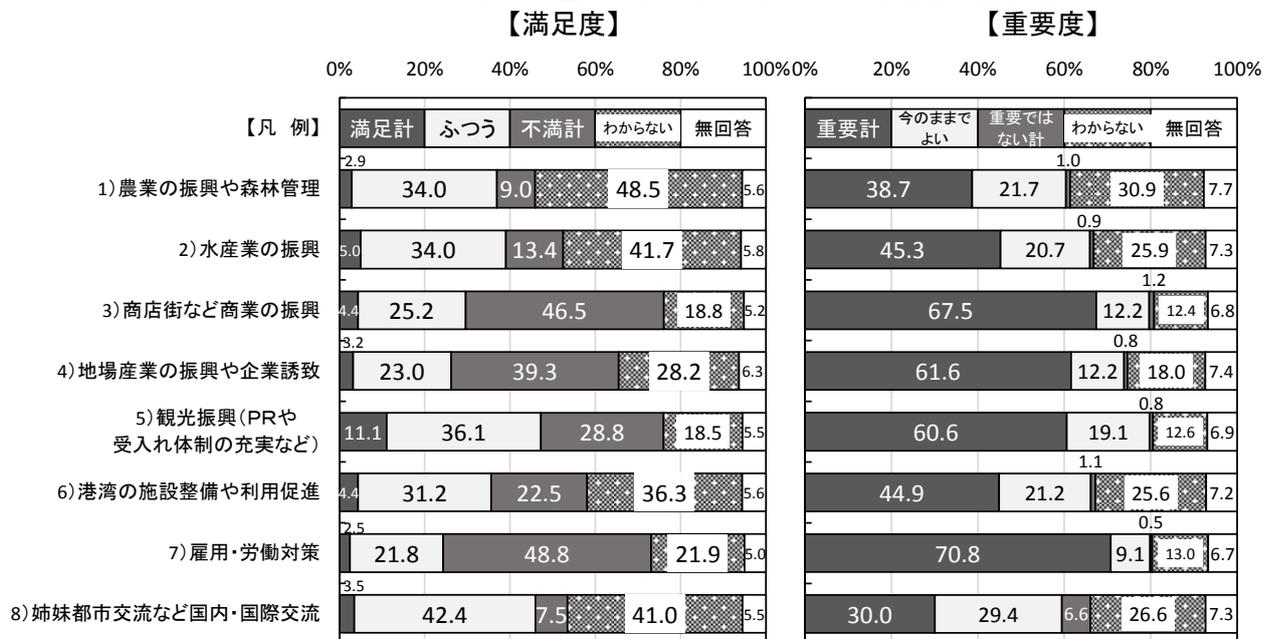
図 26 除排雪やロードヒーティング（年齢・居住地区別）
【満足度】 【重要度】



④ 産業振興に関する項目（満足度・重要度）

産業振興に関する項目の現在の満足度と今後の重要度については、「雇用・労働対策」において『重要計』が7割と高く、かつ『不満計』が半数近くになる。また、「商店街など商業の振興」についても『重要計』は7割近くと高く、『不満計』も4割を超えている。「農業の振興や森林管理」、「水産業の振興」及び「姉妹都市交流など国内・国際交流」は「わからない」が4割を超えている。

図 27 産業振興に関する項目（満足度・重要度）



特に『重要計』が高い「商店街など商業の振興」及び「雇用・労働対策」の現在の満足度と今後の重要度を年齢別・職業別・居住地区別で見た。

「商店街など商業の振興」を年齢別に見ると、80歳以上を除く年代で『重要計』がいずれも6～7割と多くなっている。

職業別で見ると、「自営業」で『不満計』が6割以上と他の職業より高く、『重要計』も8割と大幅に高くなっている。

居住地区別に見ると、「長橋・オタモイ地区」、「中央地区」及び「山手地区」は『不満計』が半数以上、『重要計』も7割前後と他の居住地区に比べて高くなっている。

「雇用・労働対策」を年齢別に見ると、60歳代以下の年代で『不満計』が半数以上を占め、『重要計』も7割以上と多くなっている。

職業別で見ると、「自営業」、「会社員」、「パート・アルバイト・派遣」及び「学生」で『不満計』が6割前後と他の職業より高くなっている。また、『重要計』は「無職」以外で7割以上となっており、特に「学生」では約8割に上っている。

居住地区別に見ると、「塩谷地区」は『不満計』が6割以上と、他の居住地区に比べて高くなっている。

図 28 商店街など商業の振興（年齢・職業・居住地区別）
【満足度】 【重要度】

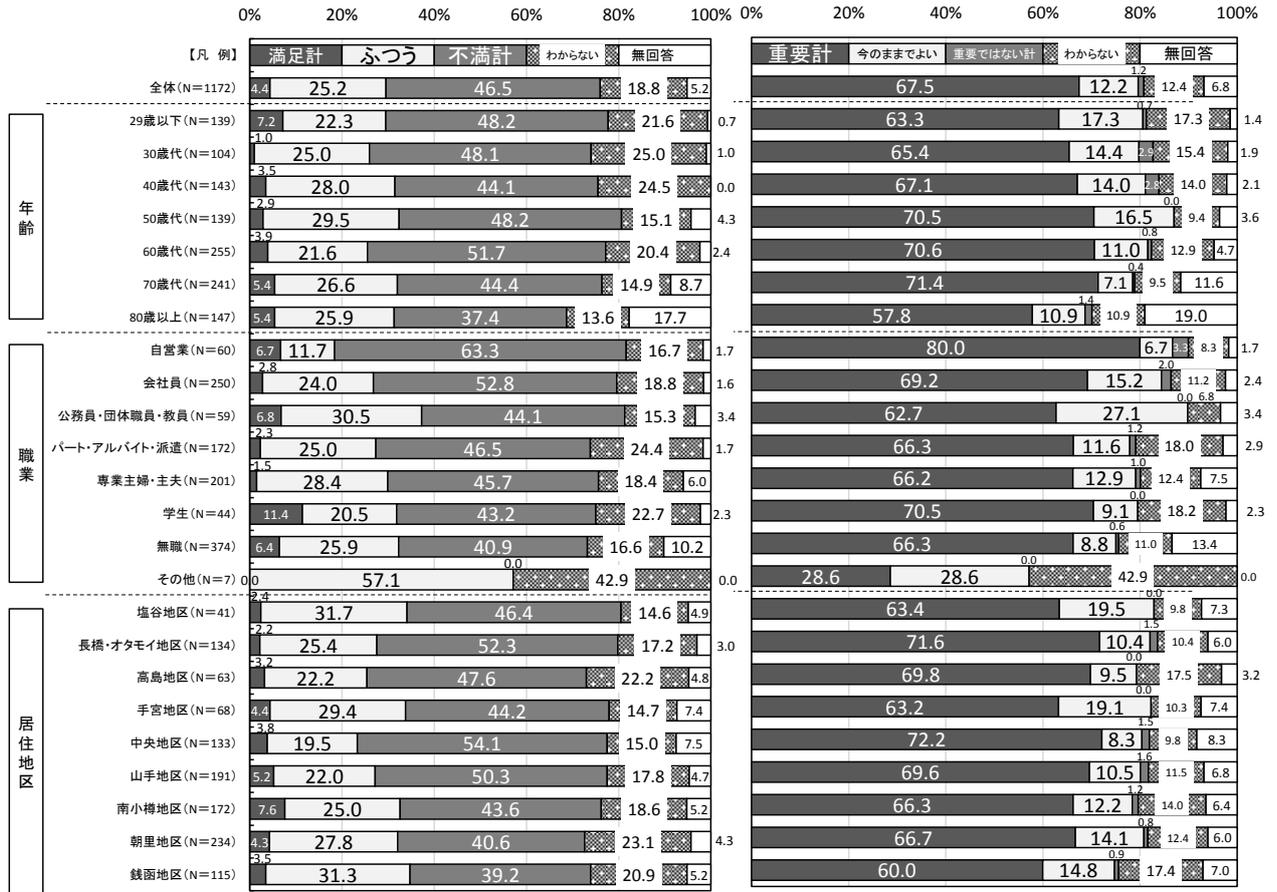
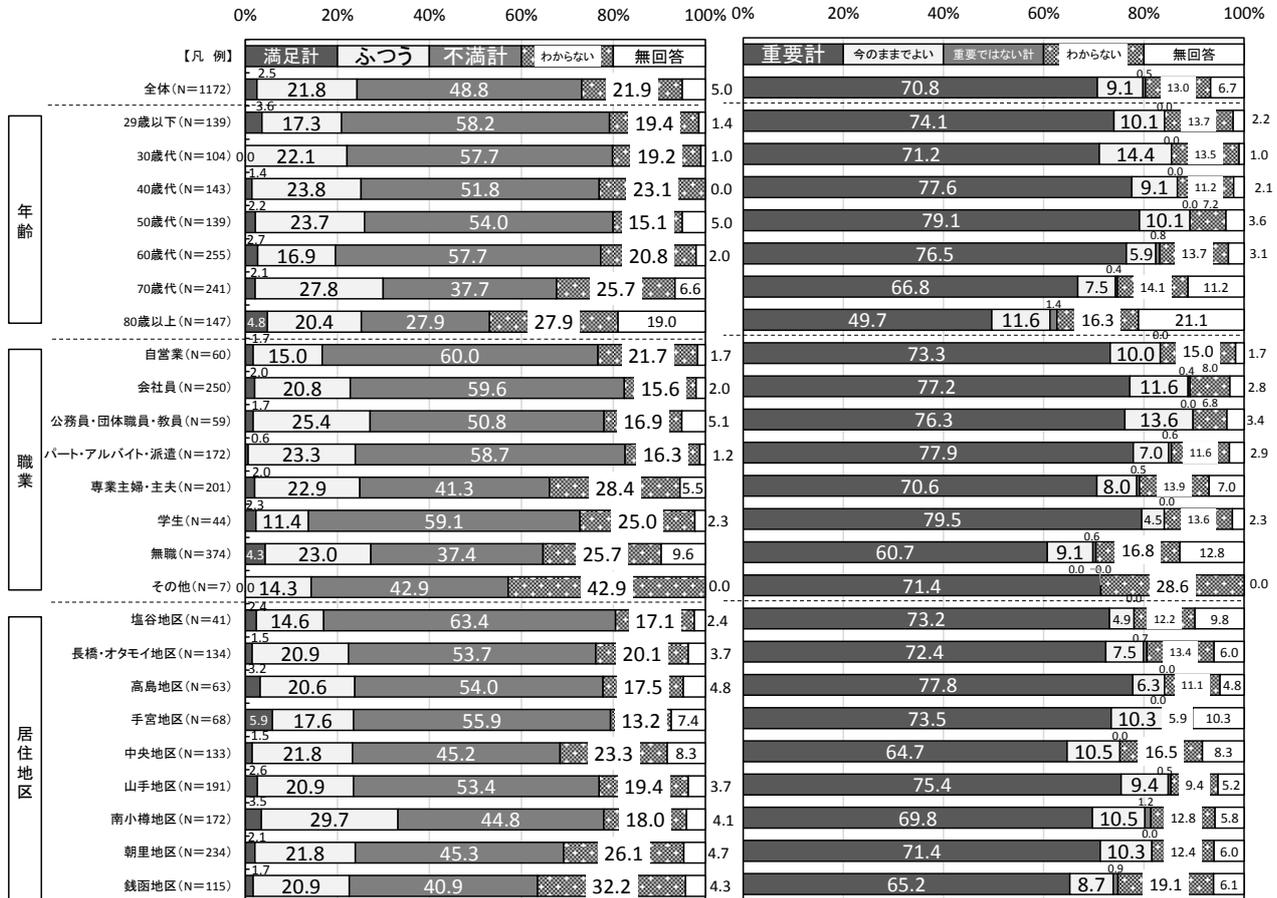


図 29 雇用・労働対策（年齢・職業・居住地区別）
【満足度】 【重要度】



⑤ 環境やまちなみに関する項目（満足度・重要度）

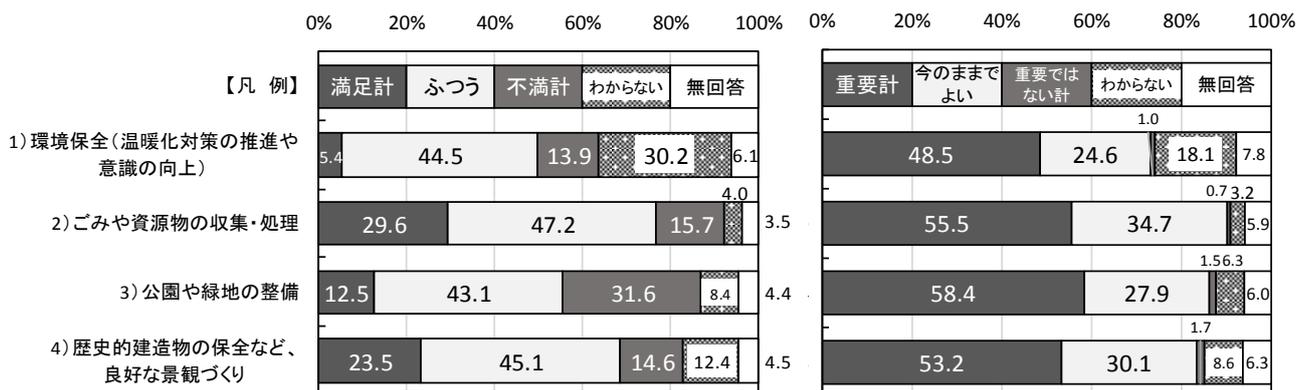
環境やまちなみに関する項目の現在の満足度と今後の重要度については、重要度では大きな違いはない。

満足度では「ごみや資源物の収集・処理」の『満足計』が約3割となっている。

一方、「公園や緑地の整備」では『不満計』が3割と他の項目に比べて高くなっている。

「環境保全（温暖化対策の推進や意識の向上）」については「わからない」と回答した人が3割となっている。

図 30 環境やまちなみに関する項目
【満足度】 【重要度】

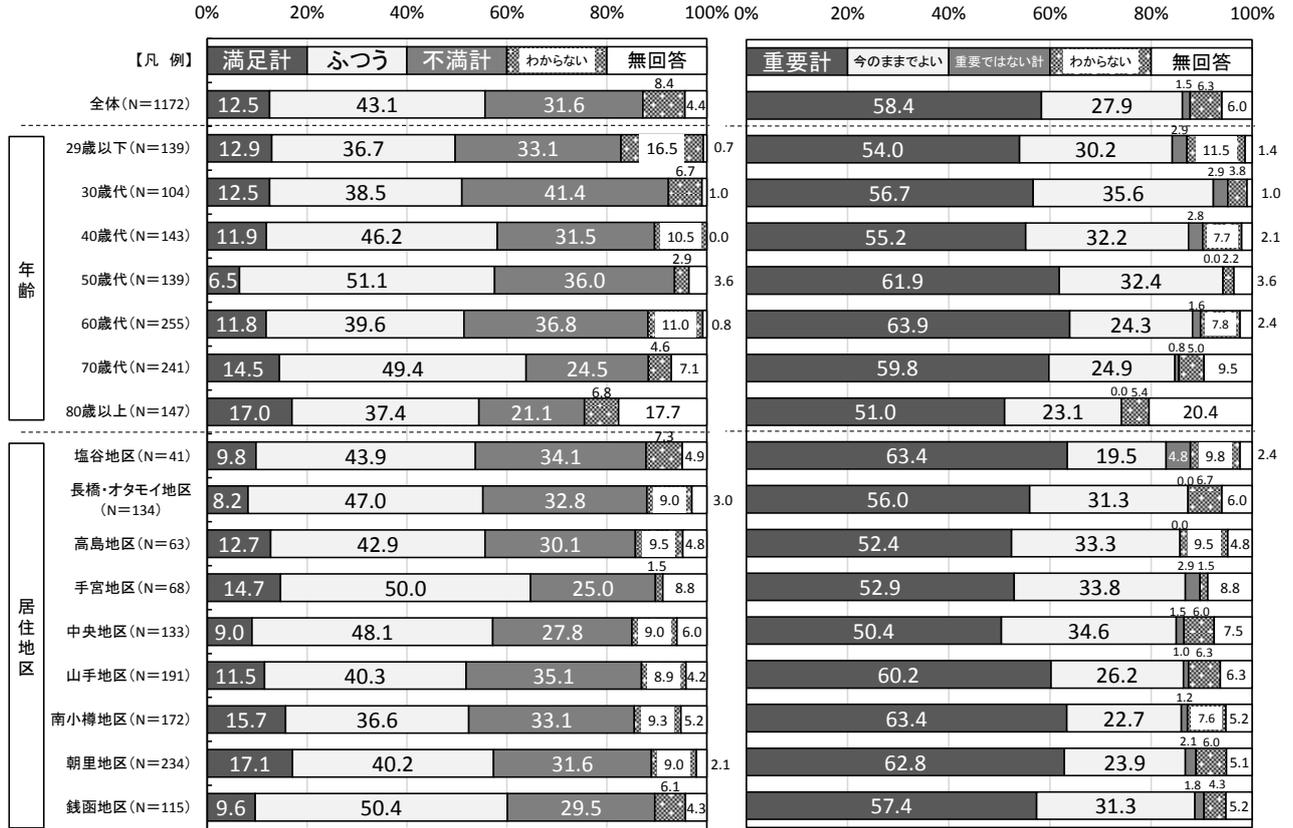


『不満計』が比較的高い「公園や緑地の整備」の現在の満足度と今後の重要度を年齢別・居住地区別で見た。

「公園や緑地の整備」を年齢別に見ると、30歳代で『不満計』が4割を超えている。

居住地区別にみると、「手宮地区」で『不満計』が25.0%と他の居住地区に比べて低くなっている。

図 31 公園や緑地の整備（年齢・居住地区別）
【満足度】 【重要度】



★ 項目全体の分析

⑥ 市政に対する現在の満足度

項目全体のスコアの平均値は-0.26と「ふつう」をやや下回る水準となっている。

現在の満足度の高いものとしては、「上下水道」「消防」「循環型社会」の順となっており、スコアがプラスの項目はこれらに「都市景観」を加えた4項目にとどまった。

一方、満足度の低いものとしては、「雇用・労働」「工業・企業立地」「除排雪」「商業」「子育て支援」が下位5項目となっている。

⑦ 市政の今後の重要度

項目全体のスコアの平均値は1.01と「やや重要」の水準となっている。

今後の重要度の高いものとしては、「雇用・労働」「除排雪」「地域医療」「学校教育」「子育て支援」が上位5項目となっており、スコアが1.0を超えた項目は13項目であった。

一方、重要度の低いものとしては、「国内・国際交流」のスコアが0.47と唯一0.5を割り込んでいるのが目立つ。

● 「満足度」及び「重要度」の回答を「わからない」「無回答」を除く5段階で点数化した平均値の高い順

市政に対する満足度（スコア）

項目	満足度
平均	-0.26
③-1) 上下水道	0.72
③-8) 消防	0.26
⑤-2) 循環型社会	0.20
⑤-4) 都市景観	0.12
②-5) 保健衛生	-0.03
③-9) 生活安全	-0.05
④-8) 国内・国際交流	-0.12
④-1) 農林業	-0.17
④-2) 水産業	-0.18
⑤-1) 環境保全	-0.18
③-2) 道路・河川	-0.19
①-2) 社会教育	-0.20
③-6) 交通	-0.20
②-1) 地域福祉	-0.24
③-7) 防災・危機管理	-0.24
①-1) 学校教育	-0.30
①-3) 文化・芸術	-0.30
②-7) 男女平等参画社会	-0.31
⑤-3) 公園・緑地	-0.32
①-4) スポーツ・レクリエーション	-0.33
③-3) 住宅	-0.33
④-5) 観光	-0.36
③-5) 市街地整備	-0.37
②-4) 障がい者福祉	-0.38
②-6) 地域医療	-0.38
②-3) 高齢者福祉	-0.43
①-5) 青少年	-0.44
④-6) 港湾	-0.44
②-2) 子育て支援	-0.50
④-3) 商業	-0.77
③-4) 除排雪	-0.78
④-4) 工業・企業立地	-0.79
④-7) 雇用・労働	-0.98

市政に対する重要度（スコア）

項目	重要度
平均	1.01
④-7) 雇用・労働	1.43
③-4) 除排雪	1.38
②-6) 地域医療	1.31
①-1) 学校教育	1.29
②-2) 子育て支援	1.26
④-4) 工業・企業立地	1.24
④-3) 商業	1.22
①-5) 青少年	1.21
③-7) 防災・危機管理	1.21
②-4) 障がい者福祉	1.19
②-3) 高齢者福祉	1.14
④-5) 観光	1.13
③-8) 消防	1.04
②-5) 保健衛生	0.98
③-2) 道路・河川	0.97
④-6) 港湾	0.97
④-2) 水産業	0.95
⑤-1) 環境保全	0.95
②-1) 地域福祉	0.93
③-9) 生活安全	0.93
③-6) 交通	0.92
⑤-3) 公園・緑地	0.92
⑤-2) 循環型社会	0.90
⑤-4) 都市景観	0.89
④-1) 農林業	0.86
③-5) 市街地整備	0.84
②-7) 男女平等参画社会	0.82
③-1) 上下水道	0.82
①-2) 社会教育	0.80
③-3) 住宅	0.80
①-4) スポーツ・レクリエーション	0.74
①-3) 文化・芸術	0.72
④-8) 国内・国際交流	0.47

(参考) スコア (点数) 化の定義

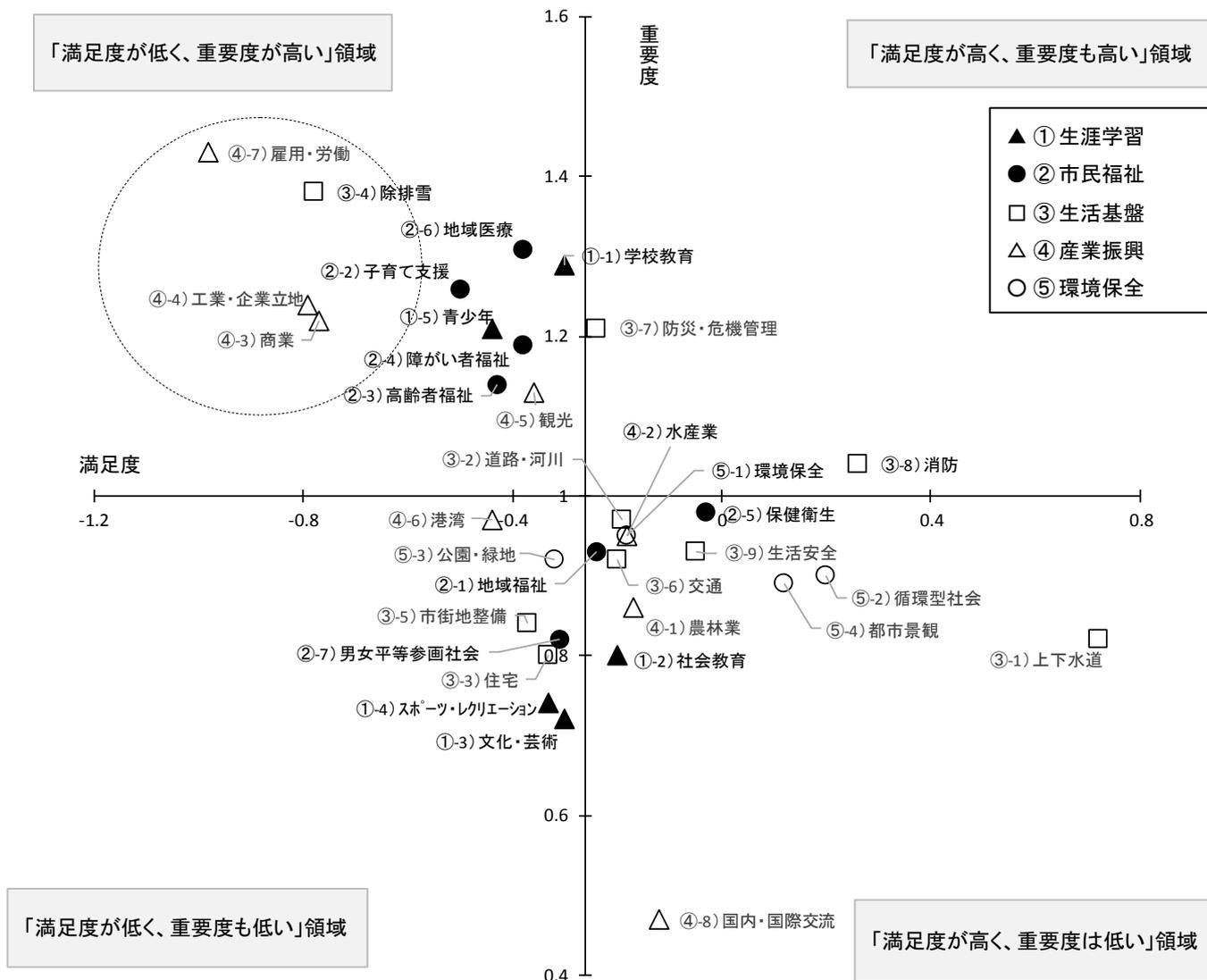
	点数
満足・重要	2
やや満足・やや重要	1
ふつう	0
やや不満・あまり重要ではない	-1
不満・重要ではない	-2
分からない	なし
無回答	なし

⑧ 現在の満足度と今後の重要度

各項目の相対的な位置付けを把握するため、「満足度」及び「重要度」それぞれの全項目の平均値を中心として、4つの領域に分類した。

今後重点的に取り組むべきと考えられる「満足度が低く、重要度が高い」領域のうち、「雇用・労働」「除排雪」「工業・企業立地」「商業」が特にその傾向が強いものとなっている。

図 32 現在の満足度・今後の重要度



※「満足度」及び「重要度」の回答を「わからない」「無回答」を除く5段階で点数化し、その平均値について「満足度」と「重要度」の関係をグラフ化。

※グラフの軸は「満足度」及び「重要度」それぞれの全項目の平均値。(満足度 -0.26、重要度 1.01)

(4) 市政に対する市民意見等について

① 市政に対する関心度

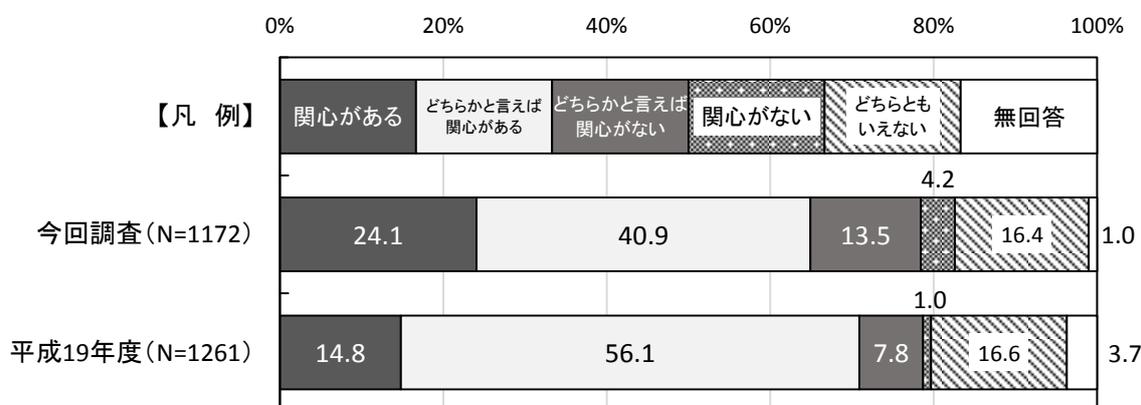
あなたは、市政についてどのくらい関心を持っていますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

市政に対する関心度については、「関心がある」(24.1%)及び「どちらかと言えば関心がある」(40.9%)を合わせた『関心がある計』は65.0%となっている。

一方、「関心がない」(4.2%)及び「どちらかと言えば関心がない」(13.5%)を合わせた『関心がない計』は17.7%となっている。

前回調査と比較したところ、『関心がある計』は約6ポイント減少し、『関心がない計』は約18%と、前回と比べて2倍に増えている。

図 33 市政に対する関心度（前回調査との比較）



注) 平成 19 年度は「非常に関心がある」「関心がある」「関心がない」「まったく関心がない」「どちらともいえない」の 5 項目であり、表現が異なる。

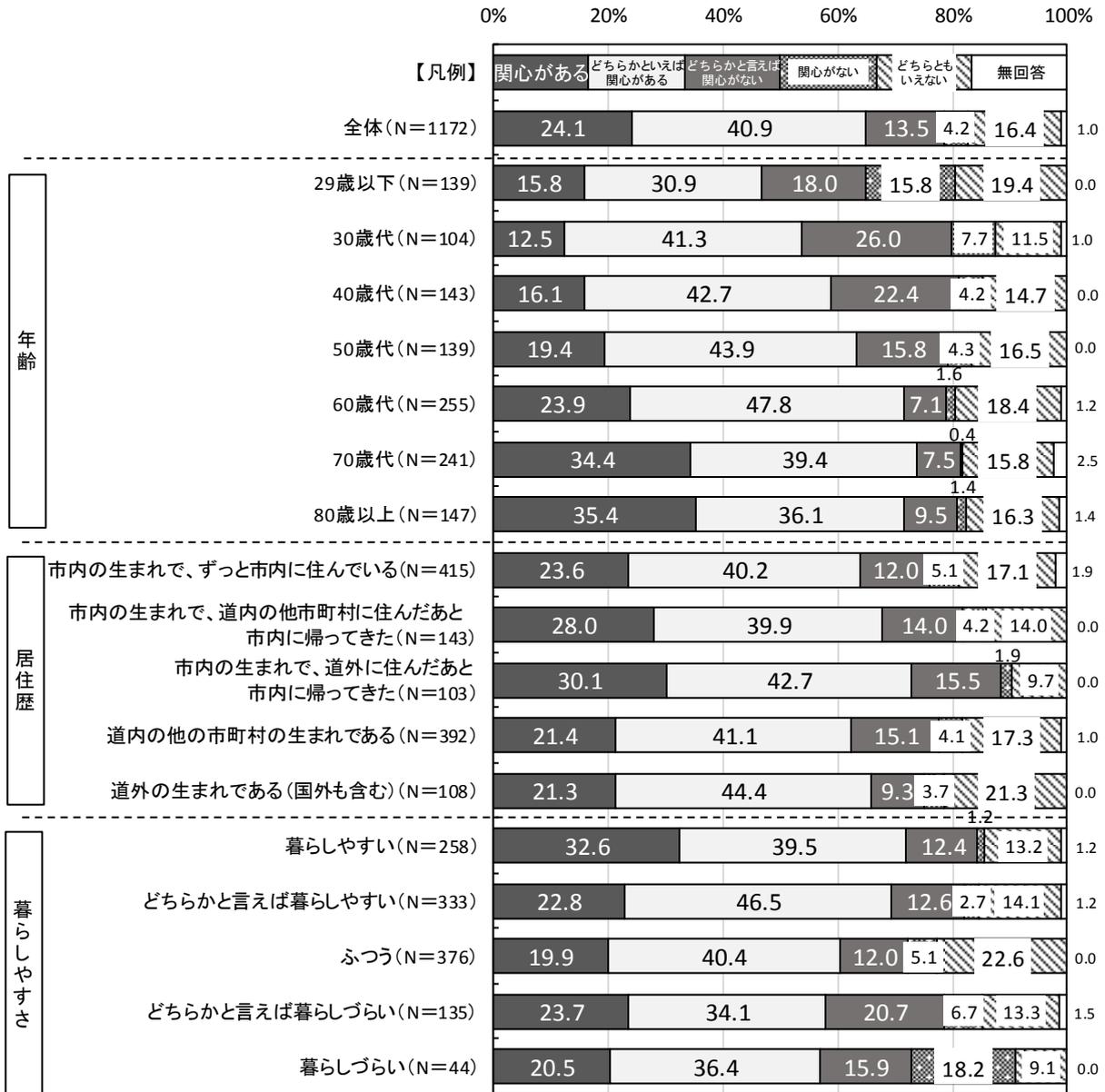
年齢別に見ると、概ね年代が高くなるにしたがって『関心がある計』は高くなる傾向がある。

一方、『関心がない計』は 30 歳代以下で 3 割を超えている。

居住歴別に見ると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」人より、「市内の生まれで他市町村に住んだことのある」人の方が、『関心がある計』の割合がやや高くなっている。

暮らしやすさ別に見ると、「暮らしやすい」と感じている人ほど『関心がある計』割合が高くなる傾向がある。

図 34 市政に対する関心度（年齢・居住歴・暮らしやすさ別）



② 市政に対する市民意見等の反映度

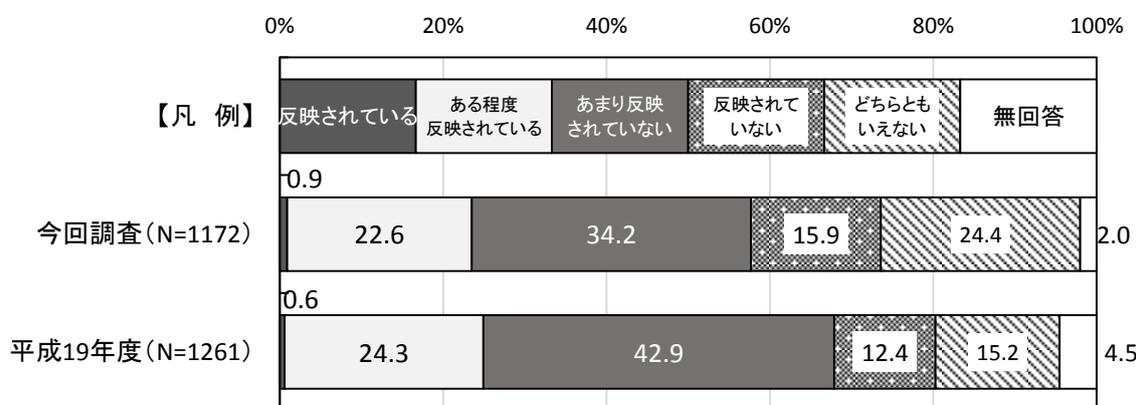
あなたは、市民の意見や要望が市政に反映されていると思いますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

市政に対する市民意見等の反映度については、「あまり反映されていない」(34.2%)及び「反映されていない」(15.9%)を合わせた『反映されていない計』は50.1%と半数を占めている。

一方、「反映されている」(0.9%)及び「ある程度反映されている」(22.6%)を合わせた『反映されている計』は23.5%にとどまっている。

前回調査と比較して『反映されている計』はほとんど変わらないが、『反映されていない計』は約5ポイント減少している。

図 35 市政に対する市民意見等の反映度（前回調査との比較）



注) 平成19年度では「よく反映されている」「反映されている」「反映されていない」「まったく反映されていない」「どちらともいえない」の5項目であり、表現が異なる。

年齢別に見ると、70歳代以上では、『反映されている計』が3割以上であるが、60歳代以下では2割前後となっている。

一方、30歳代では6割以上が『反映されていない計』と回答している。

居住歴別に見ると、「市内の生まれで、道外に住んだあと市内に帰ってきた人」は、『反映されていない計』の割合が約6割と高くなっている。

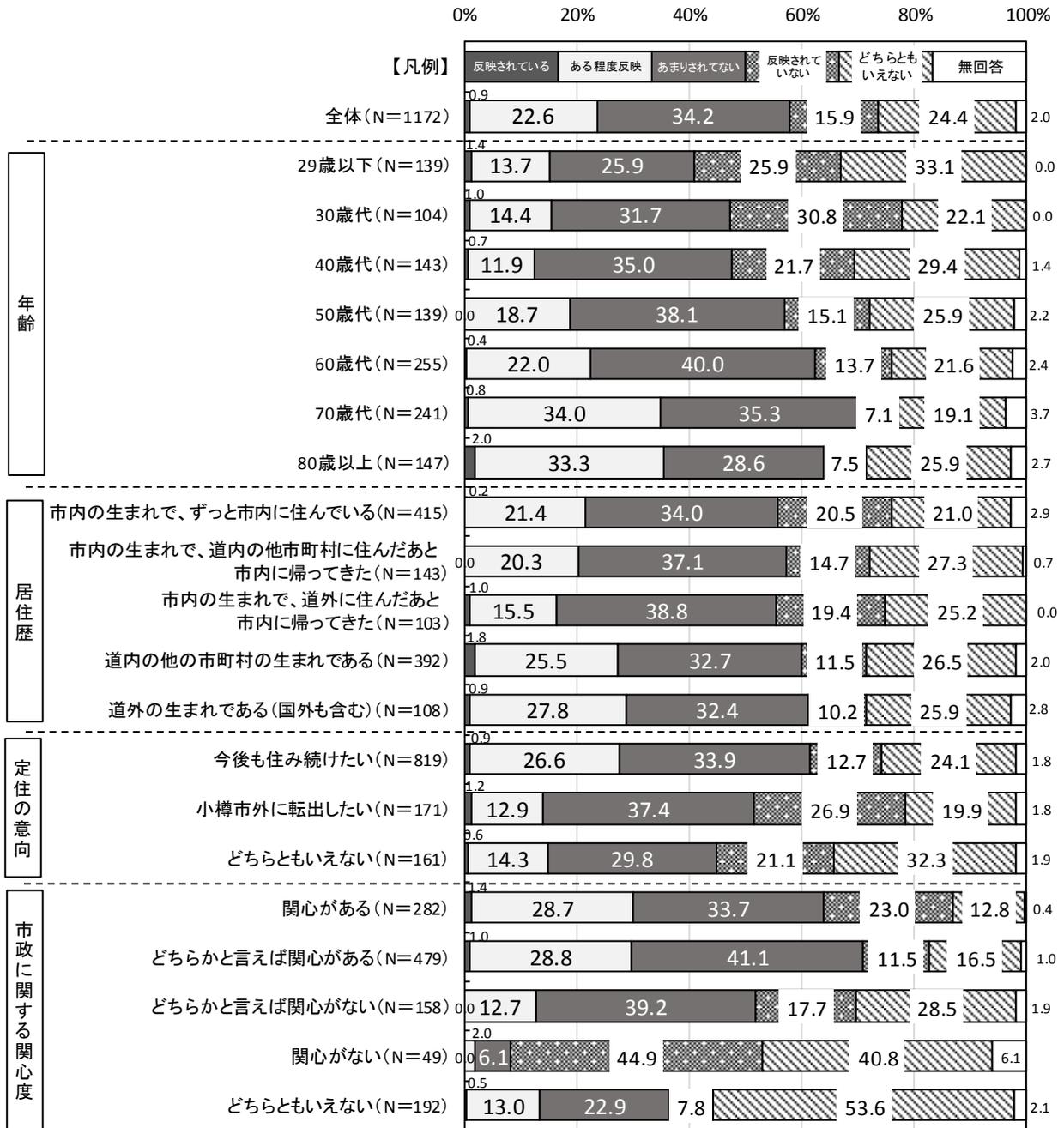
定住の意向別に見ると、「今後も住み続けたい」人ほど『反映されている計』の割合が高くなっている。

一方、「小樽市外に転出したい」人は『反映されていない計』が6割以上と高くなっている。

市政に関する関心度別に見ると、「関心がある」及び「どちらかといえば関心がある」は、どちらも『反映されている計』の割合が『関心がない計』に比べて3割前後と高くなっている。

一方、「どちらともいえない」を除く全ての項目で『反映されていない計』が半数を超えている。また、『関心がない計』では、「どちらともいえない」の割合が高くなる傾向がある。

図 36 市政に対する市民意見等の反映度
 (年齢・居住歴・定住の意向・市政に関する関心度別)

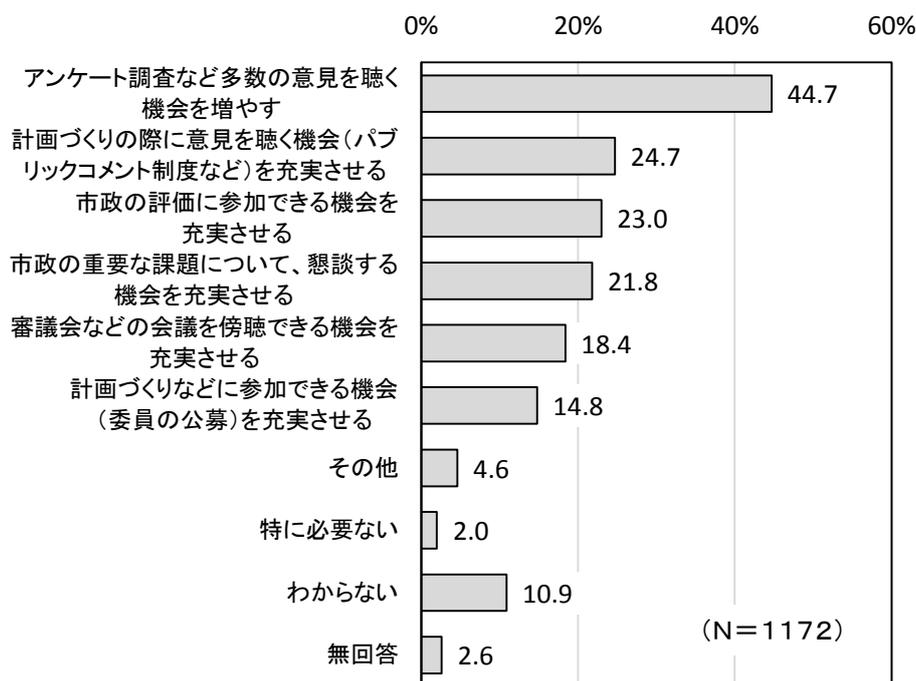


③ 市民意見を市政に反映させるための方策

市民の意見を市政に反映させるために、何が重要だと思いますか。次の中から当てはまるものを二つまで選び、番号に○印をつけてください。

市民意見を市政に反映させるための方策については、「アンケート調査など多数の意見を聴く機会を増やす」が44.7%と最も多くなっている。以下、「計画づくりの際に意見を聴く機会（パブリックコメント制度など）を充実させる」（24.7%）、「市政の評価に参加できる機会を充実させる」（23.0%）、「市政の重要な課題について、懇談する機会を充実させる」（21.8%）などとなっている。

図 37 市民意見を市政に反映させるための方策



年齢別に見ると、29歳以下では「市政の評価に参加できる機会を充実させる」が他の年代に比べて高くなっている。また、40歳代・50歳代では他の年代に比べて「計画づくりの際に意見を聴く機会（パブリックコメント制度など）を充実させる」が高く、60歳代・70歳代では「審議会などの会議を傍聴できる機会を充実させる」が高くなっている。

市政に関する関心度別に見ると、「関心がある」割合が高いほど、全ての項目において概ね高くなっている。また、「関心がない」割合が高い人ほど「わからない」の割合も高くなっている。

表4 市民意見を市政に反映させるための方策（年齢・市政に対する関心度別）

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	市民意見を市政に反映させるための方策												
		募 で 計 を 充 実 さ せ る	計 画 づ く り の 機 会 を 充 実 さ せ る	を 充 実 さ せ る 機 会 を 充 実 さ せ る	計 画 づ く り の 機 会 を 充 実 さ せ る	審 議 会 な ど の 機 会 を 充 実 さ せ る	充 実 さ せ る 機 会 を 充 実 さ せ る	市 政 の 重 要 な 課 題 に つ い て 、 懇 談 す る 機 会 を 充 実 さ せ る	市 政 の 評 価 に 参 加 す る 機 会 を 充 実 さ せ る	増 や す ア ン ケ ー ト 調 査 な ど 多 数 の 意 見 を 聴 く 機 会 を 充 実 さ せ る	そ の 他	特 に 必 要 な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	1172 100.0	173 14.8	289 24.7	216 18.4	256 21.8	269 23.0	524 44.7	54 4.6	24 2.0	128 10.9	31 2.6			
年齢	29歳以下	139 100.0	30 21.6	26 18.7	24 17.3	22 15.8	47 33.8	53 38.1	9 6.5	5 3.6	16 11.5	-	-	
	30歳代	104 100.0	17 16.3	26 25.0	12 11.5	18 17.3	24 23.1	50 48.1	9 8.7	2 1.9	12 11.5	1	1.0	
	40歳代	143 100.0	16 11.2	40 28.0	17 11.9	30 21.0	29 20.3	79 55.2	11 7.7	5 3.5	15 10.5	-	-	
	50歳代	139 100.0	27 19.4	44 31.7	26 18.7	27 19.4	33 23.7	61 43.9	5 3.6	1 0.7	13 9.4	1	0.7	
	60歳代	255 100.0	39 15.3	61 23.9	55 21.6	66 25.9	61 23.9	114 44.7	5 2.0	4 1.6	25 9.8	8	3.1	
	70歳代	241 100.0	26 10.8	53 22.0	64 26.6	60 24.9	54 22.4	105 43.6	8 3.3	-	-	24 10.0	16	6.6
	80歳以上	147 100.0	18 12.2	39 26.5	17 11.6	32 21.8	21 14.3	59 40.1	6 4.1	7 4.8	23 15.6	5	3.4	
市政に対する関心度	関心がある	282 100.0	47 16.7	92 32.6	72 25.5	84 29.8	65 23.0	141 50.0	16 5.7	3 1.1	3 1.1	4	1.4	
	どちらかと言えば関心がある	479 100.0	77 16.1	127 26.5	92 19.2	114 23.8	124 25.9	231 48.2	28 5.8	6 1.3	23 4.8	11	2.3	
	どちらかと言えば関心がない	158 100.0	25 15.8	32 20.3	25 15.8	34 21.5	35 22.2	69 43.7	5 3.2	6 3.8	26 16.5	1	0.6	
	関心がない	49 100.0	2 4.1	7 14.3	4 8.2	5 10.2	8 16.3	16 32.7	2 4.1	6 12.2	13 26.5	1	2.0	
	どちらともいえない	192 100.0	22 11.5	31 16.1	23 12.0	18 9.4	36 18.8	65 33.9	3 1.6	3 1.6	63 32.8	5	2.6	

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

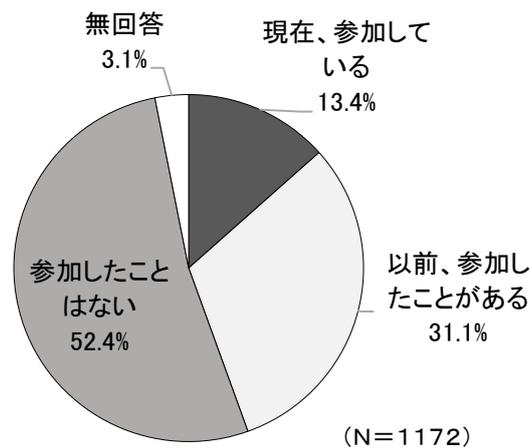
(5) まちづくりへの参加について

① - 1 まちづくりへのこれまでの参加状況

あなたは、まちづくりのための市民活動（町内会活動を含む）に参加したことがありますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

まちづくりへのこれまでの参加については、「参加したことはない」が52.4%と半数を超えており、以下、「以前、参加したことがある」(31.1%)、「現在、参加している」(13.4%)の順となっている。

図 38 まちづくりへのこれまでの参加



年齢別に見ると、年代が高くなるほど「参加したことはない」の割合は低くなり、参加した経験がある人が高くなる傾向がある。

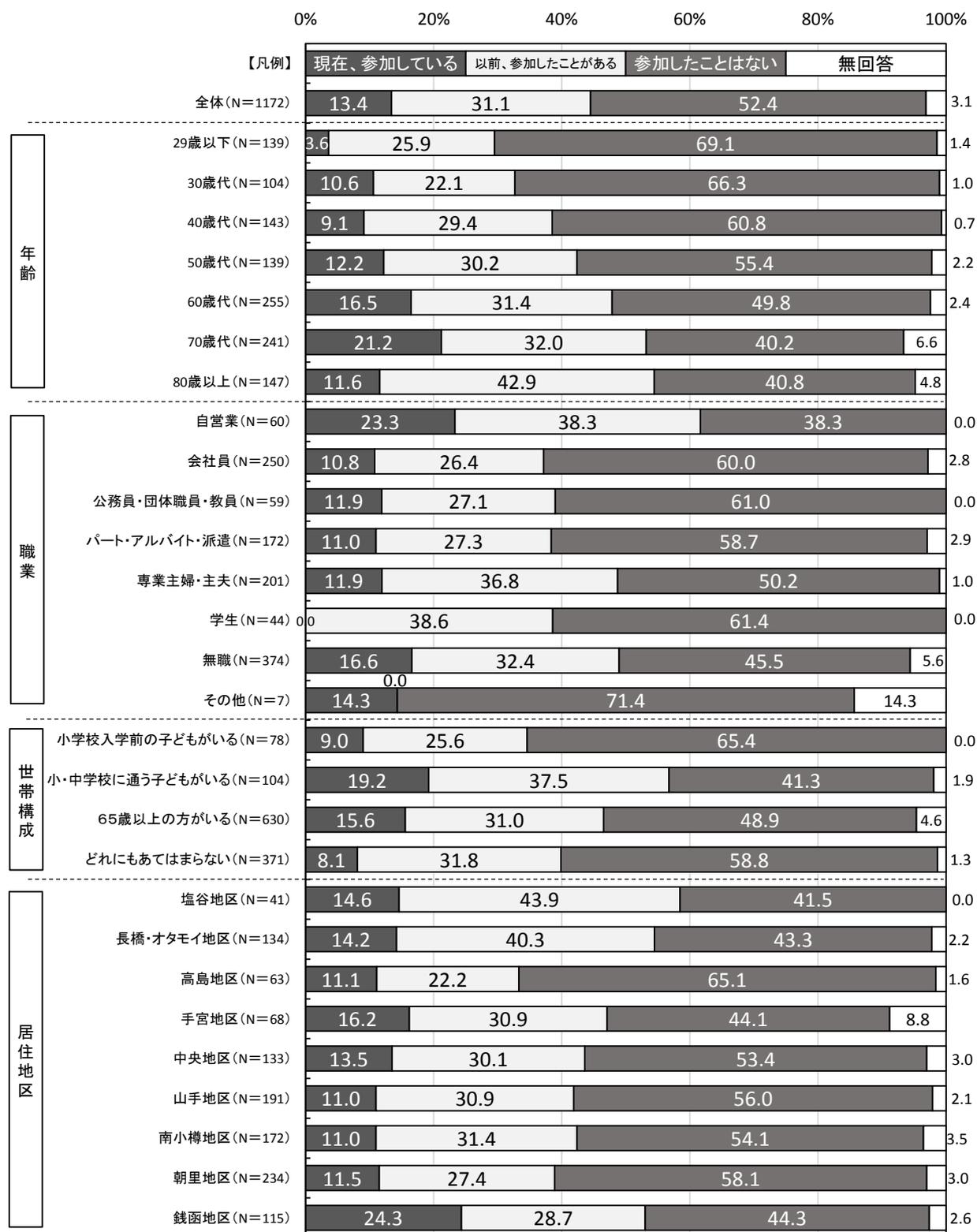
職業別に見ると、「自営業」で「現在、参加している」人が2割と高く、「自営業」及び「無職」以外の職業では半数以上が「参加したことはない」となっている。

世帯構成別に見ると、「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「現在、参加している」及び「以前、参加したことがある」ともに他の世帯より高くなっている。

居住地区別に見ると、「銭函地区」で「現在、参加している」が2割以上と他の地区に比べて高くなっている。また、「塩谷地区」及び「長橋・オタモイ地区」で「以前、参加したことがある」が4割以上と高くなっている。

一方、「高島地区」では「参加したことはない」の割合が6割以上と他の地区に比べて高くなっている。

図 39 まちづくりへのこれまでの参加（年齢・職業・世帯構成・居住地区別）



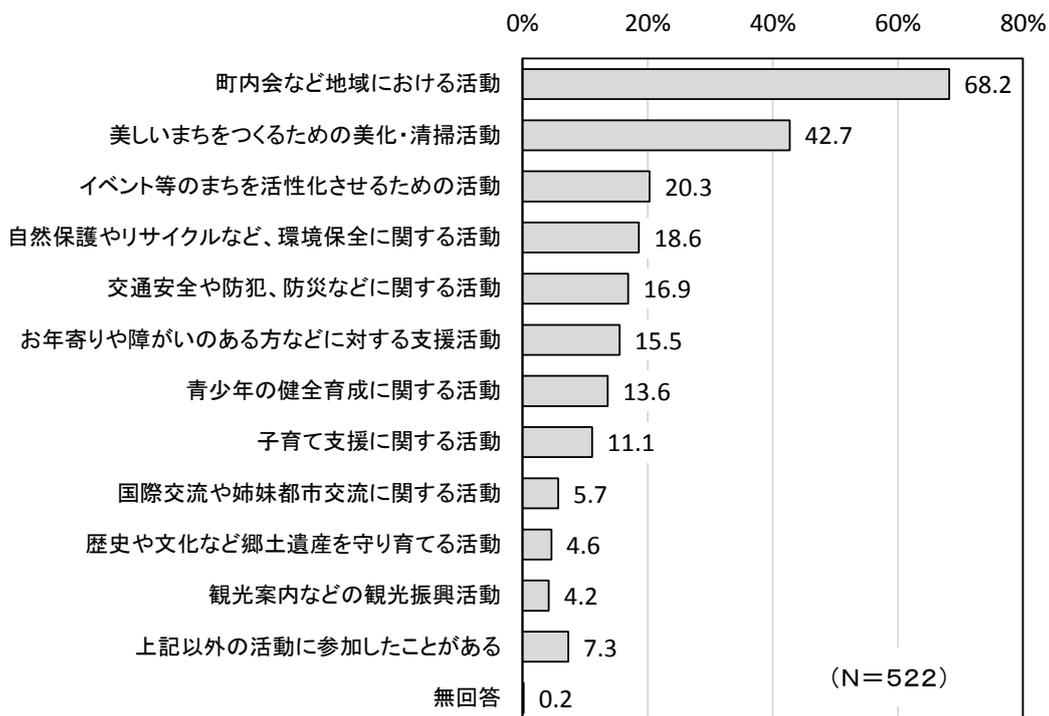
①-2 これまでの参加分野

「①-1」で「1」、「2」と答えた方のみお答えください。

あなたは、これまでどのようなまちづくりに参加しましたか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

前問でまちづくりのための市民活動に参加したことがある 522 人に対する、これまでの参加分野についての質問では、「町内会などの地域における活動」が 68.2%と突出しており、「美しいまちを作るための美化・清掃活動」も 42.7%と 4 割を超えて高くなっている。以下「イベント等のまちを活性化させるための活動」(20.3%)、「自然保護やリサイクルなど、環境保全に関する活動」(18.6%) の順となっている。

図 40 これまでの参加分野



性別に見ると、男性は「青少年の健全育成に関する活動」が女性よりも 12.6 ポイント多くなっている。

年齢別に見ると、40 歳代以上で年代が高くなるほど「町内会など地域における活動」の割合は高くなる傾向がある。それとは逆に年代が低くなるほど「イベント等のまちを活性化させるための活動」は高くなる傾向がみられる。また、40 歳代及び 50 歳代で「美しいまちをつくるための美化・清掃活動」の割合が他の年代に比べてやや低い。

世帯構成別で見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「子育て支援に関する活動」及び「イベント等のまちを活性化させるための活動」が他の世帯に比べて高くなっている。

居住地区別で見ると、「塩谷地区」では、「美しいまちをつくるための美化・清掃活動」が6割以上と高く、逆に「手宮地区」では低くなっている。

一方、「高島地区」では「自然保護やリサイクルなど、環境保全に関する活動」が他の地区に比べて低くなっている。また、「中央地区」では「イベント等のまちを活性化させるための活動」が他の地区に比べて高く、逆に「塩谷地区」では低くなっている。

表5 これまでの参加分野（性別・年齢・世帯構成・居住地区別）

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	これまでの参加分野														無回答
		掃除のための美化・清掃活動	美しいまちをつくるための美化・清掃活動	するある方や障がい者に対する活動	子育て支援に関する活動	青少年の健全育成に関する活動	歴史や文化を継承する活動	全土に関する活動	自然保護やリサイクルに関する活動	町内会など地域に活動する活動	防災など安全に関する活動	交通安全や防犯に関する活動	観光振興活動	国際交流や姉妹都市に関する活動	イベント等のまちを活性化させる活動	
全体	522 100.0	223 42.7	81 15.5	58 11.1	71 13.6	24 4.6	97 18.6	356 68.2	88 16.9	22 4.2	30 5.7	106 20.3	38 7.3	1 0.2		
性別																
男性	234 100.0	103 44.0	34 14.5	21 9.0	48 20.5	18 7.7	44 18.8	162 69.2	49 20.9	10 4.3	12 5.1	48 20.5	18 7.7	1 0.4		
女性	285 100.0	119 41.8	47 16.5	37 13.0	23 8.1	6 2.1	53 18.6	192 67.4	39 13.7	12 4.2	18 6.3	57 20.0	20 7.0	-		
年齢																
29歳以下	41 100.0	17 41.5	7 17.1	5 12.2	2 4.9	2 4.9	6 14.6	21 51.2	4 9.8	4 9.8	4 9.8	15 36.6	3 7.3	-		
30歳代	34 100.0	14 41.2	6 17.6	4 11.8	5 14.7	1 2.9	6 17.6	17 50.0	6 17.6	1 2.9	2 5.9	10 29.4	3 8.8	-		
40歳代	55 100.0	19 34.5	8 14.5	5 9.1	6 10.9	-	5 9.1	37 67.3	3 5.5	1 1.8	4 7.3	15 27.3	4 7.3	-		
50歳代	59 100.0	22 37.3	5 8.5	13 22.0	11 18.6	4 6.8	10 16.9	38 64.4	10 16.9	2 3.4	6 10.2	11 18.6	4 6.8	-		
60歳代	122 100.0	56 45.9	16 13.1	18 14.8	14 11.5	4 3.3	31 25.4	83 68.0	22 18.0	3 2.5	4 3.3	22 18.0	8 6.6	-		
70歳代	128 100.0	57 44.5	26 20.3	9 7.0	17 13.3	10 7.8	19 14.8	100 78.1	26 20.3	10 7.8	5 3.9	19 14.8	10 7.8	-		
80歳以上	80 100.0	38 47.5	13 16.3	4 5.0	16 20.0	3 3.8	20 25.0	57 71.3	17 21.3	1 1.3	5 6.3	13 16.3	6 7.5	1 1.3		
世帯構成																
小学校入学前の子どもがいる	27 100.0	10 37.0	3 11.1	8 29.6	3 11.1	1 3.7	6 22.2	15 55.6	5 18.5	-	1 3.7	9 33.3	1 3.7	-		
小・中学校に通う子どもがいる	59 100.0	21 35.6	7 11.9	10 16.9	11 18.6	1 1.7	12 20.3	43 72.9	11 18.6	1 1.7	2 3.4	19 32.2	5 8.5	-		
65歳以上の方がいる	293 100.0	133 45.4	54 18.4	26 8.9	43 14.7	17 5.8	57 19.5	214 73.0	52 17.7	14 4.8	13 4.4	46 15.7	19 6.5	1 0.3		
どれにもあてはまらない	148 100.0	60 40.5	17 11.5	17 11.5	16 10.8	6 4.1	25 16.9	88 59.5	20 13.5	7 4.7	14 9.5	33 22.3	13 8.8	-		
居住地区																
塩谷地区	24 100.0	16 66.7	2 8.3	4 16.7	2 8.3	-	5 20.8	18 75.0	5 20.8	-	-	2 8.3	1 4.2	-		
長橋・オタモイ地区	73 100.0	28 38.4	9 12.3	10 13.7	5 6.8	1 1.4	20 27.4	55 75.3	10 13.7	4 5.5	4 5.5	13 17.8	4 5.5	-		
高島地区	21 100.0	11 52.4	5 23.8	2 9.5	3 14.3	2 9.5	1 4.8	15 71.4	5 23.8	2 9.5	2 9.5	3 14.3	3 14.3	-		
手宮地区	32 100.0	9 28.1	6 18.8	5 15.6	6 18.8	1 3.1	5 15.6	19 59.4	8 25.0	-	-	7 21.9	3 9.4	-		
中央地区	58 100.0	25 43.1	8 13.8	6 10.3	11 19.0	4 6.9	6 10.3	39 67.2	9 15.5	4 6.9	7 12.1	18 31.0	5 8.6	1 1.7		
山手地区	80 100.0	33 41.3	14 17.5	9 11.3	12 15.0	5 6.3	14 17.5	51 63.8	11 13.8	4 5.0	3 3.8	19 23.8	2 2.5	-		
南小樽地区	73 100.0	27 37.0	11 15.1	7 9.6	4 5.5	3 4.1	14 19.2	48 65.8	10 13.7	2 2.7	4 5.5	8 11.0	6 8.2	-		
朝里地区	91 100.0	44 48.4	16 17.6	9 9.9	18 19.8	4 4.4	20 22.0	57 62.6	16 17.6	5 5.5	5 5.5	23 25.3	7 7.7	-		
銭函地区	61 100.0	27 44.3	9 14.8	5 8.2	8 13.1	4 6.6	11 18.0	47 77.0	12 19.7	1 1.6	5 8.2	10 16.4	6 9.8	-		

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

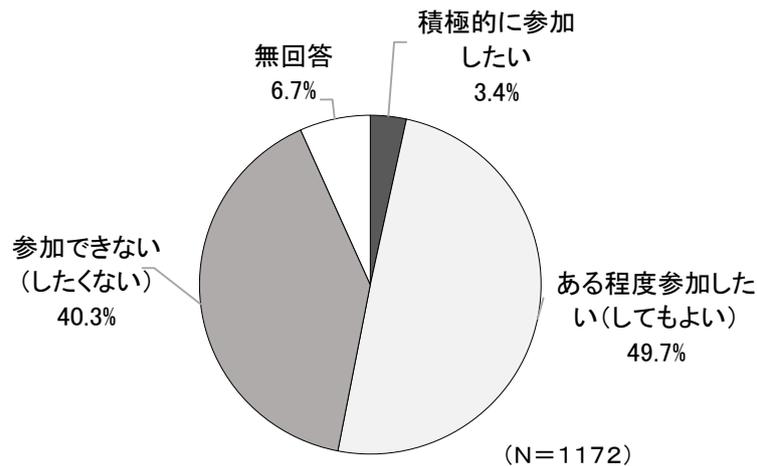
注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

②-1 まちづくりへの今後の参加

あなたは、今後まちづくりに参加したいと思いますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

まちづくりへの今後の参加意向については、「ある程度参加したい（してもよい）」が49.7%とほぼ半数を占めている。これに対し、「参加できない（したくない）」は40.3%となっている。

図 41 まちづくりへの今後の参加意向



年齢別に見ると、70歳以上の年代では、「積極的に参加」と「ある程度参加したい（してもよい）」を合わせた『参加したい計』は5割を下回っている。

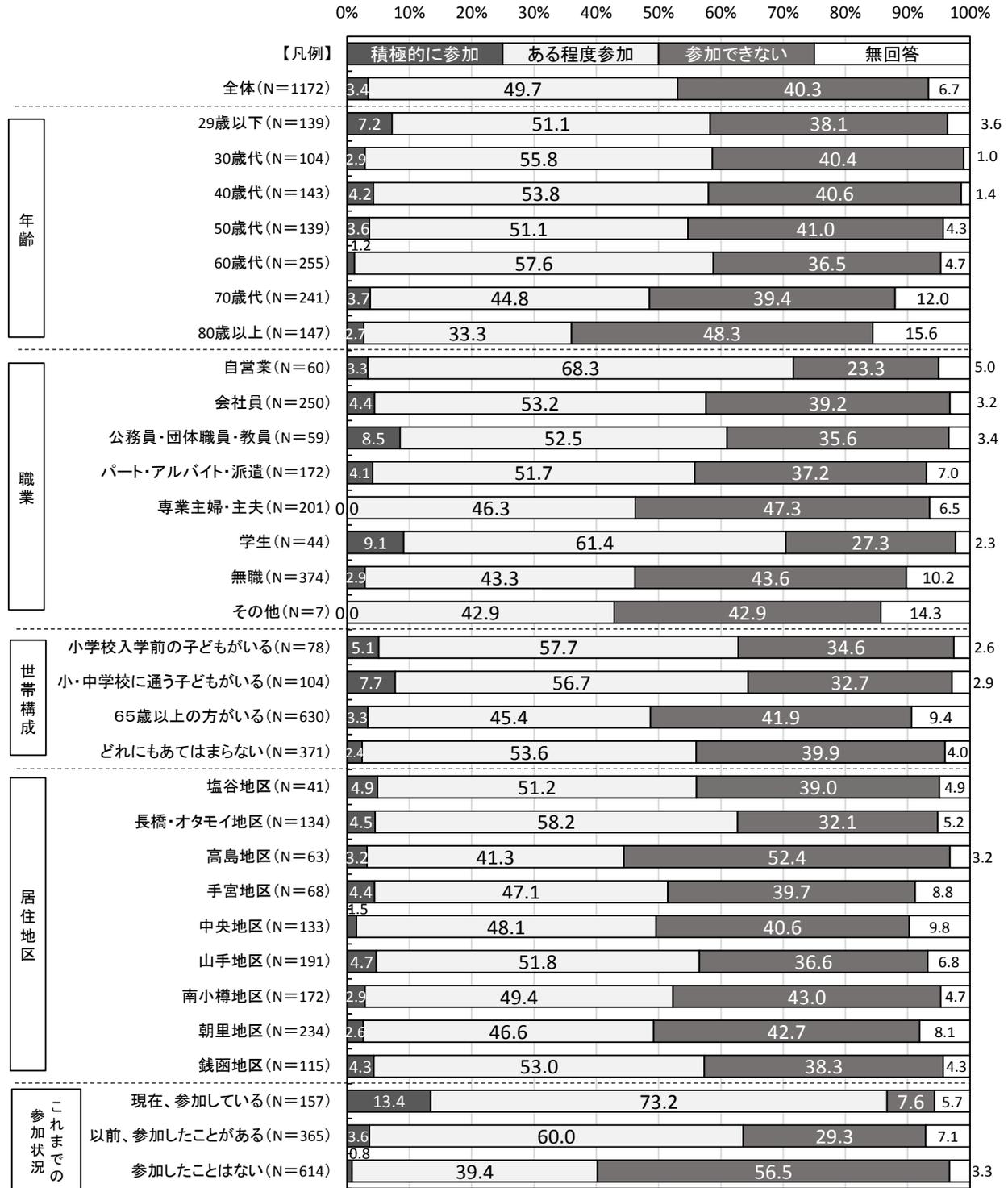
職業別に見ると、「自営業」及び「学生」では、『参加したい計』は7割以上と他の職業を上回っている。

世帯構成別に見ると、「65歳以上の方がいる」世帯では、『参加したい計』の割合が5割以下と、他の世帯に比べて低くなっている。

居住地区別に見ると、「長橋・オタモイ地区」では『参加したい計』は6割以上と他の地区をやや上回っており、逆に「高島地区」では「参加できない（したくない）」が半数を超えている。

これまでの参加状況別に見ると、「現在、参加している」では、『参加したい計』が8割以上と大幅に高くなっている。

図 42 まちづくりへの今後の参加意向
 (年齢・職業・世帯構成・居住地区・これまでの参加状況別)



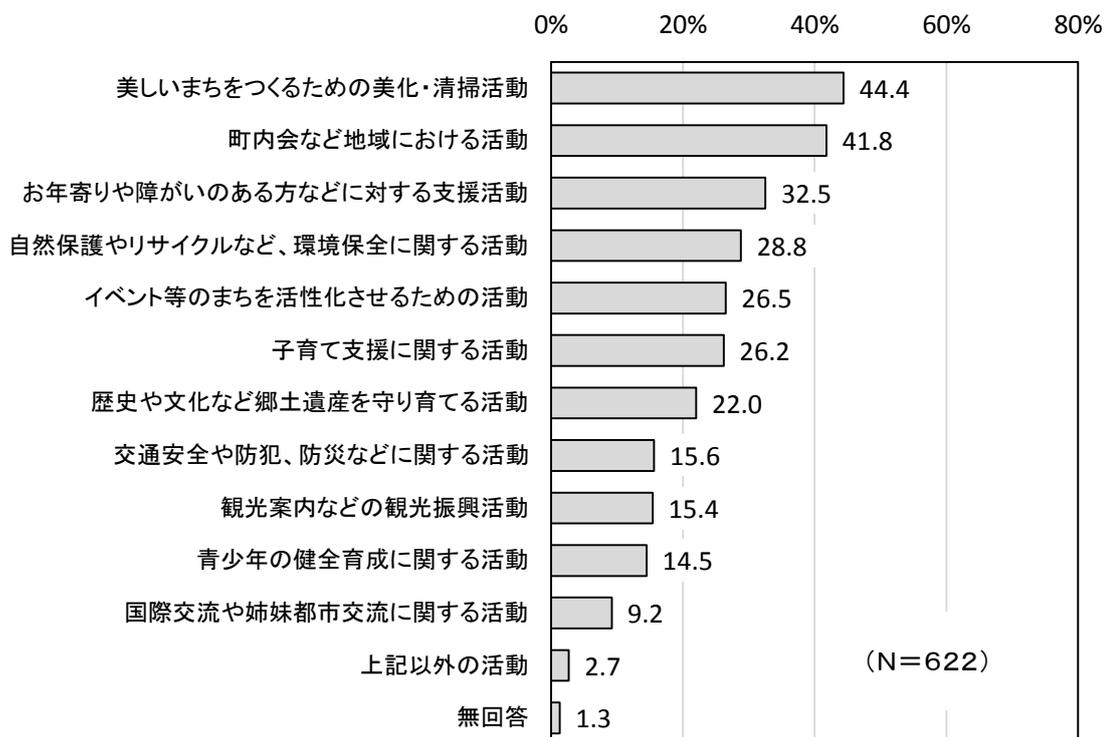
②-2 今後参加したい分野

「②-1」で「1」、「2」と答えた方のみお答えください。

あなたは、今後どのようなまちづくりに参加したいと思いますか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

前問で今後のまちづくりに参加してもよいと回答した 622 人に対する、今後参加したい分野についての質問では、「美しいまちを作るための美化・清掃活動」が 44.4%と最も多く、次いで「町内会など地域における活動」(41.8%)、「お年寄りや障がいのある方などに対する支援活動」(32.5%)、「自然保護やリサイクルなど、環境保全に関する活動」(28.8%)の順となっている。

図 43 今後参加したい分野



性別に見ると、男性は「青少年の健全育成に関する活動」「町内会など地域における活動」が女性よりも 10 ポイント以上多く、女性では「子育て支援に関する活動」が男性よりも 10.7 ポイント多くなっている。

年齢別に見ると、30 歳代で「子育て支援に関する活動」が半数以上と高くなっている。

これまでの参加分野と同様に年代が高くなるほど「町内会など地域における活動」の割合は高くなり、「イベント等のまちを活性化させるための活動」は年代が低くなるほど高くなる傾向がある。

世帯構成別で見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「子育て支援に関する活動」が他の世帯に比べて高く、特に「小学校入学前の子どもがいる」世帯は、7割以上となっている。

居住地区別で見ると、「塩谷地区」では「美しいまちをつくるための美化・清掃活動」が5割以上と、他の居住地区に比べて高くなっている。また、「高島地区」及び「手宮地区」では「お年寄りや障がいのある方などに対する支援活動」、「高島地区」及び「中央地区」では「イベント等のまちを活性化させるための活動」が他の居住地区に比べて高くなっている。「銭函地区」では「町内会など地域における活動」が約6割近くに上っている。

表6 今後参加したい分野（性別・年齢・世帯構成・居住地区別）

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	今後の参加分野																				
		掃る美 活たし 動ため のま ちを つ 清く	すの 支 援 活 動	お 年 寄 り や 障 が い に 対 し	る 子 育 て 支 援 に 関 す	に 青 少 年 の 健 全 育 成	る 土 産 を 守 り 育 て	歴 史 や 文 化 的 な 活 動	全 く に 関 す る 活 動	自 然 保 護 や 環 境 サ イ ン	お 町 内 会 な ど 地 域 に お け る 活 動	活 動 防 災 な ど に 関 す る	交 通 安 全 や 防 犯 に 関 す る	光 振 興 活 動	観 光 案 内 な ど の 観 望	市 交 流 に 関 す る 活 動	国 際 交 流 や 姉 妹 都 市 交 流	め の 活 動 を 活 性 化 さ せ る た ち	イ ベ ン ト 等 の ま ち	上 記 以 外 の 活 動	無 回 答	
全体	622 100.0	276 44.4	202 32.5	163 26.2	90 14.5	137 22.0	179 28.8	260 41.8	97 15.6	96 15.4	57 9.2	165 26.5	17 2.7	8 1.3								
性別	男性	278 100.0	129 46.4	80 28.8	57 20.5	56 20.1	67 24.1	83 29.9	135 48.6	56 20.1	33 11.9	27 9.7	63 22.7	9 3.2	2 0.7							
	女性	340 100.0	146 42.9	122 35.9	106 31.2	34 10.0	69 20.3	94 27.6	124 36.5	40 11.8	63 18.5	30 8.8	101 29.7	8 2.4	5 1.5							
年齢	29歳以下	81 100.0	33 40.7	26 32.1	28 34.6	10 12.3	21 25.9	20 24.7	20 24.7	16 19.8	32 39.5	16 19.8	38 46.9	2 2.5	-							
	30歳代	61 100.0	19 31.1	19 31.1	31 50.8	11 18.0	15 24.6	13 21.3	16 26.2	12 19.7	10 16.4	11 18.0	27 44.3	1 1.6	2 3.3							
	40歳代	83 100.0	32 38.6	29 34.9	29 34.9	12 14.5	22 26.5	21 25.3	28 33.7	13 15.7	18 21.7	8 9.6	32 38.6	5 6.0	-							
	50歳代	76 100.0	37 48.7	27 35.5	13 17.1	12 15.8	17 22.4	27 35.5	27 35.5	10 13.2	11 14.5	5 6.6	16 21.1	3 3.9	1 1.3							
	60歳代	150 100.0	74 49.3	48 32.0	34 22.7	20 13.3	23 15.3	58 38.7	67 44.7	19 12.7	9 6.0	8 5.3	28 18.7	1 0.7	1 0.7							
	70歳代	117 100.0	55 47.0	36 30.8	22 18.8	12 10.3	26 22.2	27 23.1	67 57.3	18 15.4	14 12.0	4 3.4	17 14.5	5 4.3	3 2.6							
	80歳以上	53 100.0	26 49.1	17 32.1	6 11.3	13 24.5	13 24.5	13 24.5	34 64.2	9 17.0	2 3.8	5 9.4	7 13.2	-	1 1.9							
	世帯構成	小学校入学前の子どもがいる	49 100.0	15 30.6	12 24.5	36 73.5	9 18.4	8 16.3	13 26.5	14 28.6	10 20.4	7 14.3	6 12.2	18 36.7	2 4.1	1 2.0						
小・中学校に通う子どもがいる		67 100.0	25 37.3	17 25.4	30 44.8	13 19.4	13 19.4	19 28.4	28 41.8	8 11.9	10 14.9	8 11.9	23 34.3	3 4.5	-							
65歳以上の方がいる		307 100.0	154 50.2	102 33.2	56 18.2	44 14.3	81 26.4	90 29.3	155 50.5	45 14.7	41 13.4	21 6.8	60 19.5	6 2.0	5 1.6							
どれにもあてはまらない		208 100.0	83 39.9	73 35.1	50 24.0	27 13.0	39 18.8	62 29.8	62 29.8	36 17.3	41 19.7	24 11.5	67 32.2	6 2.9	2 1.0							
居住地区	塩谷地区	23 100.0	12 52.2	6 26.1	6 26.1	1 4.3	2 8.7	7 30.4	10 43.5	5 21.7	1 4.3	-	5 21.7	1 4.3	-							
	長橋・オタモイ地区	84 100.0	31 36.9	29 34.5	28 33.3	14 16.7	15 17.9	23 27.4	37 44.0	14 16.7	16 19.0	8 9.5	24 28.6	5 6.0	1 1.2							
	高島地区	28 100.0	10 35.7	13 46.4	9 32.1	3 10.7	6 21.4	4 14.3	10 35.7	3 10.7	5 17.9	2 7.1	11 39.3	-	1 3.6							
	手宮地区	35 100.0	14 40.0	19 54.3	6 17.1	8 22.9	8 22.9	9 25.7	16 45.7	5 14.3	3 8.6	2 5.7	6 17.1	1 2.9	-							
	中央地区	66 100.0	28 42.4	21 31.8	17 25.8	13 19.7	20 30.3	16 24.2	27 40.9	8 12.1	11 16.7	8 12.1	24 36.4	2 3.0	1 1.5							
	山手地区	108 100.0	50 46.3	33 30.6	31 28.7	15 13.9	23 21.3	36 33.3	38 35.2	22 20.4	17 15.7	10 9.3	28 25.9	3 2.8	2 1.9							
	南小樽地区	90 100.0	40 44.4	26 28.9	22 24.4	6 6.7	19 21.1	27 30.0	35 38.9	12 13.3	18 20.0	9 10.0	20 22.2	2 2.2	1 1.1							
	朝里地区	115 100.0	55 47.8	31 27.0	30 26.1	20 17.4	30 26.1	34 29.6	46 40.0	14 12.2	19 16.5	11 9.6	29 25.2	2 1.7	1 0.9							
	銭函地区	66 100.0	34 51.5	22 33.3	13 19.7	9 13.6	14 21.2	22 33.3	38 57.6	13 19.7	5 7.6	7 10.6	17 25.8	1 1.5	-							

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

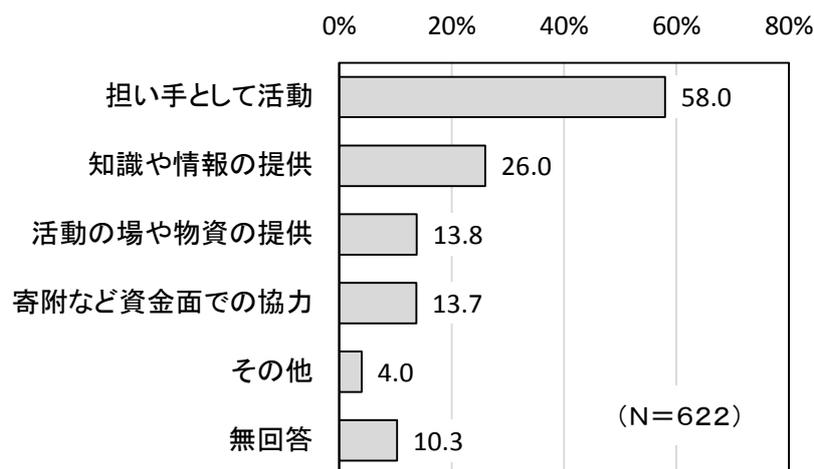
②-3 今後のまちづくり活動への関わり方

「②-1」で「1」、「2」と答えた方のみお答えください。

あなたは、今後まちづくりに参加する場合、どのようにかかわりたいと思いますか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

今後のまちづくり活動への関わり方については、「担い手として活動」が58.0%と半数以上を占め、以下「知識や情報の提供」(26.0%)、「活動の場や物資の提供」(13.8%)、「寄附など資金面での協力」(13.7%)の順となっている。

図44 今後のまちづくり活動への関わり方



性別に見ると、男性は「知識や情報の提供」が女性よりも12.5ポイント多くなっている。

年齢別に見ると、年代が低くなるにつれて「担い手として活動」の割合が高くなる傾向がある。

世帯構成別で見ると、「65歳以上の方がいる」世帯では「寄附など資金面での協力」、「活動の場や物資の提供」及び「知識や情報の提供」が他の世帯に比べてやや高くなっており、それ以外の世帯では「担い手として活動」が6割以上と高くなっている。

表7 今後のまちづくり活動への関わり方（性別・年齢・世帯構成別）

		調査数 (上段:実数) (下段:割合)	まちづくりへの関わり方					無回答
			活担 動い 手と して	面寄 附 での 協 力 資 金	資活 動 の 提 供 場 や 物	提知 供識 や 情 報 の	そ 他	
全体		622 100.0	361 58.0	85 13.7	86 13.8	162 26.0	25 4.0	64 10.3
性別	男性	278 100.0	152 54.7	39 14.0	32 11.5	92 33.1	8 2.9	29 10.4
	女性	340 100.0	207 60.9	46 13.5	53 15.6	70 20.6	17 5.0	34 10.0
年齢	29歳以下	81 100.0	68 84.0	8 9.9	5 6.2	17 21.0	1 1.2	2 2.5
	30歳代	61 100.0	47 77.0	6 9.8	5 8.2	15 24.6	1 1.6	7 11.5
	40歳代	83 100.0	57 68.7	6 7.2	12 14.5	21 25.3	3 3.6	4 4.8
	50歳代	76 100.0	46 60.5	8 10.5	13 17.1	16 21.1	2 2.6	11 14.5
	60歳代	150 100.0	78 52.0	20 13.3	30 20.0	38 25.3	7 4.7	14 9.3
	70歳代	117 100.0	49 41.9	27 23.1	16 13.7	34 29.1	8 6.8	15 12.8
	80歳以上	53 100.0	16 30.2	10 18.9	4 7.5	21 39.6	3 5.7	11 20.8
世帯構成	小学校入学前の子どもがいる	49 100.0	33 67.3	3 6.1	5 10.2	13 26.5	1 2.0	5 10.2
	小・中学校に通う子どもがいる	67 100.0	44 65.7	7 10.4	5 7.5	19 28.4	1 1.5	7 10.4
	65歳以上の方がいる	307 100.0	154 50.2	52 16.9	46 15.0	94 30.6	16 5.2	33 10.7
	どれにもあてはまらない	208 100.0	135 64.9	25 12.0	30 14.4	40 19.2	6 2.9	21 10.1

注1) は各分類の中で最も高い項目を示す。

注2) は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、 は-10%以上差がある項目を示す。

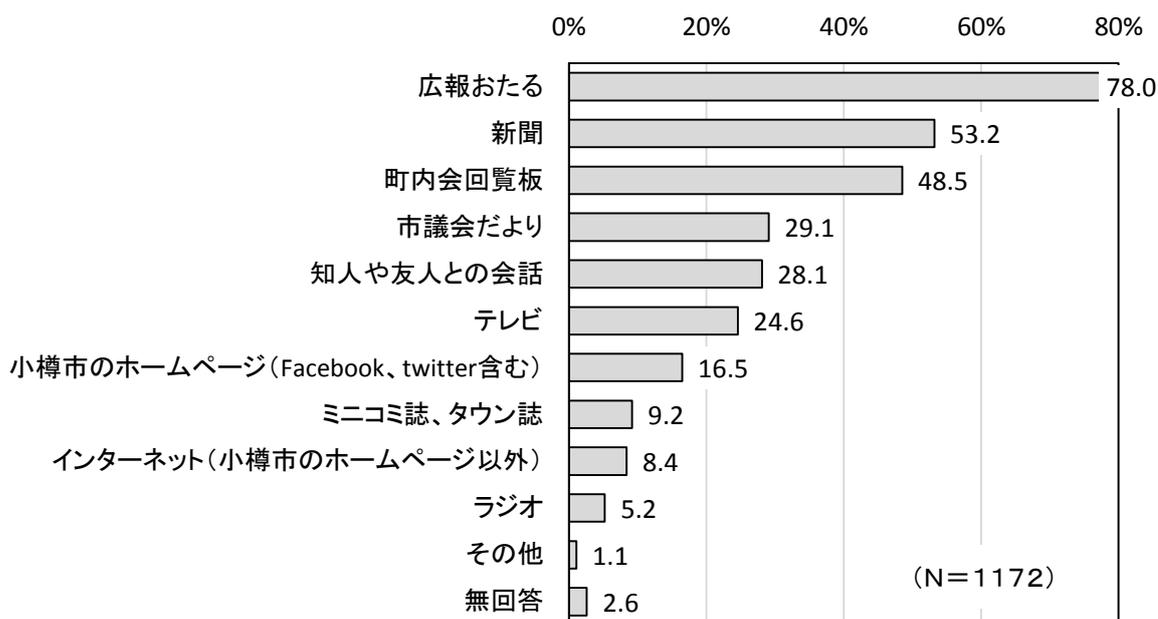
(6) 市政等の情報の入手

① 市政情報の入手方法

あなたは、小樽市に関する情報を何によって知ることが多いですか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

市政情報の入手方法としては、「広報おたる」が78.0%と突出している。次いで「新聞」が53.2%と半数を超え、「町内会回覧板」も48.5%と半数近くにのぼっており、市民は主にこれらの3手段で市政情報を入手している。

図 45 市政情報の入手方法



年齢別に見ると、29歳以下では「テレビ」及び「インターネット」が他の年代に比べて高く、40歳代以上では「広報おたる」が8割以上と高くなっている。また、年代が高くなるにつれて「町内会回覧板」の割合が高くなる傾向があり、逆に年代が低くなるにつれて「小樽市のホームページ」の割合が高くなる傾向がある。

地区別で見ると、「塩谷地区」、「手宮地区」及び「銭函地区」では「町内回覧板」が6割以上と他の地区に比べて高くなっている。また、「中央地区」では「広報おたる」及び「町内回覧板」が他の地区に比べて低くなっている。

市政に対する関心度別で見ると、「関心がある」及び「どちらかといえば関心がある」と答えた人は、8割以上が「広報おたる」、半数以上の人が「新聞」を市政情報の入手手段としている。

一方、「関心がない」と答えた人は、「テレビ」「インターネット (小樽市のホームページ以外)」以外の項目において、「関心がある」と答えた人に比べて大幅に低くなっている。

表8 市政情報の入手方法（年齢・居住地区・市政に対する関心度別）

	調査数	市政情報の入手方法												
		広報おたる	小樽市のホームページ（Facebook含む）	町内会回覧板	市議会だより	テレビ	ラジオ	新聞	ミニコミ誌、タウン誌	知人や友人との会話	市のホームページ以外（インターネット）	その他	無回答	
全体	1172 100.0	914 78.0	193 16.5	569 48.5	341 29.1	288 24.6	61 5.2	624 53.2	108 9.2	329 28.1	98 8.4	13 1.1	30 2.6	
年齢	29歳以下	139 100.0	50 36.0	46 33.1	31 22.3	13 9.4	48 34.5	4 2.9	53 38.1	9 6.5	47 33.8	33 23.7	7 5.0	2 1.4
	30歳代	104 100.0	59 56.7	37 35.6	32 30.8	8 7.7	20 19.2	3 2.9	31 29.8	6 5.8	43 41.3	12 11.5	2 1.9	2 1.9
	40歳代	143 100.0	115 80.4	31 21.7	54 37.8	28 19.6	32 22.4	7 4.9	71 49.7	11 7.7	30 21.0	15 10.5	1 0.7	1 0.7
	50歳代	139 100.0	120 86.3	23 16.5	68 48.9	40 28.8	35 25.2	7 5.0	75 54.0	22 15.8	34 24.5	16 11.5	-	2 1.4
	60歳代	255 100.0	230 90.2	28 11.0	148 58.0	91 35.7	57 22.4	13 5.1	158 62.0	33 12.9	67 26.3	12 4.7	1 0.4	5 2.0
	70歳代	241 100.0	212 88.0	18 7.5	152 63.1	101 41.9	62 25.7	14 5.8	145 60.2	19 7.9	67 27.8	6 2.5	2 0.8	10 4.1
	80歳以上	147 100.0	125 85.0	10 6.8	81 55.1	59 40.1	33 22.4	13 8.8	89 60.5	8 5.4	39 26.5	4 2.7	-	8 5.4
	居住地区	塩谷地区	41 100.0	29 70.7	5 12.2	26 63.4	14 34.1	6 14.6	3 7.3	22 53.7	4 9.8	15 36.6	5 12.2	-
長橋・オタモイ地区		134 100.0	105 78.4	25 18.7	72 53.7	39 29.1	34 25.4	8 6.0	72 53.7	12 9.0	37 27.6	14 10.4	-	2 1.5
高島地区		63 100.0	53 84.1	7 11.1	33 52.4	16 25.4	19 30.2	2 3.2	37 58.7	3 4.8	18 28.6	5 7.9	1 1.6	-
手宮地区		68 100.0	61 89.7	6 8.8	41 60.3	17 25.0	17 25.0	7 10.3	40 58.8	9 13.2	31 45.6	6 8.8	-	1 1.5
中央地区		133 100.0	93 69.9	26 19.5	36 27.1	40 30.1	32 24.1	7 5.3	66 49.6	17 12.8	39 29.3	11 8.3	2 1.5	4 3.0
山手地区		191 100.0	162 84.8	30 15.7	86 45.0	65 34.0	44 23.0	5 2.6	110 57.6	13 6.8	52 27.2	18 9.4	1 0.5	2 1.0
南小樽地区		172 100.0	137 79.7	31 18.0	79 45.9	44 25.6	42 24.4	10 5.8	89 51.7	19 11.0	44 25.6	7 4.1	4 2.3	4 2.3
朝里地区		234 100.0	174 74.4	51 21.8	112 47.9	68 29.1	54 23.1	11 4.7	123 52.6	15 6.4	62 26.5	23 9.8	3 1.3	10 4.3
銭函地区		115 100.0	86 74.8	11 9.6	71 61.7	32 27.8	34 29.6	5 4.3	54 47.0	12 10.4	28 24.3	8 7.0	2 1.7	4 3.5
市政に対する関心度		関心がある	282 100.0	234 83.0	63 22.3	149 52.8	127 45.0	71 25.2	27 9.6	177 62.8	32 11.3	74 26.2	27 9.6	3 1.1
	どちらかと言えば関心がある	479 100.0	399 83.3	84 17.5	239 49.9	158 33.0	105 21.9	21 4.4	276 57.6	49 10.2	144 30.1	40 8.4	5 1.0	6 1.3
	どちらかと言えば関心がない	158 100.0	109 69.0	19 12.0	70 44.3	21 13.3	47 29.7	7 4.4	71 44.9	13 8.2	51 32.3	11 7.0	1 0.6	4 2.5
	関心がない	49 100.0	17 34.7	8 16.3	7 14.3	3 6.1	17 34.7	1 2.0	15 30.6	3 6.1	14 28.6	6 12.2	2 4.1	2 4.1
	どちらともいえない	192 100.0	147 76.6	19 9.9	97 50.5	29 15.1	46 24.0	5 2.6	78 40.6	11 5.7	44 22.9	14 7.3	2 1.0	6 3.1

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

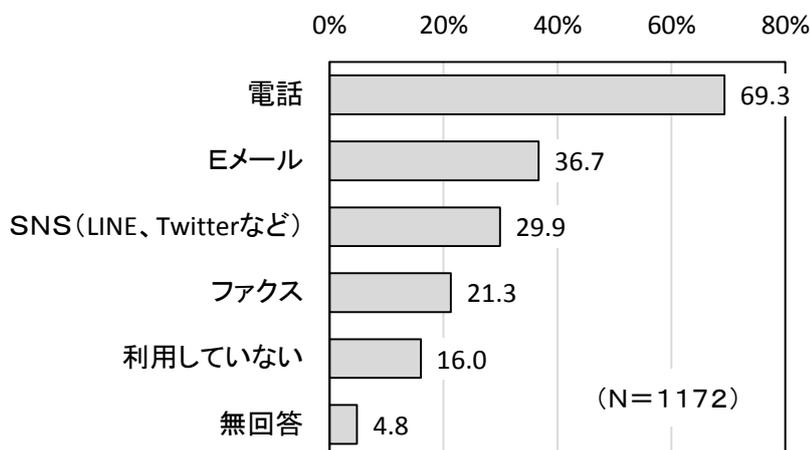
注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

② 情報通信の手段

あなたは現在、情報通信の手段としてどのようなものを利用していますか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

現在の情報通信の手段としては、「電話」が69.3%と突出しており。以下、「Eメール」(36.7%)、「SNS」(29.9%)、「ファクス」(21.3%)の順となっている。

図46 情報通信の手段

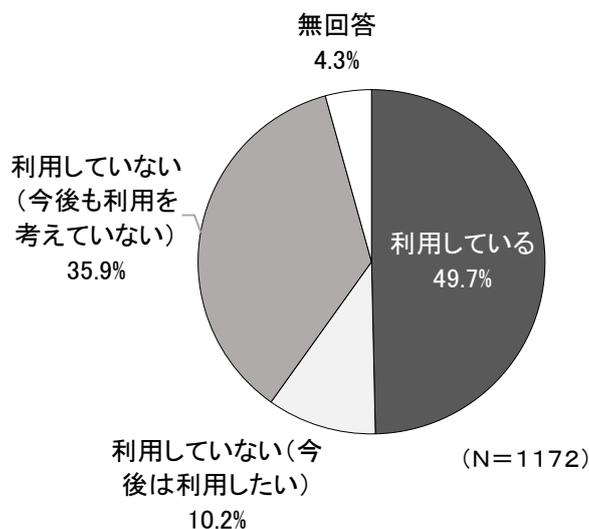


③ インターネットの利用状況

あなたは、インターネットを利用していますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

インターネットの利用状況では、「利用している」が49.7%とほぼ半数を占めている。一方、「利用していない (今後も利用を考えていない)」は35.9%となっている。

図47 インターネットの利用状況



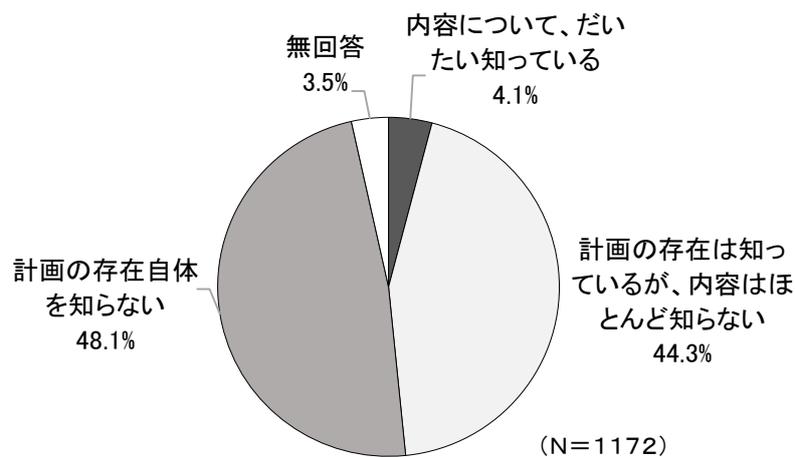
(7) 小樽市総合計画について

① 小樽市総合計画の認知状況

あなたは、「小樽市総合計画」についてどのくらい知っていますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

小樽市総合計画の認知状況では、「計画の存在自体を知らない」が48.1%と約半数となっており、「計画の存在は知っているが、内容はほとんど知らない」は44.3%となっており、「内容について、だいたい知っている」は4.1%にとどまっている。

図 48 小樽市総合計画の認知状況

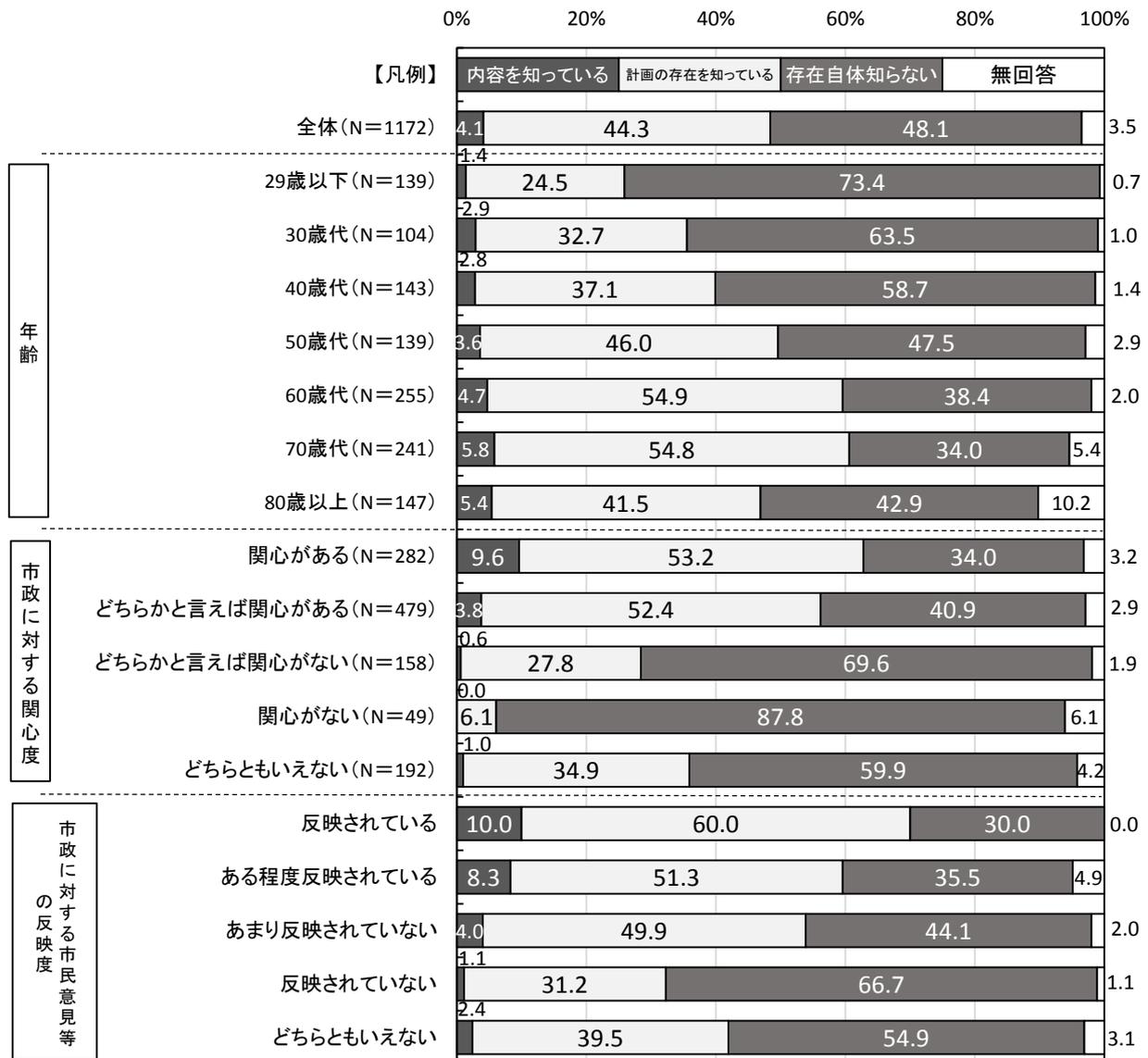


年齢別に見ると、70歳代以下で年代が低くなるほど「存在自体知らない」の割合が高くなる傾向がある。

市政に対する関心度別に見ると、関心がない人ほど「存在自体知らない」の割合が高くなっている。

市政に対する市民意見等の反映度別に見ると、反映されていないと答えている人ほど「存在自体知らない」の割合が高くなっている。

図 49 小樽市総合計画の認知状況
(年齢・市政に対する関心度・市政に対する市民意見等の反映度別)

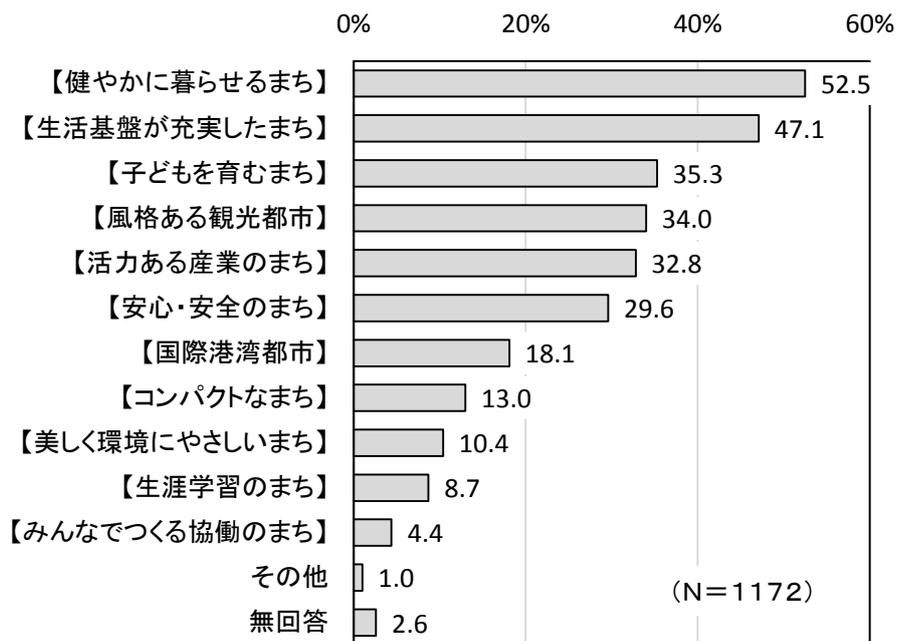


(8) 小樽市の将来のイメージ

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中からあなたの思う将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

小樽市の将来のイメージについては、「健やかに暮らせるまち」が52.5%と半数を超え、「生活基盤が充実したまち」も47.1%と半数近くに上っている。以下、「子どもを育むまち」(35.3%)、「風格ある観光都市」(34.0%)、「活力ある産業のまち」(32.8%)、「安心・安全のまち」(29.6%)などの順となっている。

図 50 小樽市の将来のイメージ



性別に見ると、男性は「国際港湾都市」が女性よりも9.6ポイント多くなっている。

年齢別に見ると、年代が低くなるにつれて「風格ある観光都市」の割合が高くなる傾向がある。また、40歳代以下で「子どもを育むまち」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

世帯構成別に見ると、「小学校入学前の子どもがいる」及び「小・中学校に通う子どもがいる」世帯では、「子どもを育むまち」の割合が6割以上と、他の世帯に比べて大幅に高くなっている。

居住地区別に見ると、「塩谷地区」では他の地区に比べて「国際港湾都市」の割合が高く、また「風格ある観光都市」の割合は「中央地区」及び「南小樽地区」で高くなっており、「高島地区」では「活力ある産業のまち」が5割近くと高くなっている。

一方、「中央地区」では「生活基盤が充実したまち」の割合が他の地区に比べて低くなっている。

表9 小樽市の将来のイメージ（性別・年齢・世帯構成・居住地区別）

	調査数 (上段:実数) (下段:割合)	小樽市の将来のイメージ																					
		都市にぎわい の交流する 人・もの 国際港・船 港情報で	国内外の 空船や貨 物船で	豊かな自然 環境と歴史 的風格ある 観光都市	豊かな自然 環境と歴史 的風格ある 観光都市	市民が生き 生きと働き 活発な産業 のまわりの まちなかに お店や住居 が	「コンパクト なまち」	まちなかの 利便性の高 い	誰もが文化 ・芸術に親 しむ	み・スポーツ ・レクリエ ーションの 楽しむ	学びのまち	環境が整っ た「子ども を育てる まち」	安心して子 どもを産み 育てる	できる「健 やかに暮ら せる	保・健康・ 福祉・医療 が充実	多くの市民 が「みんな でつくる 協働	自然とま ちなみが調 和	安全・安心 ・安全の まち	事故や犯罪 が少なく、 災害に強い	水交通・道 路・除排雪 ・公共交通 機関などが 行きとど いた「生活 基盤が充実 したまち」	その他	無回答	
全体	1172 100.0	212 18.1	398 34.0	385 32.8	152 13.0	102 8.7	414 35.3	615 52.5	615 52.5	51 4.4	122 10.4	347 29.6	552 47.1	12 1.0	30 2.6								
性別																							
男性	483 100.0	114 23.6	156 32.3	160 33.1	61 12.6	38 7.9	154 31.9	243 50.3	243 50.3	29 6.0	50 10.4	137 28.4	218 45.1	8 1.7	16 3.3								
女性	680 100.0	95 14.0	241 35.4	223 32.8	88 12.9	63 9.3	258 37.9	370 54.4	370 54.4	22 3.2	71 10.4	209 30.7	330 48.5	4 0.6	12 1.8								
年齢																							
29歳以下	139 100.0	29 20.9	59 42.4	52 37.4	17 12.2	8 5.8	60 43.2	50 36.0	50 36.0	5 3.6	12 8.6	47 33.8	52 37.4	2 1.4	2 1.4								
30歳代	104 100.0	21 20.2	40 38.5	22 21.2	11 10.6	6 5.8	61 58.7	53 51.0	53 51.0	4 3.8	10 9.6	26 25.0	45 43.3	-	1 1.0								
40歳代	143 100.0	15 10.5	55 38.5	49 34.3	23 16.1	9 6.3	63 44.1	77 53.8	77 53.8	5 3.5	9 6.3	35 24.5	66 46.2	2 1.4	2 1.4								
50歳代	139 100.0	22 15.8	48 34.5	52 37.4	25 18.0	13 9.4	39 28.1	81 58.3	81 58.3	8 5.8	21 15.1	43 30.9	61 43.9	1 0.7	1 0.7								
60歳代	255 100.0	40 15.7	80 31.4	89 34.9	31 12.2	28 11.0	89 34.9	141 55.3	141 55.3	14 5.5	31 12.2	68 26.7	131 51.4	3 1.2	4 1.6								
70歳代	241 100.0	45 18.7	74 30.7	77 32.0	28 11.6	23 9.5	68 28.2	132 54.8	132 54.8	13 5.4	28 11.6	73 30.3	126 52.3	2 0.8	8 3.3								
80歳以上	147 100.0	37 25.2	41 27.9	42 28.6	15 10.2	14 9.5	33 22.4	80 54.4	80 54.4	2 1.4	11 7.5	55 37.4	69 46.9	2 1.4	12 8.2								
世帯構成																							
小学校入学前の子どもがいる	78 100.0	10 12.8	25 32.1	15 19.2	9 11.5	3 3.8	62 79.5	44 56.4	44 56.4	4 5.1	3 3.8	19 24.4	28 35.9	-	1 1.3								
小・中学校に通う子どもがいる	104 100.0	20 19.2	35 33.7	29 27.9	7 6.7	6 5.8	68 65.4	45 43.3	45 43.3	3 2.9	8 7.7	33 31.7	42 40.4	-	1 1.0								
65歳以上の方がいる	630 100.0	117 18.6	197 31.3	211 33.5	74 11.7	62 9.8	172 27.3	340 54.0	340 54.0	33 5.2	64 10.2	190 30.2	319 50.6	9 1.4	22 3.5								
どれにもあてはまらない	371 100.0	65 17.5	141 38.0	129 34.8	63 17.0	32 8.6	127 34.2	195 52.6	195 52.6	11 3.0	46 12.4	110 29.6	169 45.6	2 0.5	5 1.3								
居住地区																							
塩谷地区	41 100.0	11 26.8	16 39.0	15 36.6	7 17.1	4 9.8	15 36.6	17 41.5	17 41.5	1 2.4	5 12.2	8 19.5	18 43.9	1 2.4	-								
長橋・オタモイ地区	134 100.0	22 16.4	40 29.9	49 36.6	18 13.4	15 11.2	46 34.3	77 57.5	77 57.5	4 3.0	12 9.0	39 29.1	72 53.7	2 1.5	1 0.7								
高島地区	63 100.0	10 15.9	19 30.2	29 46.0	8 12.7	4 6.3	20 31.7	34 54.0	34 54.0	4 6.3	4 6.3	19 30.2	31 49.2	1 1.6	1 1.6								
手宮地区	68 100.0	14 20.6	18 26.5	27 39.7	5 7.4	4 5.9	27 39.7	35 51.5	35 51.5	6 8.8	4 5.9	21 30.9	30 44.1	-	5 7.4								
中央地区	133 100.0	25 18.8	53 39.8	49 36.8	22 16.5	15 11.3	42 31.6	62 46.6	62 46.6	4 3.0	15 11.3	35 26.3	50 37.6	-	5 3.8								
山手地区	191 100.0	29 15.2	62 32.5	70 36.6	28 14.7	14 7.3	71 37.2	108 56.5	108 56.5	7 3.7	16 8.4	61 31.9	86 45.0	1 0.5	3 1.6								
南小樽地区	172 100.0	35 20.3	68 39.5	50 29.1	19 11.0	13 7.6	57 33.1	83 48.3	83 48.3	5 2.9	24 14.0	42 24.4	90 52.3	4 2.3	4 2.3								
朝里地区	234 100.0	42 17.9	79 33.8	68 29.1	25 10.7	18 7.7	90 38.5	123 52.6	123 52.6	14 6.0	27 11.5	83 35.5	113 48.3	1 0.4	3 1.3								
銭函地区	115 100.0	20 17.4	39 33.9	21 18.3	16 13.9	15 13.0	42 36.5	65 56.5	65 56.5	6 5.2	13 11.3	35 30.4	51 44.3	2 1.7	4 3.5								

注1) ■ は各分類の中で最も高い項目を示す。

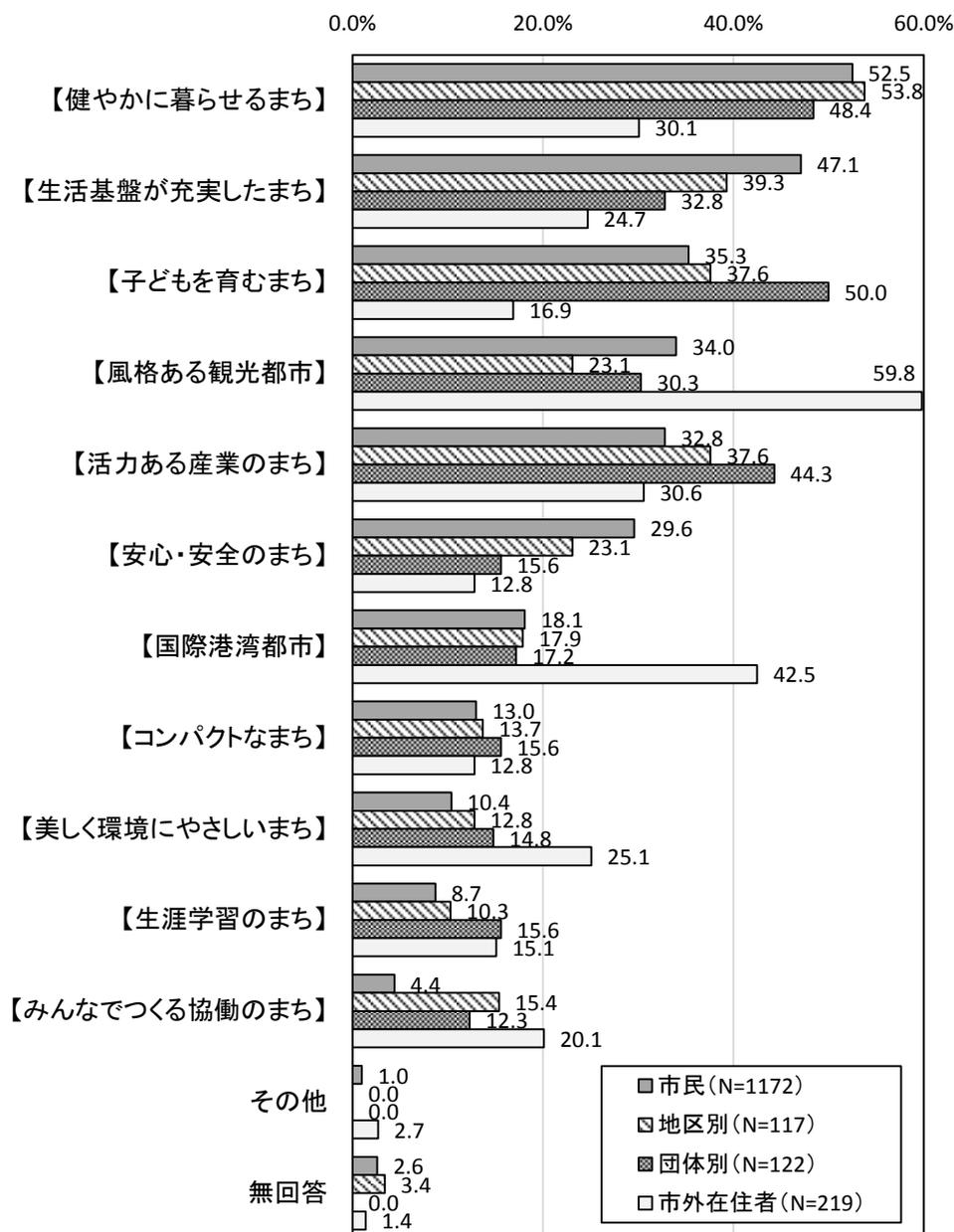
注2) □ は全体における比率よりも+10%以上差がある項目、□ は-10%以上差がある項目を示す。

参考までに、後述する「地区別アンケート」、「団体別アンケート」及び「市外在住者アンケート」において、それらの結果を本調査と比較した。

「地区別」では概ね市民と同様の結果であるが、「団体別」では「子どもを育むまち」及び「活力ある産業のまち」が多くなっている。

一方、「市外在住者」では「風格ある観光都市」及び「国際港湾都市」を多く挙げており、国際的な観光都市として期待が高いと考えられる。

図 51 小樽市の将来のイメージ（各調査比較）



○ 自由記載内容

これからのまちづくりについて、市民アンケート調査で自由に記載された内容を大きく「1 生涯学習について」「2 市民福祉について」「3 生活基盤について」「4 産業振興について」「5 環境やまちなみについて」「6 市政その他」の項目に分類し、要旨をまとめた。

自由記載欄の記入状況は次のとおりとなっている。

記入者数 411人（男性162人、女性249人）、記入率 35.0%

なお、1人で複数の意見を記載している場合、それぞれ該当する項目毎に分類しているため、記入者数より意見数は多くなっている。

また、文末の「他〇件」は、他に同様の意見が〇件あったことを表す。

1 生涯学習について

【学校の教育内容や教育環境】

- ・子どもが少なく競争意識が低いため、学校を統合して競争意識を持たせてはどうか
- ・子どもが少ないためか、中学校に入りたい部活がない状況がある（他1件）
- ・外国語指導助手（ALT）を毎日授業に入れて欲しい
- ・市内に書店が少ないため、小中学校の図書室を充実してほしい
- ・小中学校によって教育内容に差があると感じられる
- ・英語など語学教育を充実させて、将来通訳などの仕事を増やすようにする
- ・将来、国際交流や外国人観光客対応に役立つようなインターナショナルスクールの設立
- ・先生が学童を甘やかさないようにすることが必要
- ・子どもの頃から礼儀やマナーを教える環境を充実させる
- ・校舎の改善（耐震工事や老朽化校舎の新設）
- ・小樽の歴史を子どもの時から教えるべき
- ・教育レベルが低いと感じる（他1件）
- ・全体的に改善が必要
- ・小学生の給食費の援助が必要

【市民の学習機会や学習環境（図書館・総合博物館など）】

- ・語学教室の開催
- ・外国のマナー教室の開催
- ・いろいろな資格取得の講座などの開催（無料ないしは低価格で）
- ・市民が語学学習できる環境を作る
- ・市民が博物館などで開催する子供向け講座への支援
- ・交通の便の良い場所への市民図書館の移転

【文化・芸術に親しむ機会や環境】

- ・芸術に触れられる場所があると人が集まる
- ・様々なイベントがあると人が集まる（他2件）
- ・市民制作の映画を上映できるような映画館が欲しい
- ・文化・芸術においてはとても良いところがある

【スポーツ・レクリエーションに親しむ機会や環境】

- ・交通の便の良いところへのスポーツ施設（プールなど）の設置（他2件）
- ・総合体育館の改修
- ・体育館の駐車場をもっと広くしてほしい
- ・個人でも学校開放が利用できるようにしてほしい

【青少年の非行防止や子どもの居場所づくり】

- ・共働き家庭のための放課後の子どもの居場所が必要（児童館など）（他1件）
- ・家の近く（屋内外）で子どもが運動したり遊べるところがほしい（他2件）
- ・子どもの非行防止のために子どもの居場所づくりを考えてほしい
- ・交通の便の良いところ（小樽駅付近など）に子どもの遊べる場所を作してほしい（他1件）

2 市民福祉について

【福祉活動やボランティア活動について】

- ・福祉活動への助成を手厚くしてほしい

【保育などの子育て支援】

- ・子育て支援全般の充実を望む（他11件）
- ・子どもの医療費の無料化を望む
- ・母子家庭の子育て支援の充実を望む（他1件）
- ・母親が働く世帯の子育て支援の充実を望む
- ・保育所等子どもを預けられる施設の充実（無認可を含む）（他2件）
- ・子ども医療者受給者証の年齢の引き上げを望む
- ・子育てに関する不安や要望を相談できる体制の充実
- ・子どもの医療費や学費の軽減（他2件）
- ・児童館の設置
- ・二人目以降の出産に祝い金を出す制度の新設

【高齢者の生きがいづくりや生活支援】

- ・生活支援全般の充実、高齢者に優しいまちづくり（他23件）
- ・老健施設、介護施設・制度の充実（他1件）
- ・老健施設が多すぎる
- ・高齢者が働き続けたり様々な活動に参加できる環境の充実（他3件）
- ・年金の増額
- ・高齢者の生きがいづくりが重要
- ・高齢者を主とした交流施設の整備、周知

【障がい者の支援】

- ・障がい者への支援制度や市の対応の充実（他2件）
- ・車いす利用者など障がい者が動きやすいまちづくり（他1件）
- ・障がい者の憩いの場の提供
- ・障がい者への職業斡旋の充実
- ・障がい者差別のないまち

【健診・予防接種や食の安全などの体制】

- ・検診回数の増加
- ・健診などの実施体制の改善

【安心して暮らせる医療環境】

- ・病院の人員体制の充実
- ・産科や小児科のある医療機関を増やしてほしい（他22件）

【その他】

- ・福祉サービスのさらなる充実
- ・生活困窮者支援の充実
- ・生活保護の基準の見直し（他4件）

3 生活基盤について

【道路や河川の整備】

- ・住宅地の道路整備
- ・路面の補修・改修（他 5 件）
- ・歩道の設置
- ・緊急車両が通れるような道の整備
- ・排水溝の蓋の設置
- ・歩道橋の補修・改修
- ・於古発川での鮭の遡上が可能となるような整備

【住宅対策（市営住宅、リフォーム支援など）】

- ・空き家対策
- ・住宅の賃料や販売価格の低減方策（他 6 件）
- ・商業施設や医療機関が揃った住宅専用エリアの整備（他 1 件）
- ・若者が家を建てられるような支援
- ・ペット可の市営住宅

【除排雪やロードヒーティング】

- ・除排雪の充実（他 2 3 件）
- ・融雪溝の助成金制度の充実
- ・除排雪回数の増加（他 4 件）
- ・市貸し出しの除排雪機器費用の軽減あるいは助成
- ・業者により異なる除雪方法の画一化（他 1 件）
- ・坂道や交通量の多い区間などのロードヒーティング化（他 7 件）
- ・道路上の雪山対策のためのミラー設置（他 1 件）
- ・路上に撒いた砂の回収（他 2 件）
- ・排雪回数の増加（他 6 件）
- ・雪捨てマナーの徹底
- ・屋根の雪下ろしへの支援の充実
- ・生活道路や細街路までくまなく公平な除排雪の実施（他 3 件）
- ・地区により除排雪の不公平感がある
- ・融雪溝の増設
- ・交差点など交差道路の角の雪山の排除
- ・除けた雪の置き場所など除排雪方法の改善（他 4 件）

【まちなかななどの市街地整備】

- ・小樽駅前など利便性の高い地区への公共施設の移転・新設
- ・市内中心部の無料駐車場の設置
- ・小樽駅前広場の再整備
- ・高齢化社会に対応するため、市内を数分割して各地区をコンパクトシティ化する

【交通（公共交通機関や道路の利便性）】

- ・自宅近くへのバス停の設置
- ・銭函駅でのエレベーターの設置（他 1 件）
- ・病院や商業施設等を結ぶ公共交通網の整備
- ・交通の利便性の向上
- ・バスや J R の運行時間の延長
- ・朝の札幌方面への J R 快速の運行
- ・銭函駅横の踏切の遮断時間の短縮
- ・南小樽駅からの地域循環バスの運行
- ・J R 駅の階段のエスカレーター化
- ・路線バスの運行本数の増加

- ・市内の医療機関への通院者専用バスの運行
- ・電動アシスト自転車の購入助成制度の導入
- ・市内まで気軽に利用できるシャトルバスや海上を走るモノレール的な乗り物があれば便利

【地震・津波・土砂災害などへの防災体制】

- ・公共施設の地震対策
- ・災害に強いまちを目指す
- ・災害時の避難場所の周知

【交通安全、防犯や消費者相談の体制】

- ・街灯の整備（他2件）
- ・深夜の暴走運転の取り締まり強化
- ・危険地域の早期対策
- ・盗難などの犯罪の防止策の強化
- ・信号機の設置（他1件）
- ・路上駐車を取り締まりの強化（他2件）
- ・駅前広場の駐車取締りの強化
- ・歩行者自動車分離式信号機の設置
- ・歩きタバコの規制
- ・歩きスマホの禁止

【その他】

- ・安心・安全なまちづくり（他1件）
- ・高齢者が自動車の運転を必要としない環境づくり
- ・郊外における公共施設、医療機関、学習施設、公園などの充実
- ・市役所、体育館、公園など公共施設の維持・更新
- ・案内看板の設置
- ・使用していない公共施設の早期の取り壊し

4 産業振興について

【水産業の振興】

- ・養殖業の振興

【商店街など商業の振興】

- ・商業の活性化
- ・小樽駅前通りや都通りなど市内中心部の活性化（他1件）
- ・国道沿いの活性化
- ・郊外への大型商業施設の誘致
- ・商店街の空き店舗対策（他1件）
- ・市内中心部への大型商業施設、温浴施設などの誘致
- ・買い物環境の整備
- ・人情味のある商店街の支援
- ・若者を呼べる市中でのイベントの開催
- ・アーケード街での週末以外のイベントの開催
- ・商店街活性化へ向けた若者のアイデア募集や家賃補助などの支援
- ・固定資産税やテナント料への補助制度の充実
- ・百貨店の誘致
- ・若者が遊べる施設の誘致
- ・市民が地元で獲れた新鮮な魚介類や野菜を手軽に口にできるようにしてほしい

【地場産業の振興や企業誘致】

- ・新しい産業の創出
- ・企業や工場の誘致（他2件）

- ・若者が就労できる企業の誘致（他2件）
- ・食品産業など不況に強い企業や工場の誘致
- ・企業誘致による雇用の確保
- ・地場産業の支援（他2件）
- ・大規模企業の工場などの誘致
- ・技術の優れた地場職人の育成
- ・高齢者を活用した産業の創出
- ・一次、二次産業の育成・振興により、その生産物の販路拡大につながる観光振興を図る
- ・ふるさと納税に使用する品物を地場の複数の店の詰め合わせにして、利益が配分されるような仕組みを作る

【観光振興】

- ・市内の景観やイベントのアピールに工夫が必要（他1件）
- ・観光地や施設の案内板の充実（他1件）
- ・観光地や施設の案内板の外国語表記
- ・アクセスに関する情報など観光地に関する詳細な情報が記載された案内板の設置
- ・地区内の観光地情報が分かる地図看板の設置
- ・宿泊施設の充実（他6件）
- ・商店など商業施設の営業時間が短い、閉店時間が早い（他8件）
- ・オタモイ海岸の観光地としての再生（他1件）
- ・海の家改善
- ・銭函駅～海水浴場間の海水浴シーズンの道路規制及び露店の出店許可
- ・海水浴場でのバーベキューを禁止しないでほしい
- ・カジノの誘致（他1件）
- ・天狗山のからの景色のPR
- ・個人タクシーの運転手の態度の改善
- ・市外からの観光客の誘致策
- ・旅行先として楽しめるものは十分揃っている
- ・小樽独自のイベントの開発
- ・フェイスブックを活用した小樽観光情報の拡散
- ・海岸へのレジャー施設の造成
- ・海上遊覧船など船舶を活用した観光資源のPRの工夫（他1件）
- ・観光客用の駐車場の整備（他1件）
- ・農水産業による食材を活用した観光PR
- ・観光施設における接客態度の改善（他1件）
- ・見せかけだけの観光からの脱却を図る
- ・屋号のある土蔵などの建築物の観光レストランへの転用
- ・自然景観を生かした観光のPR
- ・観光客も楽しめるイベントの開発
- ・民宿や民泊施設の開設などへの支援
- ・旧線路跡（手宮線）を活用した義経号、弁慶号やトロッコなどの運行（他2件）
- ・道の駅の新設（他2件）
- ・海の駅の増設（他1件）
- ・春香山登山のPR、登山道の整備
- ・WEB上の観光地情報における正式な所在地名称の使用の推奨
- ・店舗での外国語表記の充実
- ・店員の英会話教育
- ・神社の情報を盛り込んだお祭りのPRの工夫
- ・小樽独自の統一感のある景観を観光資源とする
- ・神社仏閣の観光資源化

- ・海を活用した観光振興
- ・市民が「おもてなし」の心をもつ
- ・観光に関する十分な予算の確保
- ・ターゲットを絞り込んだイベントの開発
- ・小樽三大祭の盛り上げ
- ・観光担当副市長の任命
- ・坂道が多いことも小樽の魅力の一つである

【港湾の施設整備や利用促進】

- ・港湾の入港料の値下げによる大型船寄港の誘致。
- ・小樽港を活用したロシア・韓国などとの貿易の推進（他1件）
- ・港湾施設の再活用策を考える
- ・豪華客船の寄港の誘致
- ・港湾周辺にオートキャンプ場などを設置し、道外フェリー客の滞在を促進する
- ・埠頭全体の有効活用
- ・港湾整備の重要性は高い
- ・本格的な防波堤の設置
- ・自由に利用できる釣り場の設置
- ・魚釣りや写真撮影での利用に対する規制の緩和

【雇用・労働対策】

- ・雇用の場の確保・創出により市内定住者を増やす（他2件）
- ・十分に暮らしていける給与などの雇用条件のある市内の職場の増加が必要（他7件）
- ・優秀な人材が活躍できる雇用条件の確保に対する支援
- ・若者の雇用の場の確保・創出（他17件）
- ・若者が居住・定住できる雇用条件のある市内の職場の増加が必要（他2件）
- ・安心して働けるまちづくり
- ・介護職員の賃金の増額

【姉妹都市交流など国内・国際交流】

- ・まちづくりに関する札幌市との交流
- ・南半球のオーストラリアより対岸のロシア・中国との交流を考える

5 環境やまちなみについて

【環境保全】

- ・美化・清掃へ、もっとたくさんの人に参加してもらいたい
- ・清掃活動を活発にし、観光客の不快感をなくす（他1件）
- ・自然環境保護全般（他1件）
- ・河川の清掃
- ・勝納川の水質管理
- ・宅地開発などによる自然環境破壊の歯止め

【ごみや資源物の収集・処理】

- ・ゴミ箱の設置及び設置への助成（他1件）
- ・プラスチックごみの収集回数を増やす（他1件）
- ・ゴミ捨てのマナーを守る
- ・草葉ゴミの回収を希望
- ・分別が不要になるよう、ゴミ処理場の性能向上
- ・道路や河川における、行政によるゴミ処理の実施

【公園や緑地の整備】

- ・子どもが遊べ、お年寄りが利用しやすい公園の設置（他3件）
- ・遊具や駐車場、トイレ、バーベキュー施設が充実した公園の設置（他4件）

- ・遊具の維持管理や雑草の管理
- ・赤井川道路沿道における公園整備
- ・朝里、張碓の山川の公園化
- ・花園公園を花公園として観光に役立てる
- ・眺望豊かな臨海公園の新設や既存公園の改良
- ・色内埠頭公園の駐車場拡張
- ・有料でも良いので、ドッグランができる場所の設置を望む

【歴史的建造物の保全など、良好な景観づくり】

- ・小樽らしい歴史が見て分かる景観
- ・文学館や美術館の景観を改良
- ・市庁舎の外壁の修理
- ・歴史的建造物は、外観だけでなく建物内の様子の PR も重要
- ・全体的な景観を考慮した小樽港の外観の改良
- ・屋号の付いた土蔵などの保存
- ・電線の地中化の推進
- ・古い建造物や民家の保存
- ・金属看板や暖簾など、商店街の統一感のある景観の形成
- ・運河係留船のデザインの再考
- ・歴史建造物や文化財を活用したまちづくり

【その他】

- ・雑草の刈り取りなど空き地の管理
- ・道路や公園の草木・雑草の管理
- ・坂道の歩道への花壇造成
- ・桜やカエデの植樹など、景観上の街路樹の見直し
- ・運河周辺の沿道の植栽の整備
- ・街路樹・植栽の整備や花壇の造成・整備（他 1 件）
- ・旭山展望台、勝納臨海公園、市立美術館などの十分な維持管理による活用

6 市政その他

【市政全般】

- ・観光を中心としたまちづくり、港湾を中心とした大型船の誘致・受入体制の構築とそのため
の港湾整備、歴史そのあるまちづくり、きれいなまちづくり
- ・医療、交通、冬の除雪対策など住みやすい環境づくりと子どもの教育環境の充実
- ・次世代に向けた市民会館、美術館（文学館）、体育館の新築
- ・産科の増設や災害時の対応中心施設の改築など、安心して暮らせるまち
- ・住民が住み続けたいと思う、住民本位のやさしいまちづくり
- ・子育て世帯が行きたくなる公園、年齢層に合った運動施設、住民・市民交流の場の充実
- ・観光産業だけを重視することをしない
- ・過去にすぎらず現状を踏まえ、先を見据えたまちづくり（他 1 件）
- ・活気があり、若者が住みやすいまちづくり（他 1 件）
- ・やる気のある若者が、小樽で働き根付きたいと思わせるまちづくり（他 3 件）
- ・若者の育成、確保が重要
- ・大学生が住みやすいまちづくり
- ・高校生が卒業後も小樽に残れるようなまちづくり
- ・若者の活躍と明るいまちづくりに期待
- ・若者に向けた支援が必要（他 1 件）
- ・社会全体が新しい小樽を作れる環境をつくる
- ・家賃、仕事、生活環境など、札幌に勝る魅力が必要
- ・海や山に囲まれた優れた環境を活かした元気づくり

- ・道外に居住経験がある、あるいは視野を広く持てる優秀な人材を発掘し、まちづくりに登用する
- ・道外からみてもたくさんある魅力を活かしたまちづくり
- ・正規雇用で働ける場、収入が少なくても安心して住める住宅など、この先単身であっても暮らしていけるような生活基盤づくり
- ・市民目線での市政の推進
- ・地元の人が行っても楽しめる観光のまちづくり（他1件）
- ・空き家や廃校の有効活用（他2件）

【人口対策】

- ・いかに人口流出を止めて、人口を増やすか（他5件）
- ・空き家を安く販売したり他県からの移住者誘致を促進し、定住者を増やす政策（他1件）
- ・観光対策も大事だが、市民が定住できる住みよいまちづくりをしないと人口減は止まらない（他1件）
- ・子育て支援に力を入れて人口を増やす
- ・高齢化が進み、人口の減少も進むので、自営業者には大変厳しい
- ・教育・学習レベルが上がれば市外からの人口流入が期待できる
- ・自分の地区の特徴をアピールして、若者に住んでもらう
- ・若者の流出の歯止めと市外からの転入の促進策
- ・若者が遊べ、子育てしやすく移動しやすいような、若者が増える環境づくりを進め、若者が市外に流出しないような工夫をする（他1件）
- ・小樽に定住できるために、子育て、教育、医療において札幌以上の水準を望む
- ・高齢者のいる家族を呼び込み、仕事は札幌で働いてもらうことにより、お金と人の動きを活発にすることが必要
- ・他地域在住の人からも移住したいと思わせる、魅力あるまちづくりが必要
- ・お見合いの場を設ける

【市民参加、協働のまちづくり】

- ・どこで市民の意見を聞いているのかがわからない
- ・市民アンケートは、市民の意見を聞く良い機会であり、頻度を高めるべき（他1件）
- ・有権者だけでなく、子供たちの意見を聞く（小学校高学年まで）
- ・まちづくりは市民参加で行うべき
- ・市民が市の将来を考えていろいろな活動に参加することが大事
- ・行政が何かしてくれるのを待つのではなく、自分が行政にどう関わっていくかを考えるようにすべき
- ・まちづくりに市民が参加できる場を設け、意見交換などにより市民の声を行政に反映できるようにする
- ・市政に市民の意見を反映させるために、市民が参加できる審議会などの開催
- ・特に若者の意見を取り入れるようにする
- ・若い人にとって町内会活動に参加するのは限界がある
- ・まちづくりは、自らできることは行動し、手に負えない部分を行政にお願いするという考えを市民に浸透させることが重要

【市の体制、市民対応、財政など】

- ・市役所の職員は市内在住者にすべき（他2件）
- ・市役所の職員数や議員数が多すぎる（他5件）
- ・市の財源（収入源）をどこに見出すかが重要
- ・市庁舎の移転の検討（裕次郎記念館跡地など）
- ・市職員を市内外から募集して、有能な人材を確保する
- ・市税収入増加への取り組みの不足
- ・市も含めて行政機関の窓口対応がマニュアル化して、市民の目線での対応が不十分
- ・各議員の活動内容が見えない

- ・市役所の駐車場が狭い
- ・市役所にコンシェルジュ的な係がおらず、対応がお粗末
- ・住民税が高い（他 2 件）
- ・水道料金が安い（他 1 件）
- ・医療保険など公的費用が高い
- ・土木建築や教育関連の予算の削減
- ・公務員の給与の見直し
- ・給与の高い参事・副参事・主幹・副部長制の廃止
- ・国からの地方交付税の増額や税源の変更を求めるべき
- ・市民からの苦情にきちんと対応してほしい
- ・市職員のチームワークと市政に対する意気発揚が必要
- ・市の職員が自分の足でまちを見て歩き、問題を認識すること
- ・市長と商工会議所の連携
- ・市長と市議会が相互理解を深め、小樽の発展に努めてほしい（他 3 2 件）
- ・市長の活躍を期待（他 1 3 件）

【広報や情報の公開】

- ・市政に関する情報の公開が不足している
- ・議会に関する情報が少ない
- ・まちづくりに対する市長の考えや姿勢について、広く公開する
- ・市政を行うに当たってネックとなっている事項について広く公開する
- ・新聞を取っていない世帯に対しても広報紙の配布を望む
- ・インターネットを使えない人にも内容が十分理解できる情報配信を望む
- ・地域交流の情報などを充実させるなど、広報の充実
- ・若い人でも興味をもて、理解しやすい広報紙
- ・市議会傍聴などの機会があれば積極的に参加したい
- ・ホームページを見やすくして、市内外に小樽をアピールする

【市の将来像】

- ・テーマを持ち、ビジョンやイメージを具体的に出すべき（他 2 件）
- ・アンケートの設問にあった将来像は全て大切である
- ・すべてがバランスの取れたまち
- ・戦争や原発を受け入れないまち
- ・安定した生活ができるまち
- ・笑顔のあるまち（他 1 件）
- ・観光地としての発展
- ・観光、貿易を中心に、計画的に将来を見据え、基盤整備をしていく
- ・風格ある観光都市、子供を育むまち、健やかに暮らせるまち
- ・身の丈に合った市政を目指す
- ・20 年、30 年、50 年後の将来予測人口に合わせたまちづくり
- ・自分本位の将来像と客観的な将来像は異なる（他 1 件）

【その他】

- ・町内会での会費などの均等化
- ・札幌に近いので、買い物や医療、教育などについては札幌で事足りる（他 1 件）
- ・張碓や銭函地区は他の地区に比べて疎外感がある
- ・手稲・星置方面が買い物や病院利用においても近い
- ・最近では外で遊ぶ子どもの声が聞こえてこないのは、単に子供が減ったからか、車が危ないのかで親が外に出さないのか
- ・原発の小樽への影響が心配
- ・総合計画のための市民意識調査としては設問が少なすぎる。
- ・総合計画についての意識を高めたい

- ・計画の内容は市民にわかりやすい内容とするべき
- ・観光客だけでなく、市民の生活のことをもっと考えた計画を望む
- ・歴史的背景や現代のトレンドから小樽の個性を再確認し、プランを立てるべき
- ・小樽市と状況が類似した他都市の事例を参考にする
- ・今回のようなアンケートは、市が抱く方向性を先に決めてから実施したほうが良い

第Ⅱ部 地区別アンケート調査結果

1 調査概要

1.1 調査目的

小樽市内の町会を対象に、町会の活動状況、会館の整備状況、小樽市の将来都市像について把握し、総合計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

1.2 調査方法と回収結果

- (2) 調査地域 小樽市内全域
- (3) 調査対象 小樽市内町会及び自治会
- (4) 標本構成 標本数 168件
回収数 117件
有効回収数 117件（回収率69.6%）
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間 平成28年8月22日（月）～平成28年9月14日（水）

2 アンケート結果

(1) 町内会活動について

① 現在行っている活動 ② 今後行いたい活動

①現在行っている活動

次に掲げた活動で、あなたの町内会ですでに取り組んでいるもの（主催者又は共催者として）がありましたら、当てはまるものすべての欄に○印をつけてください。

②今後行いたい活動

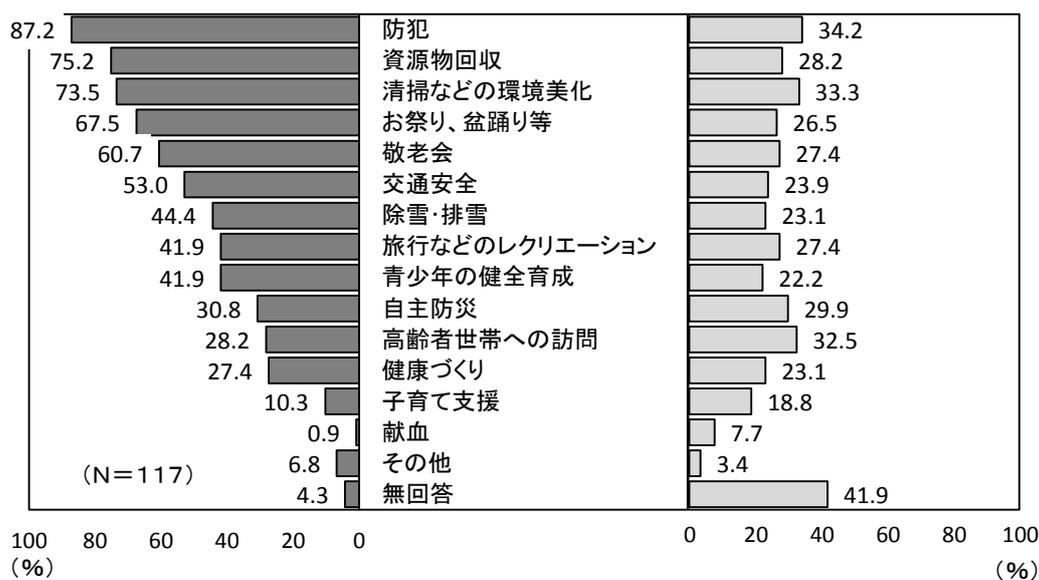
あなたの町内会では、今後どのような活動に取り組みたいと考えていますか。現在行っている活動も含め、当てはまるものすべての欄に○印をつけてください。

町内会の活動について、現在行っている活動については「防犯」が87.2%と9割近くの町会が実施している。また、「清掃などの環境美化」及び「資源物回収」も7割を超えている。

今後行いたい活動では「子育て支援」（18.8%）、「高齢者世帯への訪問」（32.5%）、が増えており、少子高齢化を反映したと考えられる。

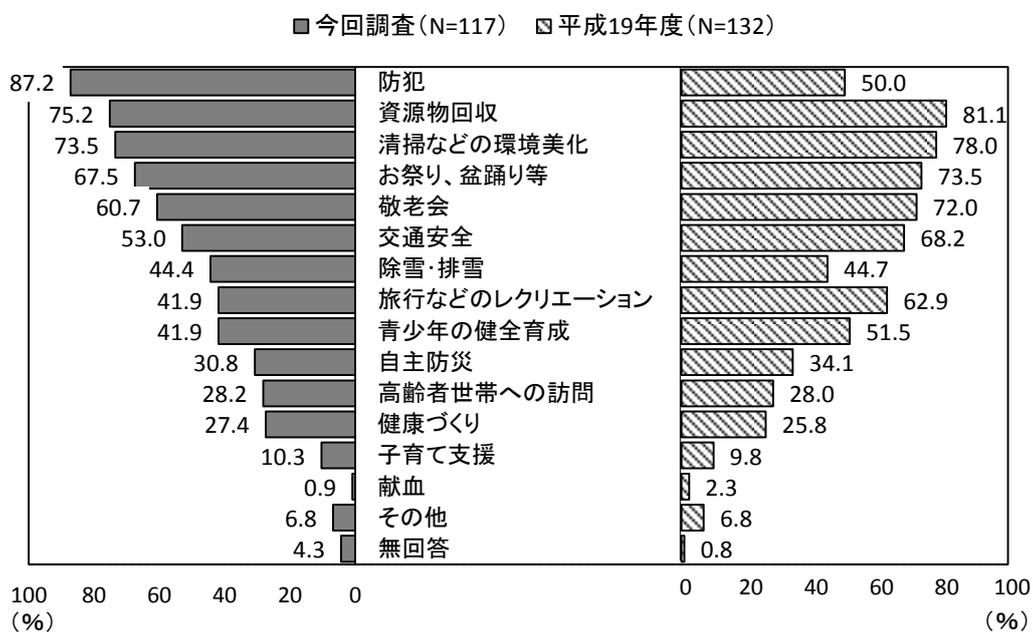
図1 現在行っている活動・今後行いたい活動

■現在行っている活動 □今後行いたい活動



前回調査と比較したところ、現在行っている活動では、「防犯」が 30 ポイント以上多くなっている。また「高齢者世帯への訪問」「健康づくり」「子育て支援」が微増となっており、その他の項目は、概ね減少傾向にある。

図2 現在行っている活動（前回調査との比較）



③ 運営や活動の課題

③運営や活動の課題について

あなたの町内会において、今後改善すべき課題と考えているものがありましたら、三つまで選び、番号に○印をつけてください。

町内会においての今後改善すべき課題については、「役員の確保」が83.8%と最も多く8割以上を占めており、役員の成り手不足が深刻と考えられる。以下、「住民の関心の低下」(53.0%)、「町内会加入率の低下」(30.8%)となっている。

前回調査と比べると、「役員の確保」及び「町内会加入率の低下」が10ポイント以上高くなっている。

図3 運営や活動の課題

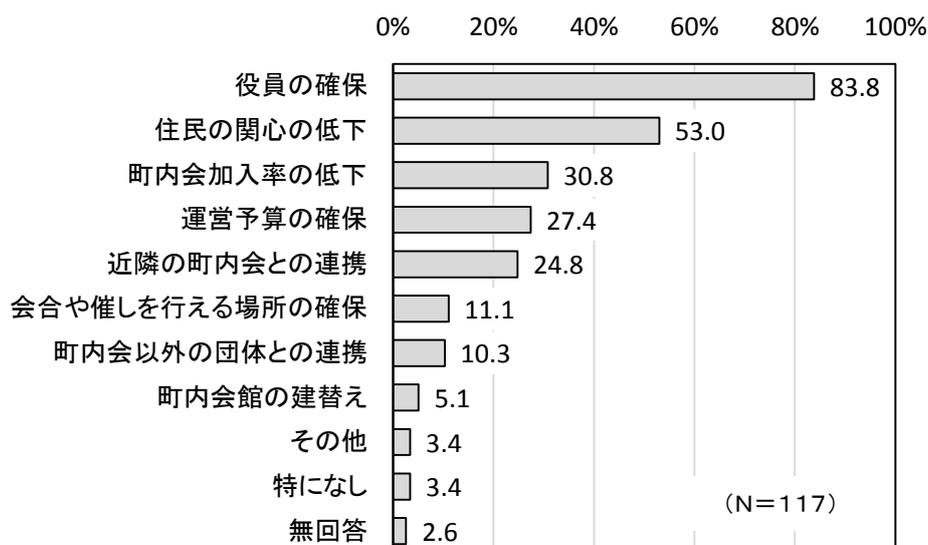
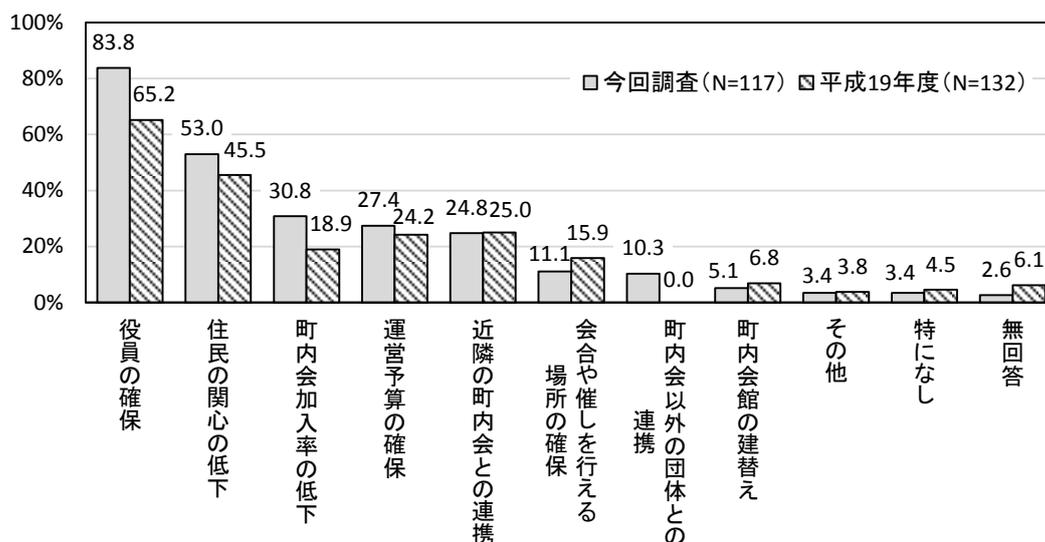


図4 運営や活動の課題（前回調査との比較）



※「町内会以外の団体との連携」は今回調査で新設した項目。

(2) 集会施設の状況について

① 活動の場所

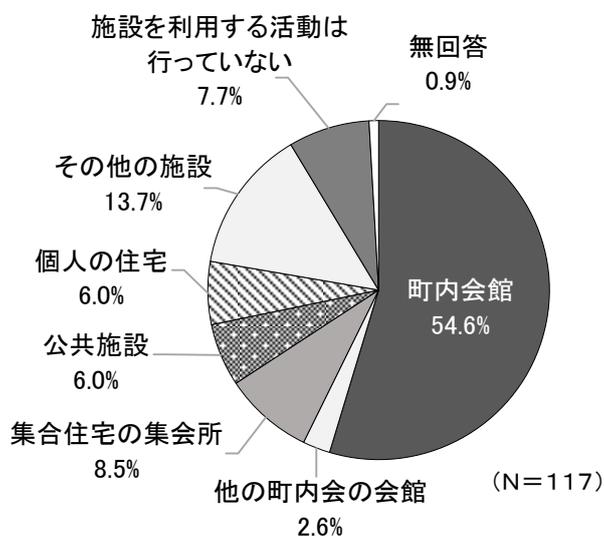
①活動の場所

あなたの町内会では、主にどのような施設で活動していますか。当てはまるもの一つを選び、番号に○印をつけてください。

活動の場所については、「町内会館」が 54.6%と最も多く半数以上を占めている。以下、「集合住宅の集会所」(8.5%)、「公共施設」「個人の住宅」(ともに 6.0%) などとなっている。

一方、「施設を利用する活動は行っていない」町会も存在する (7.7%)。

図5 活動の場所



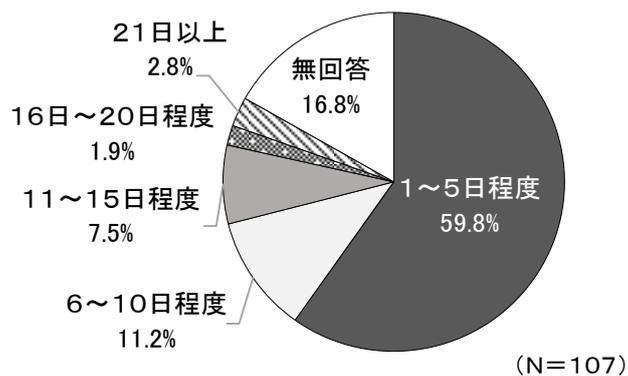
② 利用状況

「①活動の場所」で「1」～「6」と答えた方のみお答えください。

②-1 月に何日程度利用されていますか。

集会施設の1ヶ月の利用回数については、「1～5日程度」が 59.8%と最も多く半数以上の町会を占めている。以下、「6～10日程度」(11.2%)、「11～15日程度」(7.5%) などとなっている。

図6 集会施設の1ヶ月の利用回数

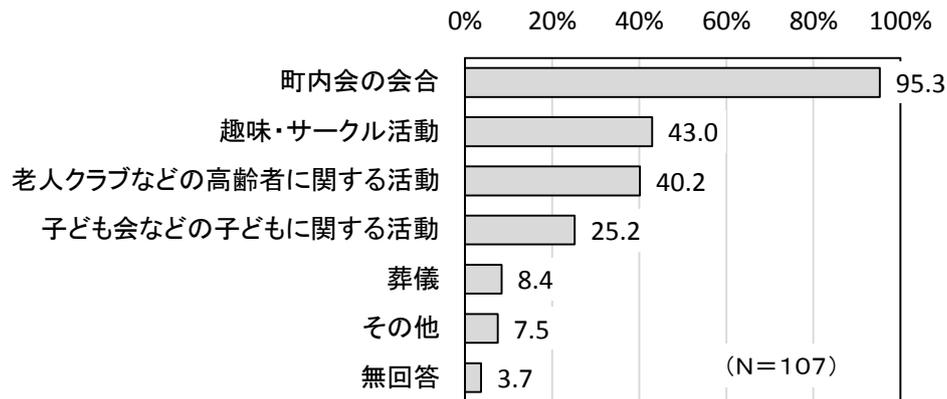


「①活動の場所」で「1」～「6」と答えた方のみお答えください。

②-2 集会施設を主にどのような活動に利用されていますか。当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

集会施設における活動の内容については、「町内会の会合」が95.3%と最も多く、ほとんどの町会があげている。以下、「趣味・サークル活動」(43.0%)、「老人クラブなどの高齢者に関する活動」(40.2%)、「子ども会などの子どもに関する活動」(25.2%)などとなっている。

図7 活動内容

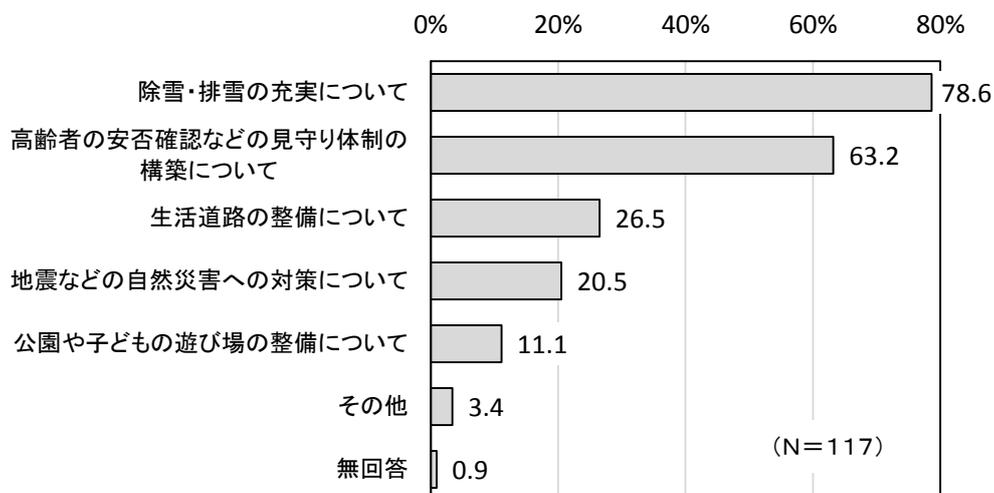


(3) 地域における生活環境等について

地域における生活環境等の中で特に重要と考えているものは何ですか。次の項目について、重要度が高いと考えるものを二つまで選び、番号に○印をつけてください。

生活環境等の中で特に重要と考えているものについては、「除雪・排雪の充実について」が78.6%と最も多く、「高齢者の安否確認などの見守り体制の構築について」(63.2%)も6割を超えている。

図8 生活環境等の中で特に重要と考えているもの

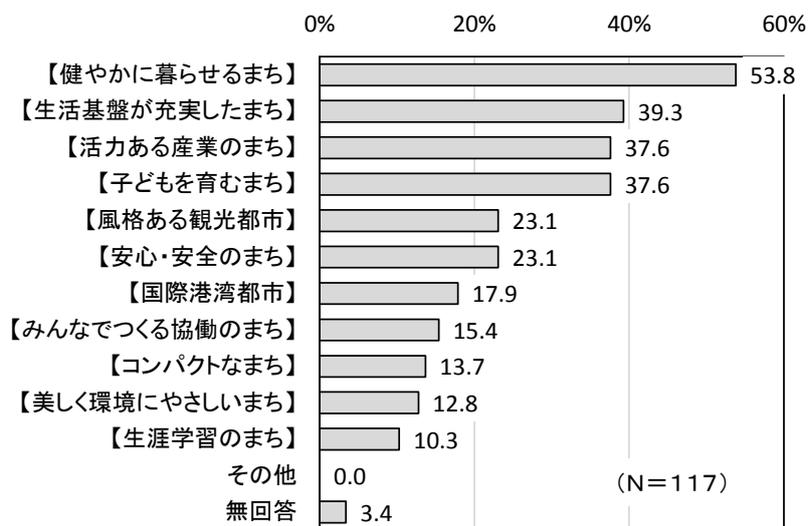


(4) 小樽市の将来イメージについて

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中から将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

小樽市の将来のイメージについては、「健やかに暮らせるまち」が53.8%と最も多く、以下、「生活基盤が充実したまち」(39.3%)、「活力ある産業のまち」「子どもを育むまち」(ともに37.6%) などとなっている。

図9 小樽市の将来のイメージ



○ 自由記載内容

これからのまちづくりについて、地区別アンケート調査で自由に記載された内容を大きく「1 生涯学習について」「2 市民福祉について」「3 生活基盤について」「4 産業振興について」「5 環境やまちなみについて」「6 市政その他」の項目に分類し、要旨をまとめた。

自由記載欄の記入状況は次のとおりとなっている。

記入数 39 町会、記入率 33.3%

なお、1 町会で複数の意見を記載している場合、それぞれ該当する項目毎に分類しているため、記入数より意見数は多くなっている。

また、文末の「他〇件」は、他に同様の意見が〇件あったことを表す。

1 生涯学習について

【学校の教育内容や教育環境】

- ・学生の学力レベルの向上
- ・小中学校の統廃合を極力避ける
- ・通学の不便さなど、学校統廃合による子ども世帯への影響の考慮

【青少年の非行防止や子どもの居場所づくり】

- ・町会内（屋内外）で子どもが運動したり遊べるところがほしい

2 市民福祉について

【高齢者の生きがいづくりや生活支援】

- ・要介護者用施設の整備・充実（他1件）
- ・個人情報保護により、民生委員や福祉関係機関と町会との情報交換が難しくなり、高齢者世帯や独居世帯の把握が困難になっている
- ・独居等高齢者世帯を見守り、孤独死が起きないような環境づくり（他1件）
- ・独居者や高齢者世帯の買い物対策
- ・手稲区方面への公共交通機関での移動に使用できる敬老パスシステムの構築

【安心して暮らせる医療環境】

- ・産科の充実（他1件）
- ・周産期医療の充実

【その他】

- ・保健、福祉、医療の充実

3 生活基盤について

【道路や河川の整備】

- ・高齢者対応として、歩道橋の撤去（古いもの）
- ・路面の補修・改修

【住宅対策（市営住宅、リフォーム支援など）】

- ・空き家や空き地の再活用（他3件）

【除排雪やロードヒーティング】

- ・除排雪の充実
- ・団地在住高齢者の除雪作業への金銭的支援

【交通（公共交通機関や道路の利便性）】

- ・ 銭函駅のバリアフリー化による利用客増加を想定したJR快速の停車の交渉
- ・ 各地区から小樽病院経由～ウィングベイ小樽までの路線バス路線の存続
- ・ 市立病院経由路線など、冬期公共交通の確保

【地震・津波・土砂災害などへの防災体制】

- ・ 災害対策の強化
- ・ 想定にとらわれない災害対策

4 産業振興について

【商店街など商業の振興】

- ・ 統合等も視野に入れた市場の再活性化

【地場産業の振興や企業誘致】

- ・ 雇用創出のための積極的な企業誘致、産業育成（他1件）

【観光振興】

- ・ 治安も含め、外国人観光客とコミュニケーションが取れるような環境づくり
- ・ 外国人観光客増加に対応する市民の国際理解の促進と交流のため、小樽駅前への交流の場の設置と運河プラザへの国際交流プラザの設置
- ・ 観光客が小樽での多額の消費をしてくれるような、好感の持てるまちづくり

【雇用・労働対策】

- ・ 若者の雇用の場の確保・創出（他2件）

5 環境やまちなみについて

【ごみや資源物の収集・処理】

- ・ ごみの不法投棄の監視強化
- ・ ペットの糞害防止の徹底
- ・ ごみの集積所を景観に配慮したものにする

【公園や緑地の整備】

- ・ 手宮公園や小樽公園の整備

6 市政その他

【市政全般】

- ・ まちを大きくすることではなく、確実に生きる人間を大切にすまちづくり
- ・ 経済の活性化、財政基盤の強化づくりを最優先とする
- ・ 市民の要望を、できるだけバランス感覚を持って実現できるまちづくり
- ・ 住民サービスにつながる政策
- ・ 札幌との連携を強化し、札幌と異なる魅力あるまちとして発展させる
- ・ 次世代までを見据えた地域社会の構築
- ・ 健全な高齢者のパワーの、ボランティアや少額有償の福祉活動・労働への活用

【人口対策】

- ・ 自然環境など小樽の魅力のアピールに加えて、市外からの移住者促進のための受け入れ条件の整備
- ・ 札幌市のベッドタウン化
- ・ 若い世代が流出せずに住み留まれるまちづくり
- ・ 【子どもを育むまち】【健やかに暮らせるまち】を充実させ、人口の流出を止める

【市民参加、協働のまちづくり】

- ・ 住民にやさしく、会話のあるまちづくり
- ・ 行政、地域社会（町会等）及び住民の一体化を目指す

【市の体制、市民対応、財政など】

- ・国や道へのアピールを強くして、助成金などの財政支援を要望する（他1件）

【市の将来像】

- ・アンケートの設問にあった将来像は全て大切である

【その他】

- ・アンケートについて、総合戦略と町会活動との関係性が分かりにくい
- ・女性の町内会役員の不足

第Ⅲ部 団体別アンケート調査

1 調査概要

1.1 調査目的

市内の団体（経済、建設、教育、福祉など）を対象に、これからのまちづくりと将来について、どのような方向性のイメージをもっているのかを把握し、総合計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

1.2 調査方法と回収結果

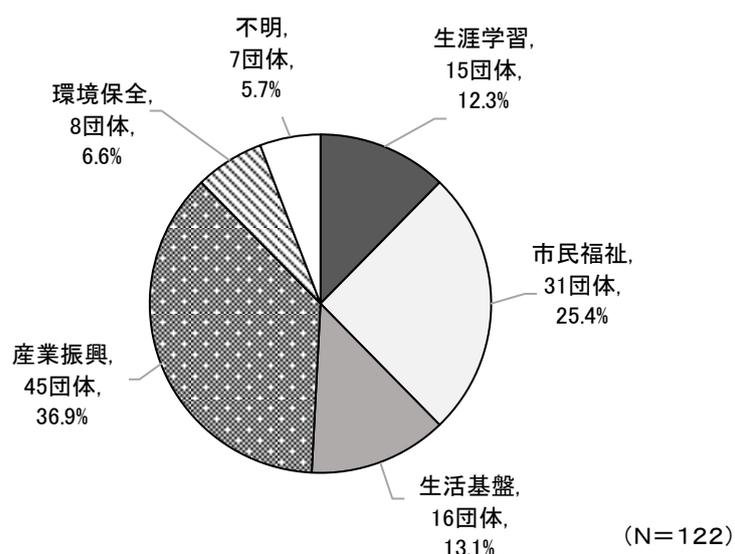
- (1) 調査地域 小樽市内全域
- (2) 調査対象 市内の団体
- (3) 標本構成 標本数 172件
回収数 122件
有効回収数 122件（回収率70.9%）
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 平成28年8月22日（月）～平成28年9月14日（水）

1.3 各団体の分類

各団体を、「第6次総合計画」の「5つのテーマ」ごとに分類した。

なお、各団体の種別については、小樽市が把握している各団体の主な活動内容等から任意に分類したものである。

図1 団体の種別



※「不明」は団体名未記載のため分類できなかったもの

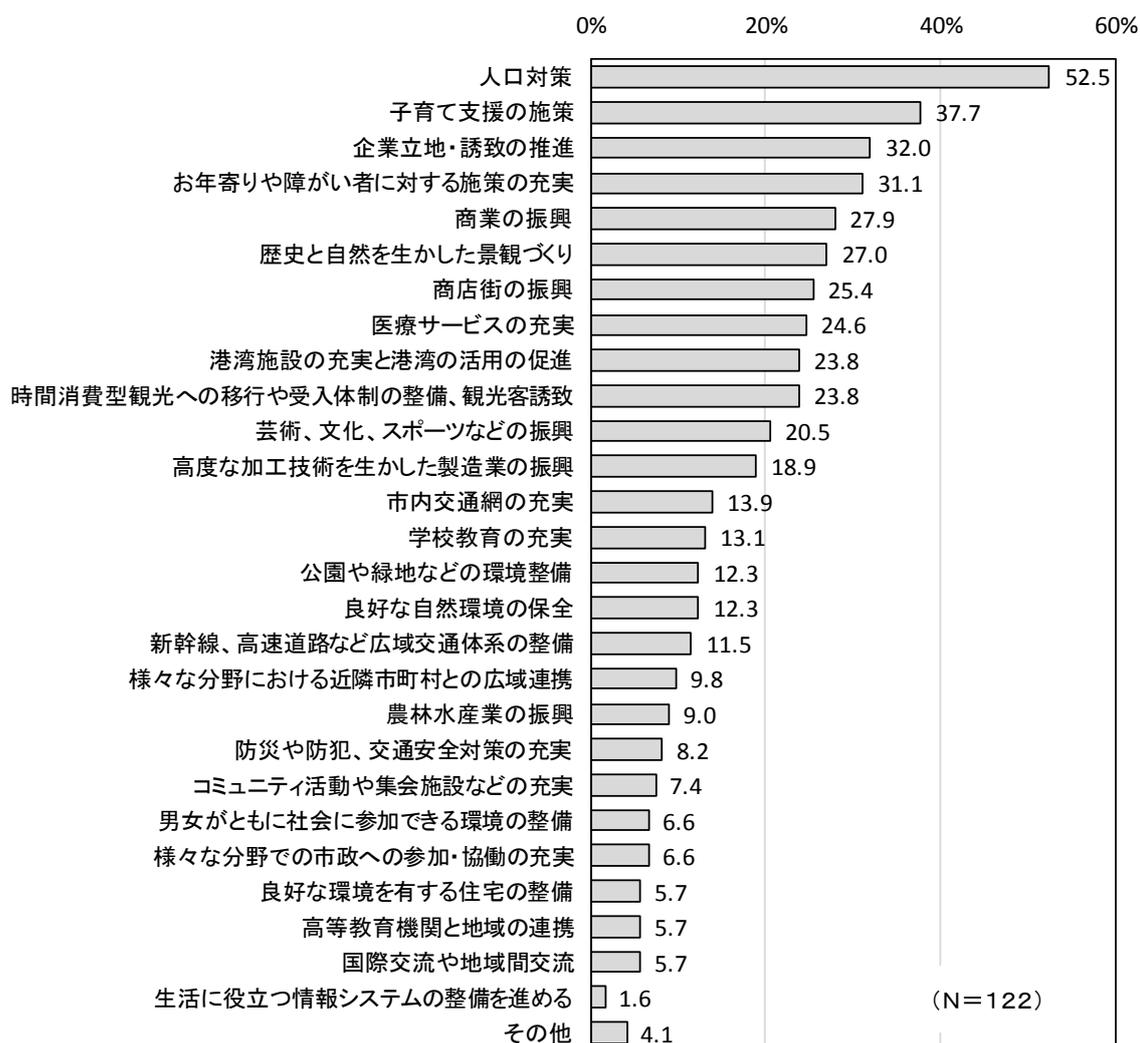
2 アンケート結果

(1) まちづくりについて

小樽のまちづくりについて、どの分野に力を入れるべきとお考えですか。次の中から当てはまるものを五つまで選び、番号に○印をつけてください。

まちづくりのどの分野に力を入れるべきかについて、「人口対策」が52.5%と半数を超え、以下、「子育て支援の施策」(37.7%)、「企業立地・誘致の推進」(32.0%)、「お年寄りや障がい者に対する施策の充実」(31.1%)などの順となっている。

図2 まちづくりについて



各団体の種別ごとに上位3位までを見ると、「生涯学習」「市民福祉」「産業振興」では、それぞれの関連する分野が上位になったが、「生活基盤」「環境保全」については、全般にわたって幅広く各分野に分かれた。

図2-1 まちづくりについて(生涯学習)

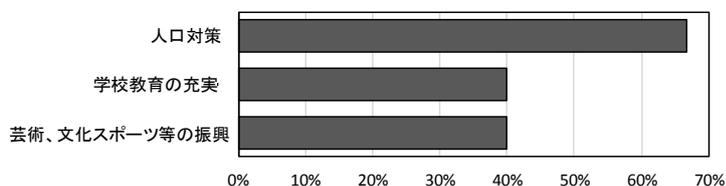


図2-2 まちづくりについて(市民福祉)

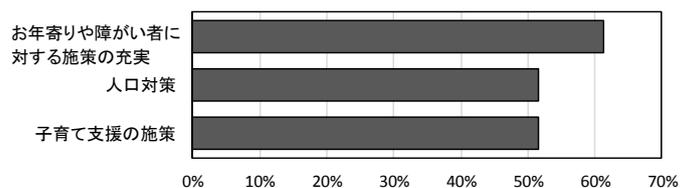


図2-3 まちづくりについて(生活基盤)

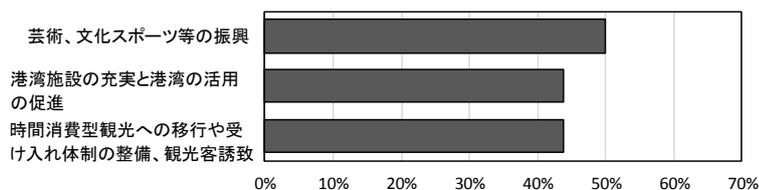


図2-4 まちづくりについて(産業振興)

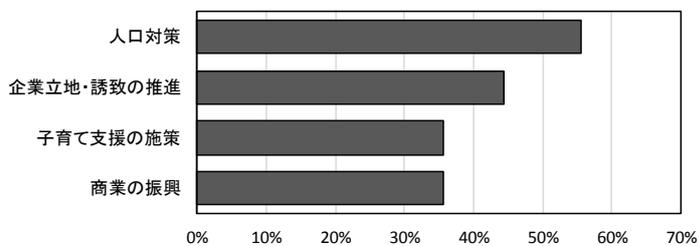
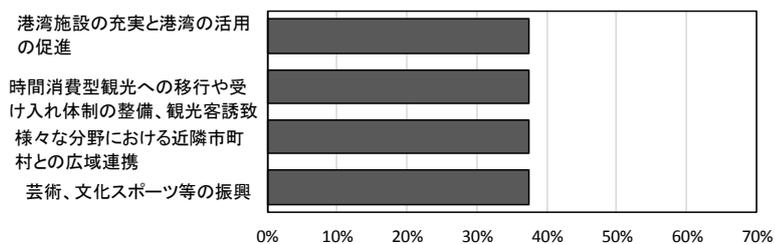


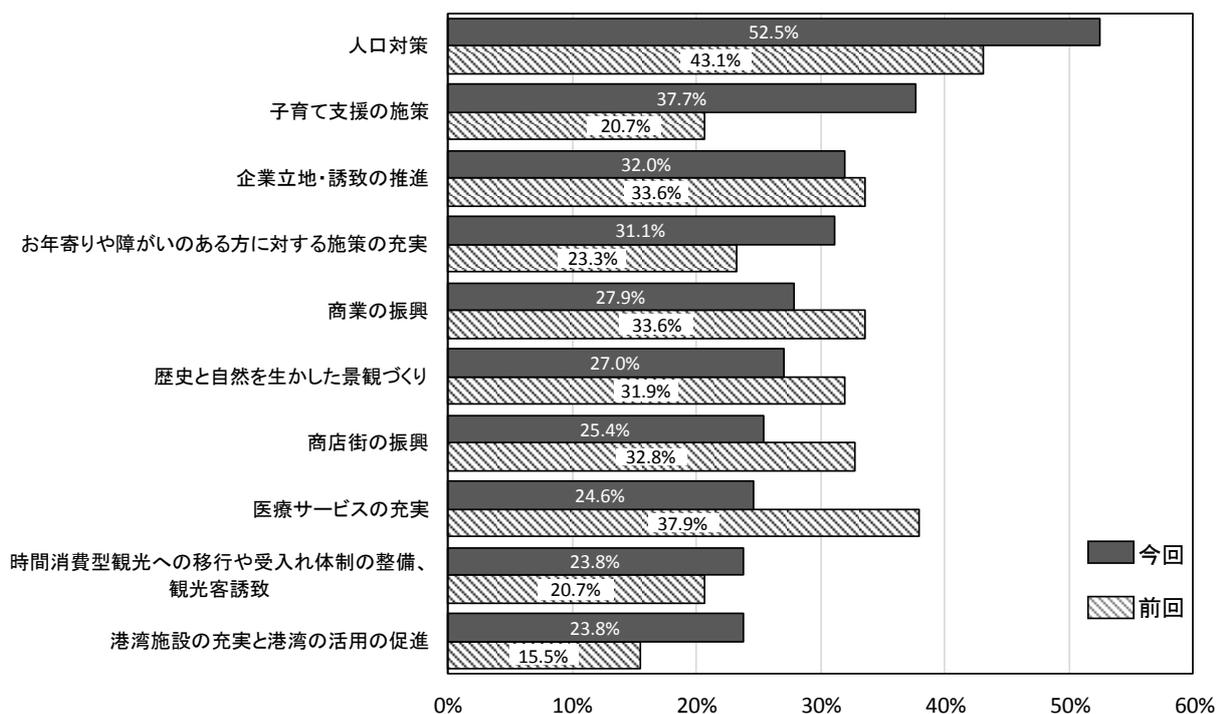
図2-5 まちづくりについて(環境保全)



前回調査（平成19年度）との比較では、「人口対策」が前回に引続き1位で、43.1%から52.5%と増加したほか、2位の「子育て支援の施策」（37.7%）については、前回の9位（20.7%）から大幅に上昇した。また、「企業立地・誘致の推進」（32.0%）は前回と同様3位であった。

一方、「医療サービスの充実」（24.6%）については、前回の2位（37.9%）から8位に下降した。

図2-6 まちづくりについて（前回比較）

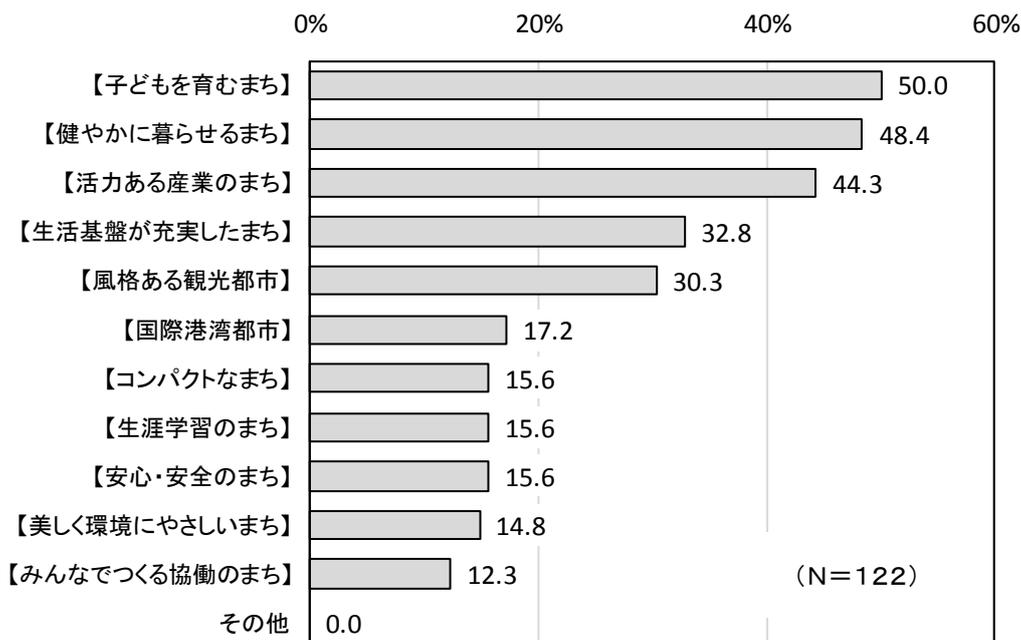


(2) 小樽市の将来像について

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中から思う将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

小樽市の将来のイメージについて、「子どもを育むまち」が50.0%と半数に達し、「健やかに暮らせるまち」も48.4%と半数近くに上っている。以下、「活力ある産業のまち」(44.3%)、「生活基盤が充実したまち」(32.8%)、「風格ある観光都市」(30.3%)などの順となっている。

図3 小樽市の将来像について



各団体の種別ごとに上位3位までをみると、各種別それぞれに関連する分野が上位になった。

図3-1 小樽の将来都市像について(生涯学習)

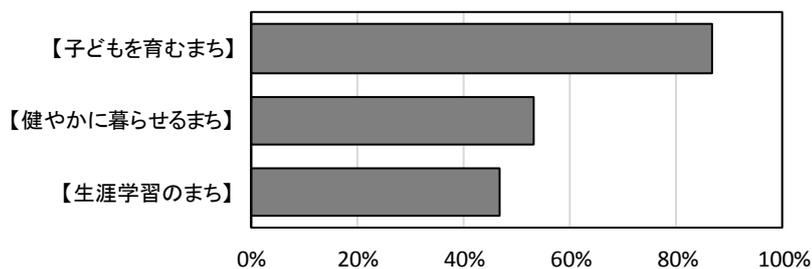


図3-2 小樽の将来都市像について(市民福祉)

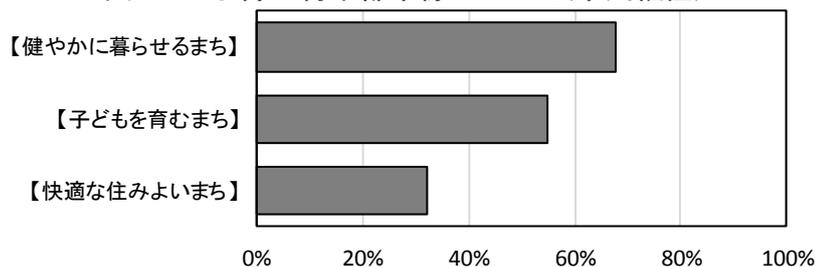


図3-3 小樽の将来都市像について(生活基盤)

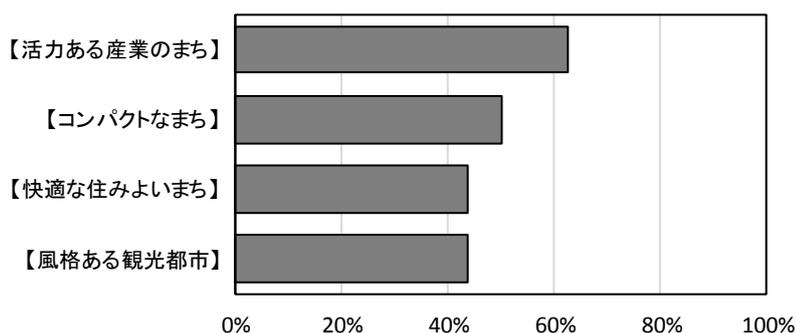


図3-4 小樽の将来都市像について(産業振興)

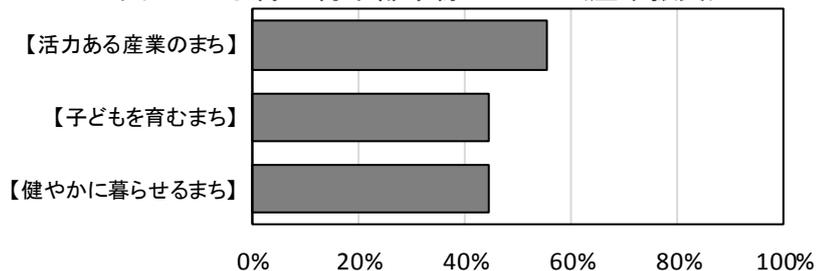
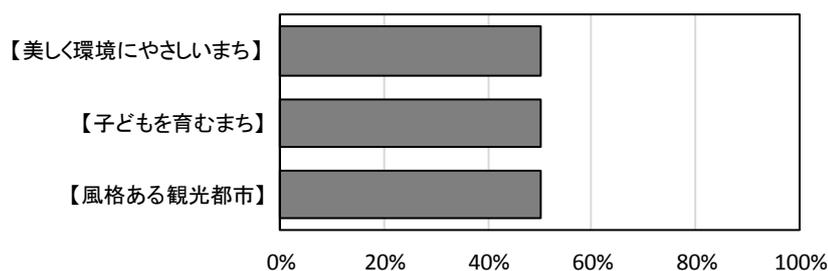


図3-5 小樽の将来都市像について(環境保全)



○ 自由記載内容

これからのまちづくりについて、団体別アンケート調査で自由に記載された内容を大きく「1 生涯学習について」「2 市民福祉について」「3 生活基盤について」「4 産業振興について」「5 環境やまちなみについて」「6 市政その他」の項目に分類し、要旨をまとめた。

自由記載欄の記入状況は次のとおりとなっている。

記入数 58 団体、記入率 47.5%

なお、1 団体で複数の意見を記載している場合、それぞれ該当する項目毎に分類しているため、記入数より意見数は多くなっている。

また、文末の「他○件」は、他に同様の意見が○件あったことを表す。

1 生涯学習について

【学校の教育内容や教育環境】

- ・小樽のまちづくりのためには、将来の小樽を担う子ども達が安心して学び活動する環境が体育面も文化面も同様に大切。新たな取組をするということではなく、現在各学校や教育委員会が少しずつ実施してきていることを、市として力を貸すだけで大きく前進することがあると思う。例えば学習の時間やキャリア教育での地場企業や事業主とのコラボ、町内会との連携、体育協会加盟団体と連携したスポーツ教室の開催などにより、小樽で活躍する若者が増えてくると思う
- ・子どもの体力向上
- ・学校教育の充実に期待する
- ・食育に力を入れてほしい

【文化・芸術に親しむ機会や環境】

- ・車社会において駐車場のない市民会館は論外。市民会館の耐震化に億単位の費用がかかるときいているので、築港付近などへの移転を検討すべき

【スポーツ・レクリエーションに親しむ機会や環境】

- ・スポーツ団体の育成と強化
- ・全国・全道大会開催の環境づくり
- ・おたるフットパス活動を始めました。行政サイドからの応援をお願いしたい

2 市民福祉について

【保育などの子育て支援】

- ・若者が安心して生活し子育てできる施策を行ってほしい（他1件）
- ・将来を担う子ども達のための、健全な心身を培うための子育て支援を

【高齢者の生きがいづくりや生活支援】

- ・特養老人ホームの充実
- ・高齢者の健康づくりと社会参加
- ・ボランティアやスポーツにより健康長寿を目指し、医療費や介護費の削減を図る
- ・シルバーパワーを十分に発揮できる環境整備
- ・独居など的高齢者世帯を中心に、栄養管理による健康管理の体制を整えてほしい
- ・小樽市歯科医師会立で歯科衛生士専門学校を運営し、歯科衛生士を養成しているが、ここ数年定員割れが続いている。衛生士学校を存続することは市内経済・人口対策・教育面に影響を与える。また、小樽市は高齢化のまちであり、お年寄りが最期まで口から食べることで

きるよう、健康寿命の延伸を目指している。今後、地域包括ケアシステムの構築において、口腔の健康増進に歯科衛生士の役割は重要である

【安心して暮らせる医療環境】

- ・医療機関が大きく後退している。眼科・産婦人科が少なく、結婚・出産できない。また、高齢者特有の白内障等の患者は札幌になってしまう。人口減は当然である。北海道との連携を密にして抜本的な対策を進めることを強く望む
- ・子どもの医療費が年齢的に大きな格差があり、札幌に転居したい
- ・安心して出産できる周産期医療体制の充実を望む（他3件）

【その他】

- ・福祉のまちづくりを計画的に目標を持って進めていくために、小樽市地域福祉計画を策定する旨、次期総合計画で示してほしい。特に本市の地域福祉づくりの具体的な推進方策について、介護保険制度との関わりを十分把握した上で福祉施策に反映するとともに、市と社会福祉協議会の役割分担や連携に関しても明記してほしい
- ・医療・福祉サービスを充実させた安心できるまちづくりに期待する
- ・集会施設の充実などによるコミュニティ活動の活発化

3 生活基盤について

【住宅対策（市営住宅、リフォーム支援など）】

- ・空き家が多く見受けられるので、その有効活用等の対策（他1件）
- ・市内をドライブして気になるのが、無人の廃墟の数々。持ち主の責任ですがせつかくの街並みが残念
- ・高齢化に伴う空家対策
- ・住宅家賃の高騰への対策の検討を
- ・自然環境溢れる郊外の一軒家（土地が広く庭・畑つき）をリフォームし、若い子育て世代に格安で賃貸・売買することで、子育てを終えた高齢者で除排雪困難者を中心部の高層マンションに誘導する施策を実施してはどうか。人口減少が顕著となり、ますます空き家が増加して来る中、対策を講じるリミットが近づいて来ていると思う

【除排雪やロードヒーティング】

- ・地理的立地条件（山・坂が多い）から冬期間における生活道路の充実を図る必要がある。自然環境は良いが、高齢者にとっては冬期間の除排雪等を考えると体力的に限界であり将来的に居住困難

【まちなかなどの市街地整備】

- ・小樽駅前にデパートがないのが不思議。スーパーのような店舗では品格がない。

【交通（公共交通機関や道路の利便性）】

- ・新幹線の駅ができることで、街が2分化され、函館・北斗駅のようになるのでは
- ・新幹線の駅周辺に新しい産業を創り出すような中長期的なビジョンが必要では
- ・現在、生活手段としての交通機能が格段に低い銭函地区の桂岡町に高速道路のバス停を新設することで、札幌などから魅力ある人の集まる地区にできるものとする

【地震・津波・土砂災害などへの防災体制】

- ・山や坂の多い地形に住宅が密集している地域があり、いつも雨や地震の度に大丈夫なのかと心配している。こうした地域の自然災害に対する対策は十分ですか
- ・市庁舎の耐震化は喫緊の課題である。早く方向性を決め、着実に進めるよう期待する

4 産業振興について

【地場産業の振興や企業誘致】

- ・人口減少・高齢化が進んでいるならば、介護・障害福祉を産業と見込んで働く世代を札幌から取り込める政策があると心強い（他1件）

- ・特殊な技術を要する工業（電機、工作機械、産業機械、油圧空圧器械、製鉄、製紙、電子、農業、IT、食品、化学、輸送機、製菓、繊維、航空機等）の誘致を積極的に行って、働く人に定着してもらい、これらを育成する教育施設等の充実を図り、人口増加の政策として進める
- ・企業誘致に行政の人とお金の一部でも。小さな会社の企業誘致をしてほしい。特色のあるお店が良く似合う街なので、札幌と同じ土俵に上がらないような、オンリーワンのお店、仕事、人を誘致してほしい
- ・札幌に隣接する特性を生かし、札幌にはない“海”を生かした商業施設を設けるなどした街づくりを推進してはどうか
- ・当団体は製造業、卸売業、小売業、飲食業。また、中身も食品・工芸・器械など多岐に渡り、厳しい経済環境下での抱える課題も数多く、ヒアリング等、現場実態をお聞きいただき、今後の政策立案に生かしていただくよう希望する

【観光振興】

- ・着地型観光プログラムづくりをオール小樽で推進し、30数年間の小樽観光の総決算をする。総決算によって小樽らしい観光都市像を模索・議論しコンセンサスを図り、それに向けて観光戦略をオール小樽で推進
- ・歴史的景観をもう一度見直し、真の観光都市を目指す。
- ・オタモイ海岸を整備して市民や観光客に生かしてほしい
- ・ニセコのインバウンド観光客に小樽に来てもらうような仕組みづくりが必要
- ・市内の宿泊施設が不足している一方、旧祝津小学校のように未利用の公共施設は多い。長期滞在型の観光を可能にするため、例えば空いている公共施設を海外観光客向けの宿泊施設として開放するなどの活用検討もおもしろいと思う
- ・天狗山の山頂に長いブランコがあったら良いと思っている

【港湾の施設整備や利用促進】

- ・客船だけではなく、貨物船もより多くなるよう誘致する政策を

【雇用・労働対策】

- ・若者の市内での就職難対策の検討を
- ・労働賃金の低下への対策の検討を

5 環境やまちなみについて

【環境保全】

- ・自然、山、川、海のある小樽を、市民がもっともっと大切に。ゴミの無い自然環境につくって行きたい

【公園や緑地の整備】

- ・子どもの遊べる公園の充実について、小樽市は遅れていると思う。若い夫婦が安心して出産育児のできる魅力ある環境づくりを望む

6 市政その他

【市政全般】

- ・孫や子の代に負の遺産を残さない政治を
- ・企業誘致を積極的に進めるべきだが、企業においても冬期間が問題であると同時に張碓峠通過と市内に入ってから交通混雑も時間のロスが大きい。いかにこの問題をクリアして誘致を進めるかというプロジェクトチームを編成して検討すべき
- ・廃校後の校舎の再利用を
- ・縦割りの意識をなくし、横の連携を強化した施策づくりを行い、まちづくりに生かすとともに、人権意識を持ってまちづくりを進めていく必要があると思う。既得権益の強い小樽の雰囲気があるが、まちづくりはゼロベースで、しっかりと課題を見極め、このまちをどうする

のか。誰にとってもやさしく安心して住めるまちになればと思う。協力できるところはできる限り協力する

- ・市民の意識や見識が小樽市にとどまり、外に目が向いておらず、現状に甘んじている人が多いように感じる。生活や子育て、高齢者支援を充実することで、小樽市が見直されることを望む
- ・従来の旧態依然（政・財・官）のやり方で失敗を繰り返し、街をだめにしてきたという私見であるため、今までとは違った市政を行ってほしい
- ・札幌など他にはないコンパクトなまちづくりの中で、保健、医療・福祉や子育てなどで住み良いまちづくり
- ・市長の考えやビジョンを政策に反映してもらいたい。何年も惰性で継続され、効果の検証もされていない事業は見直すべき。産業振興や教育系の事業で顕著である
- ・優良な産業が安定した雇用を生み、経済的に豊かな社会が子ども達に豊かな環境をつくり、お年寄りにはのんびりとした生活をもたらす。現実はかなり難しいとは思いますが
- ・知名度が高く、誰もが一度は訪れたいと思う街なのに、同規模の他都市と比べても極端に人口減少が進んでいるのは、やはり子育ての環境や保健・福祉・医療が立ち遅れていることが原因と考える。ハコモノなど一時的に一部の事業者にお金を落とす目的の施策ではなく、市民が永く住み続けたいと思える、生活の利便性と安心感を満たす施策を優先的に行うべき
- ・小樽市に根付いた地場企業（観光・農林水産・製造業など）を育て、又は誘致し、従業員と家族などで人口を増加させ、企業と住民よりの税収入を増加させ、子供達の教育環境と住民の福祉医療を充実させて、小樽に住んでいて良かったと思われる街にしてほしい。現状のように市長・市議会・商工会議所の意志が統一されていない街は魅力がない
- ・今以上に外から多くの人を集める目的で、運河とは別地区にシンボリックな高層建築物と、その周辺に食を中心とした観光施設を連ねた街並みを作り雇用の機会を増やす。また、昼間の空と海の景観を活用して空中や水中の景色に興じたり、思い切った夜の歓楽街の実現で、市民はもちろんのこと、内外からの客を滞在型で楽しんでもらう施設の充実を図る。これと同時に、小樽の伝統的な市場群を活性化させる
- ・若者が学び働くことのできる、生き生きとしたまちづくりを推進してほしい（他1件）
- ・産婦人科の無い街である。職も文化も札幌に集中する中で、いかなる特色を出していくか。今から10万都市の設計図を描いておくべき。その器にあった産業・医療・福祉等、北海道の中でキラリと光る都市づくりを考えるべきではないか
- ・市民の一人ひとりが自分の住む地域が大好きだと思える、誇りに思うことのできるまちづくりが一番と思う。道外から来て、静かで自然の美しい街に毎日感動している。身近な生活基盤を充実させ、新しい時代、新しい社会、新しい地域に向けて意識を変える努力をするために、いろいろな人材の交流によりロールモデルを作ってみてはどうか
- ・歴史的建造物の利用、災害が少なく海山が近い立地条件の良い街なので道外からの移住、商店の閉店時間をもう少し遅く、市長市議会一丸となって市政にあたる、これからは高齢社会になるので高齢者の住みやすい街を目指す

【人口対策】

- ・今のペースで人口減が進むと全ての産業がだめになる。人口増は無理でも早急に人口減対策を進めること
- ・若者の流入策（他1件）
- ・若い人を呼び込むのではなく、全国や海外からの移住者を含めた高齢者が住みたいと思える街を作ってみてはどうか

【市民参加、協働のまちづくり】

- ・若者（小・中・高・大学生など）、中高年、各界、市職員を交えたフォーラムなど15~20人位のグループを複数（5つなど）つくり、自由な意見を述べる機会を設け、全員と市民の大発表会を開くなど、議会・町内会・各団体などに拘らない斬新な発想が必要である

【市の体制、市民対応、財政など】

- ・市の様々な部署で様々な取組をしているが、市民から見るとバラバラ感がある。コーディネーター役の部署を設置し、各部署の連携を推進してはどうか。一つでも実行できる体制にしないと、また「報告書」で終わってしまうのではないか
- ・財政難のため新たな事へのチェンジができず、今まで通りとなってしまうのかなと感じる。財政難にも関わらずボランティア団体への助成金があるのが不思議に思うし、受ける側にも問題があると思う。助成金あつての活動におかしいと思っていない人が多い。無償が当たり前だと思う。このようなアンケートはとても良いと思う。若い方の意見が通りづらい現状なので、市のあらゆる機関で活用出来たらと思う。市民の生の声を聞くことにお金を使ってほしい
- ・アンケートを取ったのだから、少しでも市政に生かせるよう、市長さんを始め市議の方々が努力されるようお願いする
- ・市長と市職員の関係の改善、市長と市議団の関係を改善してほしい。それができないと提案させていただいても無意味と思う
- ・市政をスムーズに運営できるようにしてほしい

【市の将来像】

- ・市内の各地域、各町内会などが生き生きと連携し、自発的なまちづくりがボトムアップしていくような都市像を望む。超高齢化社会を逆手に取ったまちづくり、高齢者が頑張るまち
- ・人口減は防ぐことができないので、コンパクトに都市機能を中心部に充実させ、行政コストを低減させたスリムなまちづくり。周辺は文化、芸術、スポーツ、レクリエーションを楽しむスペース、他都市から流入するほどの教育レベルの高いまち。自分達のまちに誇りを持ち、魅力を十分に伝えることのできる市民意識の高い人々の集合体であるように醸成していく

第IV部 市外在住者アンケート調査

1 調査概要

1.1 調査目的

地域外からの視点で、特に小樽に縁のある方々から意見を聴取することにより、総合計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

1.2 調査方法と回収結果

- (1) 調査対象 東京小樽会会員及び関西小樽会会員
- (2) 標本構成 標本数 427件
回収数 219件
有効回収数 219件 (回収率51.3%)
- (3) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (4) 調査期間 平成28年8月22日(月)～平成28年9月14日(水)

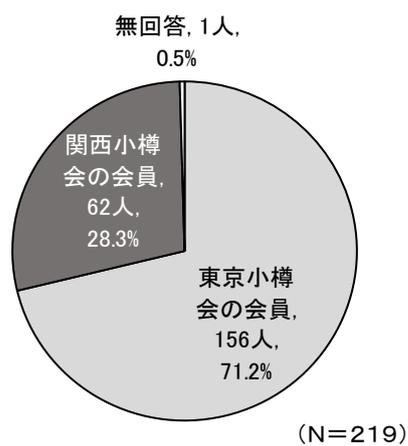
2 アンケート結果

(1) あなた自身について

① どちらの小樽会の会員ですか

回答数 219 人の内訳は、「東京小樽会の会員」が 156 人 (71.2%)、「関西小樽会の会員」が 62 人 (28.3%) となった。

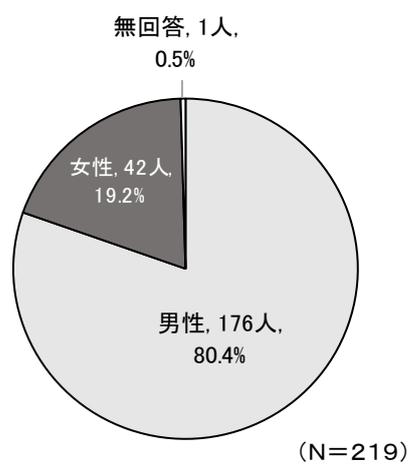
図 1 東京小樽会と関西小樽会の割合



② 性別

性別では、「男性」が 176 人 (80.4%) と「女性」42 人 (19.2%) となった。

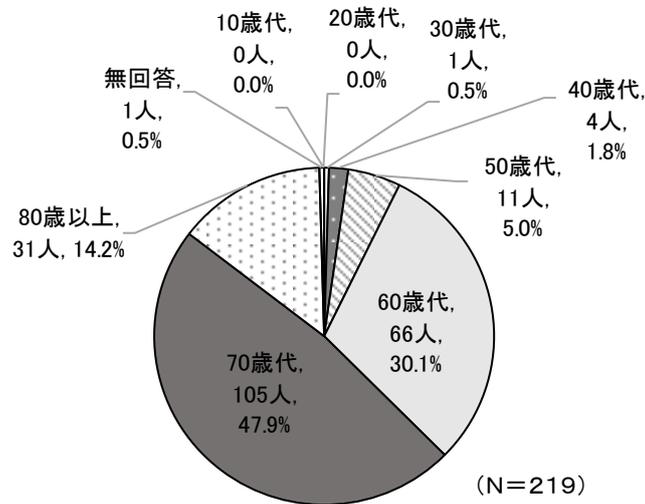
図 2 性別



③ 年齢構成

年齢構成では、「70歳代」が47.9%と最も多く、次いで「60歳代」(30.1%)となっており、60歳以上が9割以上を占めている。

図3 年齢

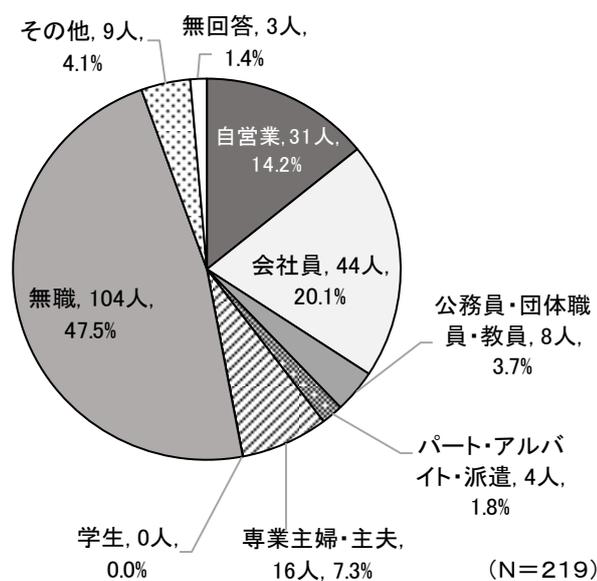


④ 職業

職業では、「無職」が47.5%と最も多い。主な理由として70歳代以上の人が多いことが考えられる。以下、「会社員」(20.1%)、「自営業」(14.2%)、「専業主婦・主夫」(7.3%)などとなっている。

「その他」の内訳は、「著述家」「フォトジャーナリスト」「霊媒師」などがあつた。

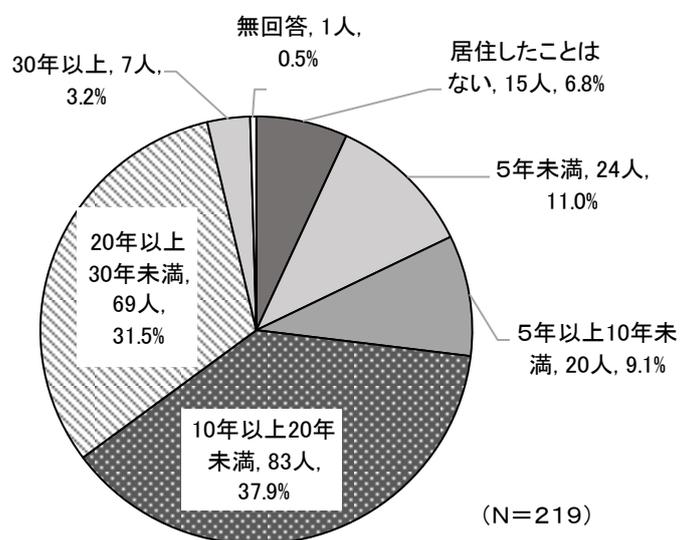
図4 職業別



⑤ 小樽市での居住歴

居住歴では、「10年以上20年未満」が37.9%と最も多く、「20年以上30年未満」(31.5%)、「30年以上」(3.2%)と10年以上居住した人が7割以上となっている。

図5 小樽市での居住歴



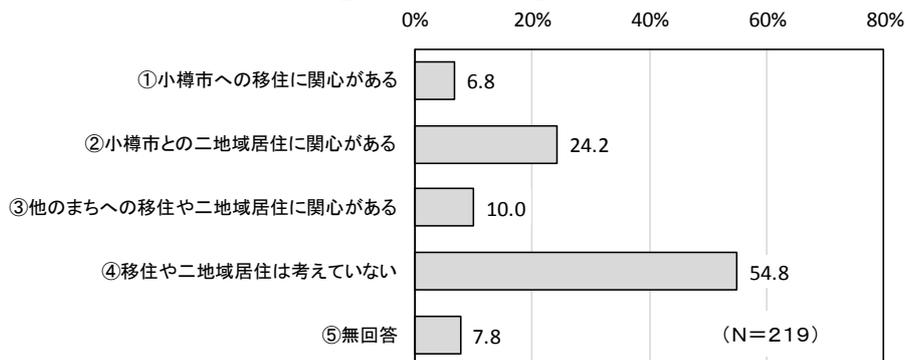
(2) 移住や二地域居住について

①-1 移住や二地域居住への関心について

あなたは、移住や二地域居住について、現在どのようにお考えですか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

移住や二地域居住について、約4割の人が「関心がある」と回答している。そのうち4分の3が小樽市への移住や二地域居住に関心を持っている。なお、移住よりも二地域居住に対する関心のほうが高い結果となった。

図6 移住や二地域居住への関心について

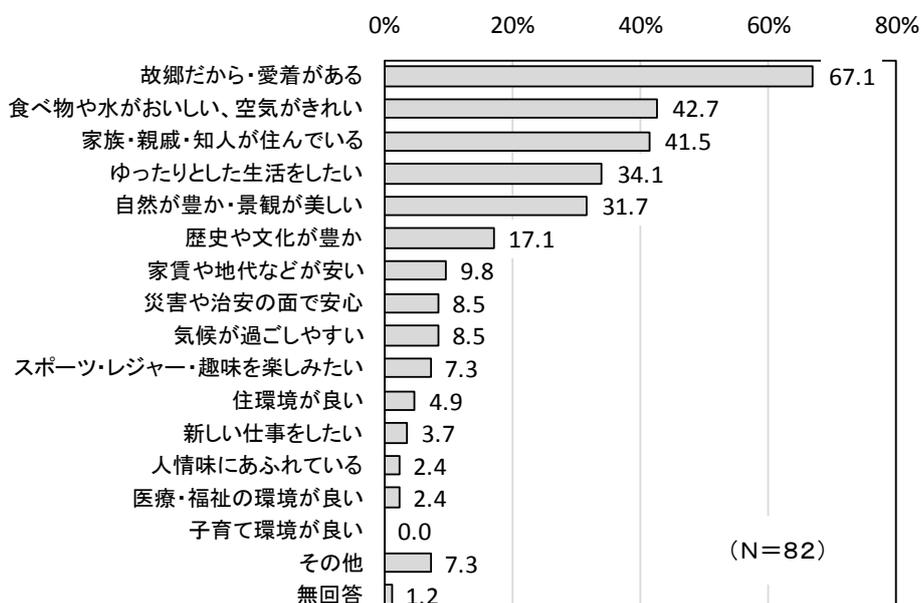


①-2 移住や二地域居住に関心のある理由

「①-1」で①～③を選んだ方のみお答えください。
あなたが移住や二地域居住に関心がある理由をお答えください。
次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

移住や二地域居住に「関心がある」と回答した人の「関心がある理由」については、「故郷だから・愛着がある」と回答した人が67.1%と最も多く、以下、「食べ物や水がおいしい、空気がきれい」(42.7%)、「家族・親戚・知人が住んでいる」(41.5%)と続いている。その他の回答は、「近郊に住んでいる」「小樽の経済を活性化したい」などであった。

図7 移住や二地域居住に関心のある理由



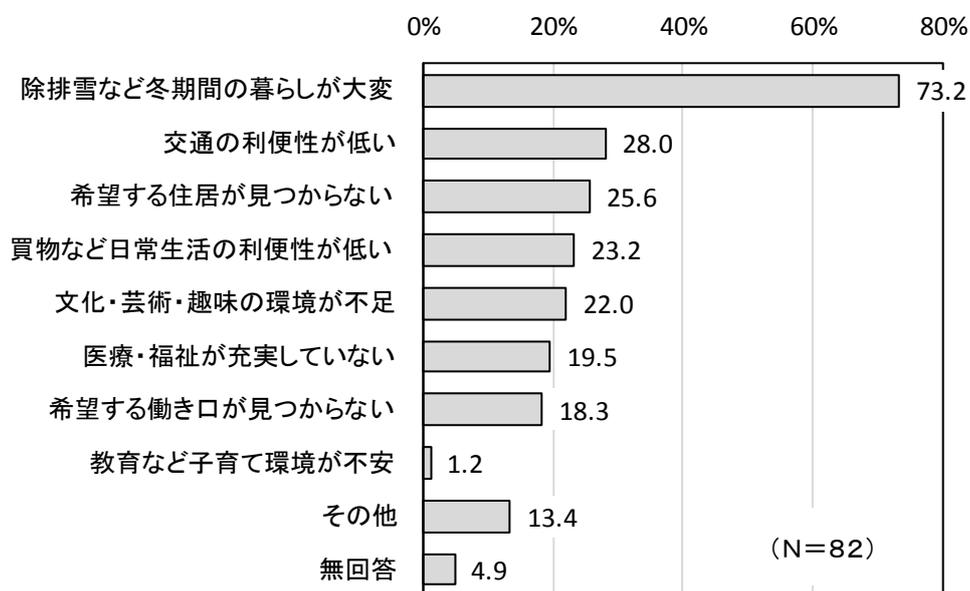
①-3 移住や二地域居住をする上での問題点

「①-1」で①～③を選んだ方のみお答えください。
 あなたが、移住や二地域居住をする上で、どんなことが問題になりますか。
 次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

移住や二地域居住する上での問題点については、「除排雪など冬期間の暮らしが大変」が、73.2%と圧倒的に多い結果となった。それ以外の項目については、概ね2割から3割程度であったが、「教育など子育て環境が不安」が1.2%と低い結果となった。これについては、回答者の多くが子育て世代ではなかったためと考えられる。

その他の回答としては、「(問題点は)特に無い」「現在地での生活の整理が大変」などがあった。

図8 移住や二地域居住をする上での問題点



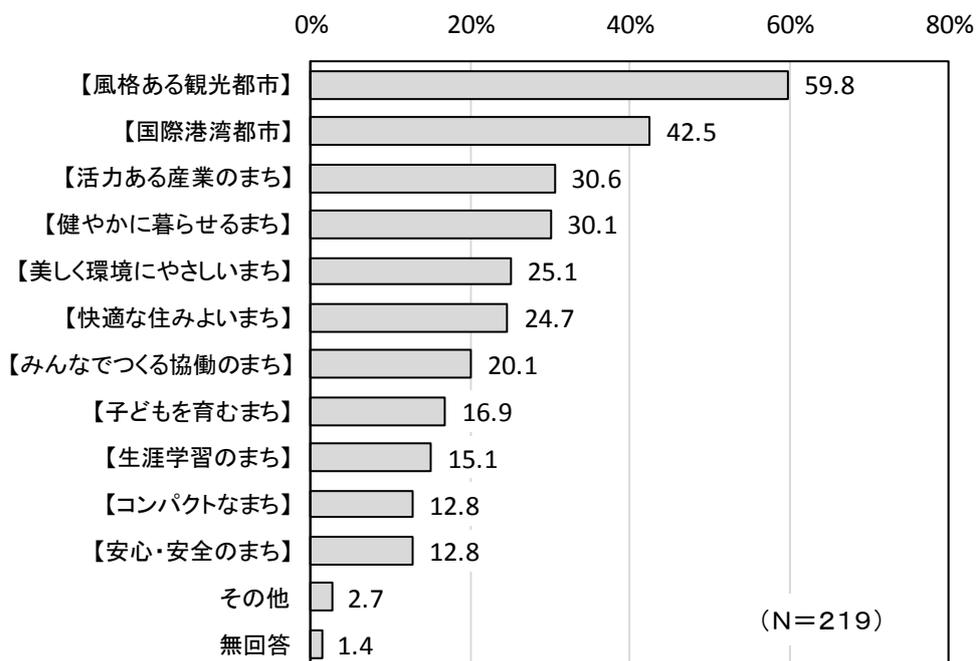
(3) 小樽市の将来像について

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中から思う将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

小樽市の将来のイメージについて、「風格ある観光都市」が59.8%と半数を超え、以下、「国際港湾都市」(42.5%)、「活力ある産業のまち」(30.6%)、「健やかに暮らせるまち」(30.1%)などの順となっている。

その他では、「国が行う“イノベーション起動”事業に参画し、「起業人」の集まる【イノベーションに関わるまち】」「高齢者の街、国際多人種の街、商業のチャレンジが可能な街」「新幹線の早期完成による、交通至便な拠点都市」などがあつた。

図9 小樽市の将来のイメージ



(4) 「魅力あるまちづくり」について

あなたが思う「小樽の魅力」や、その向上・情報発信について有効と考える取り組みがありましたら、お書きください。(人・もの・場所など、どのようなものについても結構です。)

自由記述形式により小樽の魅力について質問したところ、記入状況は次のとおりとなった。

記入者数 144人、記入率 65.8%

1人で複数の意見を記載している場合、それぞれの意見毎に分けているため、記入者数より意見数は多くなっている。

また、記入内容に傾向が見られたため、「1 歴史・自然・景観などの観光資源を生かした取組」、「2 PR強化などの情報発信に関する取組」、「3 その他の取組や意見等」に大別して掲載している。

なお、文末の「他〇件」については、他に同様の意見が〇件あったことを示す。

1 歴史・自然・景観などの観光資源を生かした取組

- ・歴史ある街。伝統と文化を大切にし、単なる観光の街にならないように (他2件)
- ・魅力である運河・街並み・文化・歴史・食を次のステージへ (他7件)
- ・歴史的価値のある建物が多いので、蚤の市、骨董市やアンティークフェアなどを定期的
に開催し、定着すると楽しみに来られる方も多いのでは
- ・岩穴・眺望の観光、高島オバケのツアーなど海岸部の活用
- ・運河・自然をもっと活用すべき
- ・土日を活用し、海を利用した観光施設の充実
- ・歴史的な建物を若い人などの働き場所に繋がるような産業づくり
- ・歴史的な遺産と運河の活用 (他4件)
- ・離れて暮らしていると、坂のまちはなかなか魅力的 (他1件)
- ・塩谷の海水浴場をもっと整備する
- ・天然の良港と天狗山から港までの坂道を生かし、観光を中心とした四季を通じて魅力あ
るまちづくり
- ・海・山・坂の資源を生かしたインパクトある施設を民間委託により充実させる
- ・歴史的景観や公園などを守り、落ち着いた観光都市になるのがよい
- ・防波堤や奥沢水源地などの土木遺産
- ・景観3大ポイント (毛無山、天狗山、手宮公園から望む港と増毛連山) の活用
- ・海釣り公園の整備
- ・コンパクトな街なので、海～山への動線が近いので、山に登れるルートを増やす
- ・歴史的建造物や庭の調査や活用方法、修繕や手入れ、案内ガイド、イベント実施者とし
て、町内会や地域ボランティアの高齢者の活用を
- ・魅力ある自然環境の活用
- ・歴史資料 (商業・産業・教育) の保存と充実、公開
- ・平磯展望台の駐車場所の確保、水天宮に堺町から登るリフト
- ・海山の特性を生かし、若者が住みたいと思うまちづくり
- ・祝津海岸景や青の洞窟探訪に地元漁師が和船で漕ぎ入る
- ・静かな自然環境の中で歴史を感じられるように (他1件)
- ・自然環境に恵まれ、歴史的建造物もあって深みがあるが、冬期の雪に抵抗がある
- ・北前船の終着港であり、ロシアの交易の起点であった歴史を生かし、北方との関係をも
っと開発して観光ルートにつなげる視点を
- ・中国人の中年以上の人は教科書で小林多喜二のことを習ったようであり、小林多喜二・
伊藤整を前面に出した取組みを

- ・新幹線新小樽駅を軸に広域観光都市づくり、温泉・山・川・海をめぐるルートづくり、資源の再開発などによるレジャー施設誘致
- ・すし店などで、良心的な価格で良いものを提供する店を「小樽の味1店」のような形で支援する仕組み
- ・山も魅力であるため、山側に宿泊できたり町外れのほうにも巡れるようシャトルバスなどを
- ・ヨーロッパの南フランスの港町サントロペを手本に
- ・すしで有名なので、大々的にすし祭りのような催しを
- ・観光スポットをストーリー性のある結び付けを
- ・観光+文化都市として、もっと観光を生かす
- ・パンジュウ、市場、にしん御殿の活用
- ・観光に味を求める観光客のため、観光業者、食品業者、飲食業の絶大な協力を求める
- ・小樽港と運河を一体とした観光へ

2 PR強化などの情報発信に関する取組

- ・住みやすさをもっと外部にPRすべき
- ・都内に小樽製品の販売所、PR場所の新設
- ・もっとテレビなどで取り上げられるような働きかけをすべき
- ・英語・中国語・韓国語の観光パンフレットを
- ・TV等のマス発信に加え、IT・SNSでの双方向型の情報対応が必要
- ・運河と山の動線や地区ごとに特色ある市場や商店街の魅力をもっとPRすべき
- ・小樽商大をもっとPRすべき
- ・小樽市内の一軒家の賃貸住宅の空き状況を知らせ、格安で借りられることをアピールする
- ・全国への情報発信の強化による活性化
- ・行政の発信力の強化
- ・潮まつりなどのイベントの時に、小樽出身者などゆかりのある有名人に紹介してもらう
- ・もっと観光PRを
- ・小樽出身で日本や海外における重要な人物を大切に
- ・Facebookで積極的に魅力発信
- ・「小樽市総合博物館本館」より「鉄道博物館」のほうが情報発信しやすいのでは
- ・産業の街、海外への出入口であった頃の名残りなど、小樽の歴史を掘り下げて、来訪者の関心を惹きつけるような案内書があると良い
- ・毎年1か月滞在してスキーをしています、そういった滞在のための安価なワンルームマンションの情報などがあればスキー客が増えるのでは
- ・1～2週間のショートステイができる宿泊施設を全国的にPR
- ・小樽市のサテライトショップはせめて池袋にすべき
- ・インフラを含め、先人が築いた財産の山がある。コンパクトシティにして、遺産の活用をポイントにまちづくりのプランをPR
- ・新撰組の永倉新八が晩年に住んでいたエピソードなどをPRしては
- ・運河だけではなく、祝津海岸やオタモイ海岸などをもっとアピールする
- ・京都の祇園祭、青森のねぶた祭のような発信力のある行事を育てる
- ・海産物・農産物の魅力を伝えるために、もっと港町小樽と強く打ち出す
- ・建物の説明書などは、世代により興味の持ち方が違うので、それを意識して簡易なものから内容の濃いものまでをイラスト付きで何通りか作成する
- ・オタモイの青の洞窟や祝津の日本三大大桑を売り込む

3 その他の取組や意見等

- ・高齢者が安心して暮らせるまちづくりに期待
- ・魅力あるまちづくりの前に、まず働く場所があり、皆が生き生きと生活できることが大切
- ・わが故郷「小樽」のイメージをいつまでも残してほしい
- ・小樽っ子の元気が溢れるまち
- ・ニセコ・余市・積丹を含む広域的な観光を（他5件）
- ・小樽に泊まれる旅行パックなどにより滞在の長時間化を（他4件）
- ・若い人が長く勤められる雇用の場を（他1件）
- ・12月から3月の冬期間にイベントを企画
- ・シベリアや樺太貿易の拠点として再整備
- ・観光・生涯学習・美しい環境のまちとして特徴を強めて、札幌との距離を縮めることが有効
- ・すしが高い（他1件）
- ・小樽港の充実による人的・物的交流活発化
- ・市民どうしの意見交流を広げる
- ・食としての海産物、小樽での小樽産の海産物の充実
- ・ハードではなく、ソフトが必要
- ・若い人の雇用の場として、観光スポットを点から面への開発を（他1件）
- ・客観的な評価のもと、更なる名産品の開発
- ・高校生のボランティア観光ガイドを育成することで、学生の語学力が高まり、外国人からはおもてなしの街となる
- ・ロシアとの交流（他1件）
- ・人情深くやさしさの溢れるまち
- ・札幌とのリンク、ニセコ等との有機的な連動
- ・夏・冬体験型観光のリピーター増の対策
- ・繁華街は夜9時頃まで賑やかに
- ・海外からの交流を増やす方策の強化
- ・港をもっと活用する方法を（他3件）
- ・商業都市として海外との交流を積極的に
- ・安価で長期滞在できる場があれば二地域居住の希望者はいる
- ・交通アクセスの向上
- ・祭りへの取組
- ・一軒専門店（呉服屋、生地屋、お菓子屋、眼鏡店、おもちゃ店、酒店など）を大切に
- ・旅先で微笑みをもらう温かみ、観光のまち小樽は微笑みから始めては
- ・文化・産業・まちづくりのノウハウを情報交換できる都市連動の仕組みづくり
- ・職員に外国人を多く採用することから始める
- ・宿泊施設の増加
- ・インバウンド、アウトバウンドを取り込んだ医療中心のまちづくり
- ・子どもを育てる環境を大切にすまちづくり
- ・接客マナーの向上、図書館の充実
- ・北海道の窓口（入口）としての小樽の地位の強化
- ・ホテル料金を下げる、ホテル不足を解消する
- ・広い土地と首都圏より安価な労働力
- ・市教育振興活動の中心のひとつと位置づけ、小中高生向けのスポーツ施設を設置するための市の財政支援を
- ・働く場所、治安、医療、健康、福祉が大切
- ・観光施設の拡充や開発（現状はまだ不十分）

- ・高校のレベルアップ
- ・水族館・水産高校・漁業協同組合との連携で水産資源開発
- ・廃校の即再利用
- ・小樽商大をもっと通いやすい銭函等に移転すべき
- ・大型客船棧橋、新千歳空港や新幹線とのジョイント、ロシアの窓口として
- ・水道水がおいしい、高齢者が元気で親切、物価が安い、市街地はコンパクトで徒歩でも便利、夜の花園銀座街も魅力的
- ・産業復興策による人口減少に歯止め
- ・チェーン型の安価なホテルの誘致
- ・港の入船数の増加
- ・小樽駅や小樽港をバックに写真撮影している観光客をよく見かける
- ・近隣の道内客を呼べる観光の魅力を
- ・市民を巻き込んだまちづくり、市民が施策を考える
- ・市民が明るく協調性に富んだまちづくり
- ・ぜひ行ってみたいと思う何かがあるまち
- ・今年、オタモイに行ったら海岸のほうに入れなかった
- ・魅力あるまちづくりの核心を生み出すのが、企画担当の市職員の仕事である

○ 自由記載内容

これからのまちづくりについて、市外在住者アンケート調査で自由に記載された内容を大きく「1 生涯学習について」「2 市民福祉について」「3 生活基盤について」「4 産業振興について」「5 環境やまちなみについて」「6 市政その他」の項目に分類し、要旨をまとめた。

自由記載欄の記入状況は次のとおりとなっている。

記入者数 156 人、記入率 71.2%

なお、1人で複数の意見を記載している場合、それぞれ該当する項目毎に分類しているため、記入者数より意見数は多くなっている。

また、文末の「他○件」は、他に同様の意見が○件あったことを表す。

1 生涯学習について

【学校の教育内容や教育環境】

- ・ 幼児～高校生まで、教育レベルについて質的見地で本腰を入れる、育てる大人のレベルが大切であり、住民の質が財産
- ・ 特に小学校では授業についていけない子をなくすように学校教育を充実させる
- ・ 小樽に貢献する事を目的としたクラスを高校につくる。一定の規模になったらそんな学校をつくる

【スポーツ・レクリエーションに親しむ機会や環境】

- ・ スポーツ活動施設による人的交流の充実

2 市民福祉について

【福祉活動やボランティア活動について】

- ・ ボランティア精神醸成のため、町内会の活動強化

【保育などの子育て支援】

- ・ 子育てのまち、母になりたいまちなど、住環境をもとにしたスローガンの設定

【高齢者の生きがいつくりや生活支援】

- ・ 人口減少のなか、福祉や医療の充実、特に在宅介護と施設入所介護への対応が重要

【安心して暮らせる医療環境】

- ・ 北海道の医療（先端医療・老人医療）の中心を担う

3 生活基盤について

【住宅対策（市営住宅、リフォーム支援など）】

- ・ 小樽は坂道が多く、高齢者も多く、特に冬は雪の中での生活が不便、買い物なども不便であり、一戸建てに住むリスクは大きすぎる。中心部の高層マンションへの転居や大型スーパーの誘致による暮らしやすいまちづくりをする
- ・ 高齢者のまちなかへの住居移動の施策が必要

【除排雪やロードヒーティング】

- ・ 融雪の充実

【まちなかなどの市街地整備】

- ・ 小樽駅前の抜本的な再開発
- ・ 築港周辺の再開発

- ・まちなかの便利な場所での中高齢者向け分譲マンションや2部屋程度ある有料老人ホームなどの全国的な需要調査をしてほしい。同じ建物にマンション、老人ホーム、介護事業所、リハビリルーム、スーパーマーケットやレストラン等、外出しなくても廊下や屋上で散歩できるような複合施設を（他2件）
- ・駅前から港までの道路が整備されて良くなったと感じた
- ・街なかの小規模駐車場が目立つのが気になる
- ・都市計画の行き届いた魅力あるまちづくり
- ・コンパクトなまちづくりで、高齢者と子どもがコミュニケーションを図れるスペースがあると良い

【交通（公共交通機関や道路の利便性）】

- ・市内1日利用のバスでゆっくり街並みを見られる

4 産業振興について

【水産業の振興】

- ・小樽の特徴的な海の幸をもっとPRしてほしい
- ・市内の海産物の加工業者が減っているので、回復できれば良いと思う

【商店街など商業の振興】

- ・運河付近だけでなく、花園第1、第2通の商店街通りも活気溢れる通りにしてほしい
- ・ラスベガスやイタリアの2月に開催される仮面カーニバルなどを一度見学すると良いと思う
- ・サンモールや都通りの活性化が必要、特にサンモールはいつまでたっても空き店舗が多く閑散としており見苦しい
- ・小樽駅近くに「南樽市場」のような魅力ある大衆的市場があると良い
- ・市場を集約して市民や観光客の集まりやすい場所にする
- ・サンモール商店街とエキサイカイ病院の駐車場との間の壁を取り払って商店形成を推進
- ・国道沿いの商店街の活性化

【地場産業の振興や企業誘致】

- ・観光以外の産業の活性化に努めてほしい
- ・若い人を受け入れる、小樽の特色を生かした企業誘致
- ・工場やIT企業の誘致（他1件）
- ・イタリア・ドイツにあるような、工芸、工具、スイーツ、介護、犬の訓練センターなど「職人が住み、育てる街」を
- ・観光産業は景気に左右されやすいので、コールセンターなど人を必要とする企業を大都市圏から誘致する
- ・若者が住みたいと思う産業の確立（他1件）

【観光振興】

- ・宿泊型や体験型観光、夜の観光に力を入れるべき、市郊外、冬期を含め検討を（他10件）
- ・安価なホテルの誘致
- ・観光産業において重要や飲食のうち、飲については女性の接客型から観光客が気軽に立ち寄れるBAL（バル）のようなスポットを作るべき
- ・いつまでも誰が訪れても懐かしいと感じられるような「日本の古里」として大事にしてほしい
- ・海からの景観がすばらしいので、遊覧船を増やして「あれを乗らなきゃ残念だよ」という位にしてほしい
- ・観光に対し市民が積極的にボランティア活動できる環境をつくる
- ・新しい観光の発掘（青の洞窟、特色ある水族館、ロックライミング、天狗山の四季）
- ・オタモイ・忍路の観光化、運河付近の海外からの出店
- ・手宮線を復活させて、南小樽～手宮間にしづか号を走らせる、大々的なキャンペーンをして、小樽会を通じるなどして全国から募金を募ってはどうか（他1件）

- ・日本中どこにでもある箱物の土産物屋でがっかりした
- ・小樽の街を象徴するようなランドマークがあればよい
- ・港と商店街を快適に移動できるような公共インフラ（乗り物、トイレ）や飲食店の整備をしてほしい
- ・潮まつりの更なる内容や質を向上し、全国や海外にPR
- ・潮まつりのような大きなイベントを利用して市民、企業、市役所や団体等の心がひとつになるよう仕向ける
- ・観光都市の地位を更にアップするため、ヨットやスキーに力を入れる
- ・すしは高ければおいしいのは当たり前であり、特にセット物は不快。行政的には難しいと思うが率直な感想
- ・駅から出たとたん魅力を感じるまちづくり
- ・天狗山スキーのためなどの貸し別荘の開発
- ・観光資源として、奥沢水源地の復元、緩速ろ過式上水処理場の稼働、広井勇・伊藤長右衛門、北防波堤、小樽港湾事務所、総合博物館をリンクさせて土木・建築愛好家への情報発信、朝里ループ道路の積極的情報発信
- ・札幌からの家族連れをターゲットに平磯海岸、朝里海岸付近に釣り堀公園を新設
- ・海釣りの公園など、海をテーマにもっとPRすべき。天狗山でのスキー大会開催などでもっとPRすべき
- ・オタモイ海岸に、昔のように山側からも行けるようにしてほしい
- ・ステンドグラス美術館など、市で運営は難しくても助成するなどして、風格ある観光都市に尽力願いたい
- ・地元の人が自慢できる料理を提供する店を。おいしい魚介類、自然のうど、蒨、都会にはない魅力ある野菜など
- ・夜出港のフェリー客に、乗船前に市中心部で飲食してもらうために、乗船までの運転代行をフェリー会社に要請
- ・国際港湾都市として、今後ニーズが拡大するであろう外国人観光客をもっと呼び込む市として発展してほしい（他1件）
- ・テレビタレントに何もない街だと言われることのないよう、もっとマスコミ対策を
- ・堺町通りなどに近い、昔の色内駅の復活
- ・倉庫を開放して、昼夜・夏冬問わずイベント・商店等に活用してほしい。冬も倉庫内を暖かくして観光客を迎え、夜もロマンチックな明かりがあれば楽しめる
- ・東京で勤めていると7月下旬は休みが取れないので、潮まつりの時期を検討してほしい
- ・手宮地区の再活性化、すし屋横丁の整備などを含め、小樽全体の魅力を高める施策を実現
- ・魚介類の朝市の開設
- ・市場へバス等で観光客を呼び込んで買い物をしてもらう
- ・各種観光案内書などについて小樽会を十分に活用して配布して周知
- ・すし店の価格が高い。商工会などでの指導が必要（他1件）
- ・冬の積雪があるからなのか、休憩場所が少なすぎる
- ・観光における食文化の追求、水族館やオタモイ海岸の利活用
- ・北海道の広報・プロモーション都市に
- ・新幹線の駅を道内観光拠点とし、地元にお金を落としてもらうようにする
- ・天狗山～花園公園～運河と一体の散策コースなどができないか
- ・色内駅付近で夏限定のアイスクリームやラムネの店を出店してはどうか
- ・ケーブルカーや巡回ミニバスなどで、坂めぐりや旭展望台へのルートを開拓してほしい
- ・余市や仁木など周辺の町村を巻き込んだ広域観光地化を
- ・歴史的景観などの観光案内書を考えてほしい

【港湾の施設整備や利用促進】

- ・樺太・シベリア貿易が小樽の原点、特区を作って構築する
- ・みなと横浜、みなと神戸などの例による、港湾のスケールアップとフル活用（他2件）

- ・港湾施設を規制緩和して開放する
- ・クルージング客は大きなPR効果があるので、受入体制の充実を（他1件）
- ・対ロシアなどへの輸出入基地を目指して、新幹線が停車する街としてビジネスマンなど国内外へのアピールを（他1件）
- ・港湾を活用した国際都市を
- ・運河の延伸
- ・海上物流をシベリア湾岸や北極経由のヨーロッパ航路への確立を
- ・機能していないふ頭倉庫や上屋を流通加工施設に転換
- ・風車や造波機による小樽運河の海水交換、運河遊休水面のアマモ場復活による白鳥越冬地確保

【雇用・労働対策】

- ・若い人が住み続けられる働き口の確保、高齢者が働き続けられる環境

【姉妹都市交流など国内・国際交流】

- ・学校や教習所を作り、商業実習のロシア人女性を集める
- ・海員学校にロシア人を入れ、日本の内航海運の要員として確保する
- ・水産高校があるのが強みであり、ロシアでの養殖産業の起点にする

【その他】

- ・赤井川村、余市町、古平町などの農産物や海産物の一大集積センターを構築し、小樽港から中国やロシアに輸出する

5 環境やまちなみについて

【歴史的建造物の保全など、良好な景観づくり】

- ・人口減少とともに街が貧相にならないように、景観の確保
- ・街が汚い。きれいなまちづくりを一人ひとりが考えられるように
- ・自然や景観がすばらしい
- ・電線地中化の推進

6 市政その他

【市政全般】

- ・現状の延長線上にある実現可能なことを地道に推進すべき
- ・ふるさと納税の返礼品はもっと魅力あるものがあるし、大きなPRになるので、四半期ごとの返礼品の入れ替えや品揃えの充実を
- ・廃校となった学校の歴史を見ることができ施設があってもよい
- ・坂の上の人の住んでいない家や廃校を利用し、学生のキャンプや合宿を誘致する
- ・札幌までは便利なのに心理的距離が長く感じる。JRや中央バスと協議して札幌を中心とした広域文化圏の模索など、札幌に近い事を利する方策を
- ・米国のシアトルのような街との印象を受ける
- ・繁栄期に建造された建物や公園、公共施設等を守りながら、観光都市であるとともに、年金生活者が戻ってきたくような、高齢者も安心して住める都市にするのがよい（他1件）
- ・市民の誇り、一人ひとりのまちづくり意識と取り組み、高齢者の誇り高きまちへ
- ・海上自衛隊の誘致（他1件）
- ・小樽商大生や高校生など若い人から施策のアイデアを募集してはどうか（他1件）
- ・2週間～2か月程度滞在できるような自炊の施設の斡旋があれば検討したい（他1件）
- ・公衆トイレの充実を
- ・小樽出身者が故郷に出向きやすいようなサービス（食事の割引券などでも良い）の工夫をしてほしい
- ・人（市民・観光客）が集まるまちづくりのため、コンセプトをどうするかが重要
- ・今までの政策と成果を点検し、徹底した政策の重点化を実施すべき

- ・高速道路の余市への延伸により、北後志の購買力を札幌に流出しないようにする方策を
- ・札幌との連携や交流を積極的に行ったほうが良い
- ・小樽商大を核にした学園都市化を目指す
- ・納税者である市民の生活への配慮が一番、市民が温かい気持ちで観光客を迎えることが重要
- ・低経済安定時代に即応したまちであってほしい
- ・中心部がコンパクトなので、住環境や食環境が徒歩圏内であり、景色を楽しむ場所なども圧倒的に接近している、こういう住みやすさがポイントと思う
- ・小樽に今あるものを活用する。建造物等の歴史、山や海、港などの自然風土、人情あふれる人々、高齢者、山や海の食べ物。歴史と風土を生かしたまちづくり、先人から受け継いできた想いを次世代に引き継ぐこと。（他3件）
- ・閑静でぬくもりがあるまちであってほしい（他1件）

【人口対策】

- ・人口減少と交通の便を考えると、札幌市小樽区の考えも必要ではないか
- ・下げ止まりの対策、若年層の育成・教育施策と就労施策の優先化
- ・人口増加に結びつくあらゆる施策を取り上げて、地道に着実に進めることが必要
- ・将来人口を的確に予想すること
- ・人口減少は当分止まらない。小樽を誰がどのように守るのかを明確にしないと小樽特有のビジョンにたどり着かない
- ・人口拡大を求めるのではなく、人口10万人でどのような富の配分ができるかを追求すること
- ・札幌のベッドタウンとして、交通の便を向上し、週末にゆっくり過ごせるまちづくり

【市の体制、市民対応、財政など】

- ・スーパー公務員が必要なので、民間から係長クラスを役所に出向させてバリバリ仕事をしてもらう、安定を求めて公務員になる人は役に立たないと知るべし
- ・市の財政基盤の強化（長期視点での税収入の向上）
- ・赤字財政は止血が最優先、コンパクトシティの推進が不可欠（他1件）
- ・コンパクトでありながら市民がビジターに優しい市政を実現してほしい。そのためには、まずは市職員を全員解雇してマンネリから脱出し、民間出身者を主体に変革に挑む人のみを再雇用する
- ・市長の市政運営や議会の議会運営に問題はないか
- ・市長は都心や海外とのネットワークがあり、文化の高い人になるべき。またはこれらのプレーンがいれば良い
- ・次期総合計画より前に、市長と市議会の対立の解消が先決、このままでは小樽は衰退するばかり

【広報や情報の公開】

- ・外部の人がイメージする小樽と実際の小樽のギャップをどう埋めるか、計画性への理解と周囲への情報発信が必要と思う
- ・ITに頼らず、町内回覧板を活用

【その他】

- ・若い世代が伝統をぶっ壊すくらいの意気込みで取り組む必要がある
- ・よそ者を排除しない度量を持つ
- ・まち全体が暗い、人々も明るさに欠ける
- ・次期総合計画策定のためのアンケートにしては、内容が粗末すぎる（他1件）
- ・市営の墓所で、まだ子孫がわかっているうちに名簿を作成し、永代供養料のような管理費を宗教団体と連携するなどで対応し、収益を上げるように考えてほしい。故郷に墓を残すものにとっては大きな課題
- ・外部からみると他都市と比較する意識が働く。街並みにおいて、造形的または色彩的な統一性が欠けるとその街への期待感が薄れますが、小樽はこの街に来て良かったと思うときがある

第V部 観光客アンケート調査

1 調査概要

1.1 調査目的

次期総合計画策定の基礎資料とするため、市外在住者の視点で小樽の魅力や課題を把握することを目的とする。また、インターンシップを活用し、高校生に調査に参加してもらうことにより、若い世代の市政に対する意識啓発の一助とすることを目的とする。

1.2 調査方法と回収結果

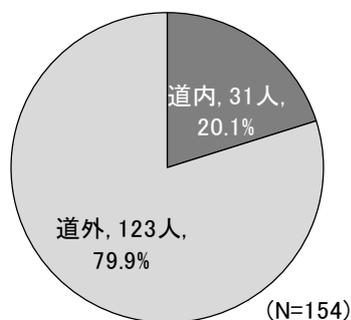
- | | |
|----------|------------------------|
| (1) 調査対象 | 国内観光客 |
| (2) 調査場所 | 浅草橋・メルヘン交差点付近 |
| (3) 標本構成 | 標本数 154件
有効回収数 154件 |
| (4) 調査方法 | 聞き取りまたは本人記入方式 |
| (5) 調査員 | 小樽商業高校生3名及び市職員4名 |
| (6) 調査期間 | 平成28年9月1日(木) |

2 アンケート結果

(1) どちらからいらっしゃいましたか？

回答数 154 人の内訳は、道内観光客 31 人、道外観光客 123 人となり、特にイベントのない平日の調査では、約 8 割が道外観光客が占める結果となった。

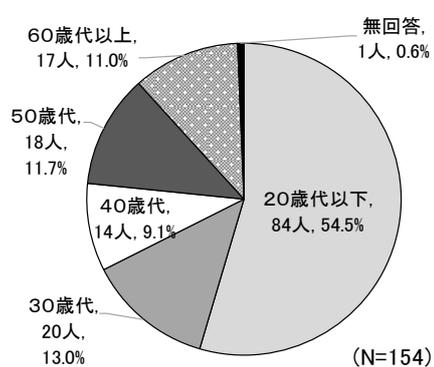
図 1 道内・道外観光客の割合



(2) 年齢

年齢は、道内外それぞれで 20 歳代以下が最も多く、観光客全体の 54.5%となった。30 歳代以上は、各年代に分散しており、この傾向について道内観光客、道外観光客で大きな違いはなかった。

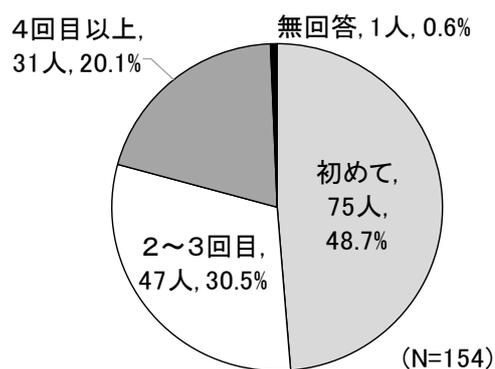
図 2 年代の割合



(3) 小樽への訪問回数

小樽への訪問回数については、半数以上の人々が小樽を再訪しており、「4 回目以上」の人も 2 割を越える結果であった。

図 3 小樽への訪問回数

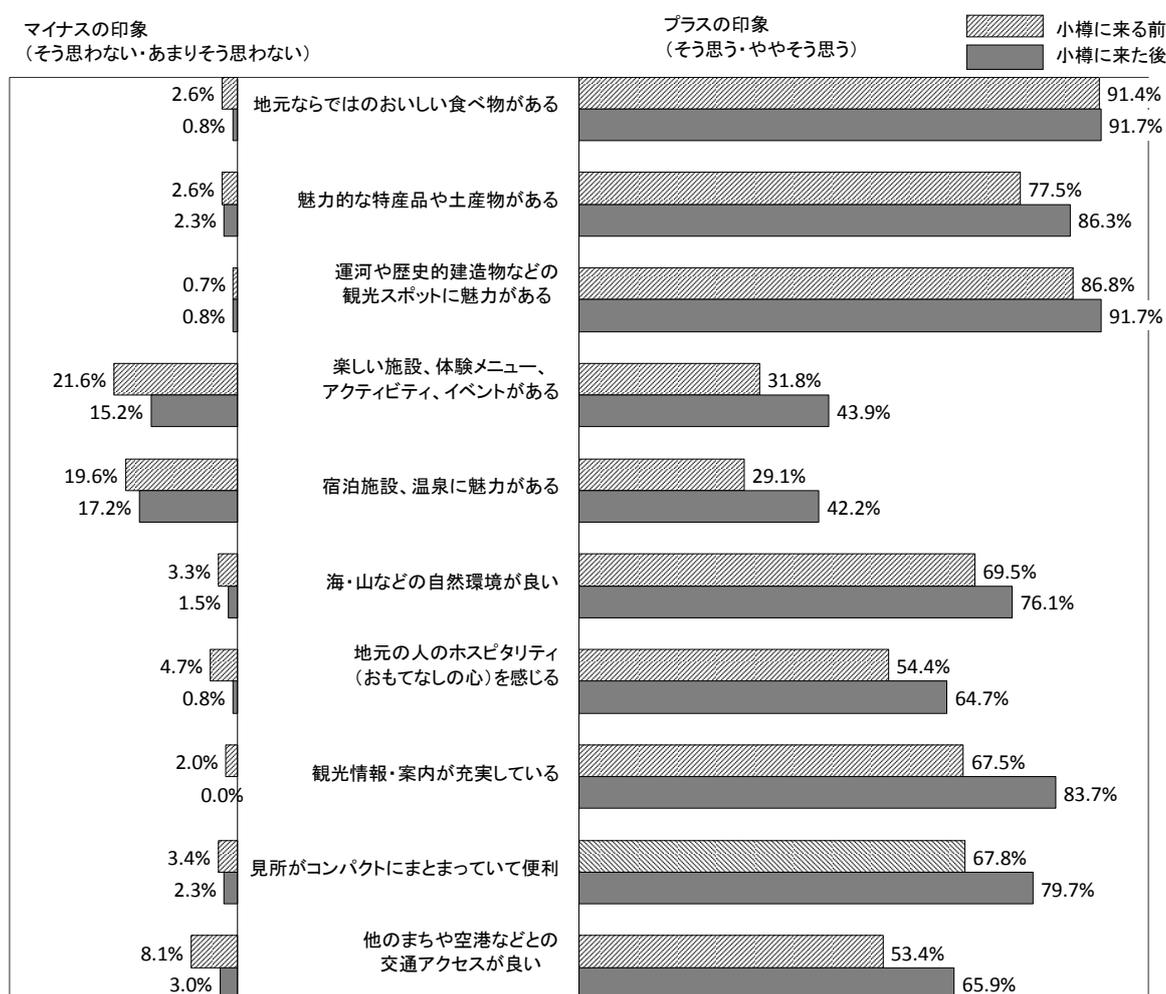


(4) 小樽の魅力について

小樽市の魅力について、「小樽に来る前の印象」でプラスの印象（「そう思う」「ややそう思う」）が多かった項目は「地元ならではのおいしい食べ物がある」（91.4%）、「運河や歴史的建造物などの観光スポットに魅力がある」（86.8%）、「魅力的な特産品や土産物がある」（77.5%）となっている。また、マイナスの印象（「そう思わない」「あまりそう思わない」）については、どの項目もプラスの印象より少なかったが、相対的には「宿泊施設、温泉に魅力がある」（19.6%）、「楽しい施設、体験メニュー、アクティビティ、イベントがある」（21.6%）の2項目が割合として多かった。

また、全体的に「来る前」より「来た後」のほうが、プラスの印象の割合が増え、マイナスの印象が減っており、実際に「来た後」で、更に印象が良くなる傾向となった。

図4 小樽の魅力について（小樽に「来る前」と「来た後」の印象）



小樽に「来た後」の印象について、「道内観光客」と「道外観光客」では、傾向に違いはない。また、「訪問回数」についても、全体的な傾向に違いはないが、訪問回数が多いほどマイナス印象が減少する傾向にあった。

年齢別では、プラスの印象の項目の傾向に大きな違いはないが、「30～40歳代」の「楽しい施設、体験メニュー、アクティビティ、イベントがある」のマイナス印象が31.0%と割合が多かった。

図 4-1 小樽の魅力について（「来た後」20歳代）

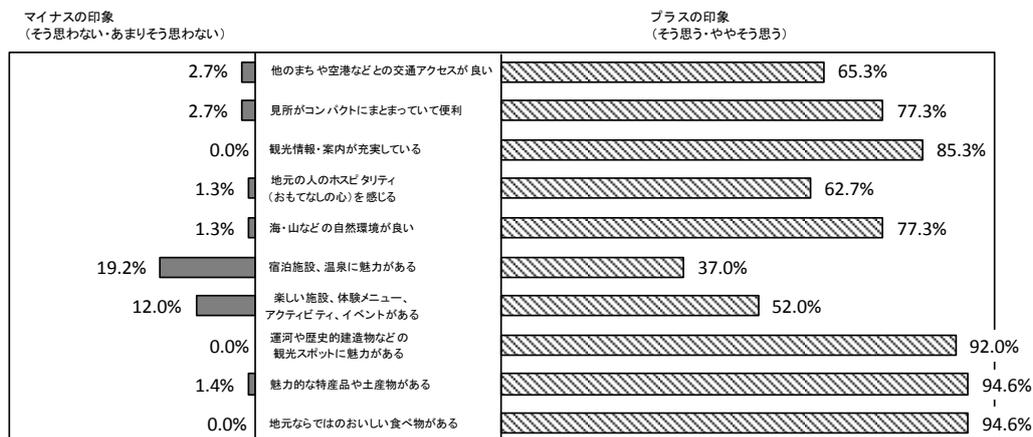


図 4-2 小樽の魅力について（「来た後」30～40歳代）

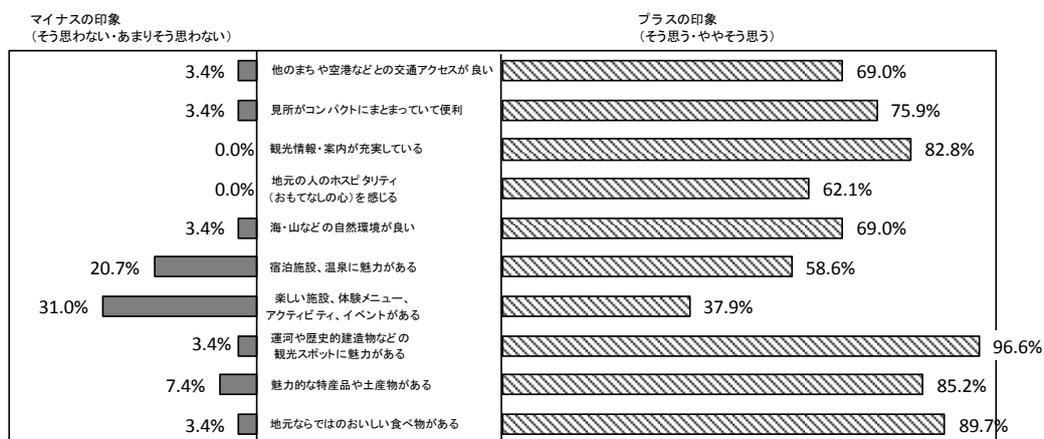
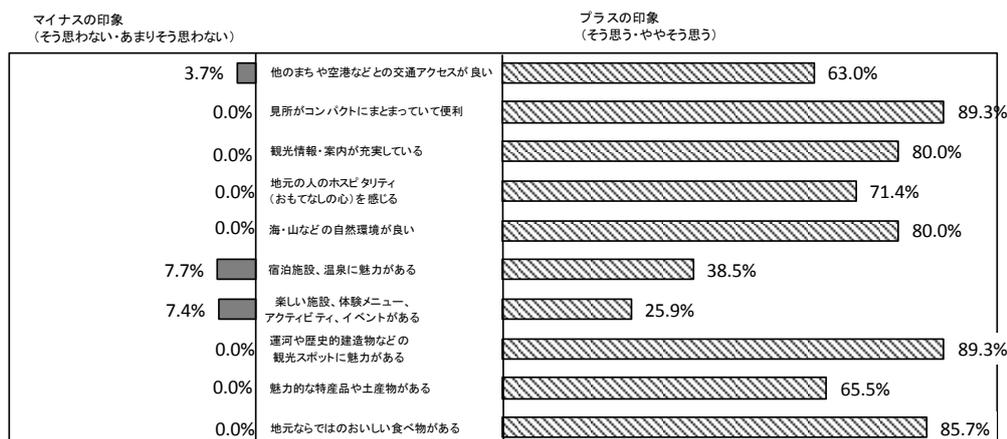


図 4-3 小樽の魅力について（「来た後」50歳代以上）



(5) 小樽で魅力を感じる場所について（自由記述）

- ・自然がきれい
- ・春香町のゆり園がよかった
- ・古い建物が残っている
- ・古い建造物、民家
- ・景色、堺町通り
- ・ガラスなどで有名だと思う
- ・部活の大会でよく来たりする
- ・運河、寿司
- ・見所がコンパクトにまとまっていてわかりやすい、きれい
- ・運河の眺めがいい（晴れていると）
- ・景色、町並み
- ・物がきれいに整備されている。（清潔感がある。）
- ・いい雰囲気してる
- ・海鮮
- ・道が広くて歩きやすい
- ・水の風景がいい
- ・空気がおいしい
- ・ガラス
- ・スイーツ店がたくさんある
- ・歴史的建造物
- ・運河沿いの倉庫が魅力
- ・古い建物があちこちあり楽しい
- ・オルゴールがかわいい
- ・港の風景がとてもきれいで、海鮮がおいしかった
- ・トンネルを抜けると急に景色が変わり、異国的な感じがする
- ・海、港
- ・レトロな感じがオシャレ
- ・町並み
- ・レトロな町並み景観

(6) 小樽に不足しているところや改善すべきところについて（自由記述）

- ・お店が早く閉まってしまう。
- ・ガラス体験（やや本格的な）
- ・駅の専門情報の不足感
- ・ごちゃごちゃしていてまとまりがわるい
- ・堺町通りの店の営業時間が短い、閉店はせめて19時ころ
- ・駐車場情報
- ・アミューズメント
- ・都市から時間がかかる。
- ・もっと観光案内
- ・バスの本数を増やしてほしい
- ・きれいなトイレ
- ・外国語標記
- ・高島岬方面に見るところがたくさんあるのに紹介されていない
- ・水族館へのアクセス
- ・ベンチがほしい、日陰がほしい
- ・時間をかけて見られる場所
- ・駅が少ない

(7) その他、小樽観光についてのご意見やご提案について（自由記述）

- ・がんばってください。アンケート取りの高校生の皆さんお疲れ様
- ・札幌から30分で来れるのは便利
- ・観光ガイド（ボランティア）がほしい
- ・巡回バスなどがあれば便利
- ・とても素敵な場所です、また来たい
- ・いい街
- ・リピーターへの注力
- ・楽しいです
- ・高島岬へもっと人が集まればいいのではないかと思う
- ・日本を全面に押し出した街並みが好き
- ・もう少ししっとりとした街並みがほしい
- ・観光地の場所に目立つ目印がほしい
- ・きれいな街です

次期小樽市総合計画策定のための 市民アンケート 御協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、小樽市では、市政の最も基本的な計画となる「小樽市総合計画」を策定しており、この度、平成31年度からスタートする新しい総合計画策定への取組を始めたところです。

本調査は、次期総合計画策定の基礎調査として、市民の皆様の御意見をお聞かせ願いたく実施するもので、18歳以上の市民を対象に3,000名を無作為に抽出して送付させていただいております。

このアンケートは無記名で、調査の結果は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはありません。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆様とともに考えていきたいと思っておりますので、調査の目的、趣旨を御理解のうえ、率直な御意見をお聞かせくださいますよう、よろしくお願いたします。

平成28年8月

小樽市長 森井 秀明

< 御回答ついてのお願い >

※このアンケートの所要時間は20分程度です。

1. 宛名の御本人がお答えください（代筆可）。
2. 回答では設問ごとの説明にしたがって、あてはまる番号（数字）に○印をつけてください。その際、「一つを選んで」、「すべてに」などそれぞれ指定されていますので、御注意ください。
3. 選択肢で「その他」を回答された場合は、（ ）内に具体的な内容を御記入ください。
4. 御記入いただいた調査票は同封の封筒に入れ、平成28年9月14日（水）までに投かんしてください。（切手は不要です）
5. 返信用封筒についているバーコードは、郵便料金の支払いのものであり、全ての封筒に同じものが印刷されていますので個人を特定するものではありません。

<お問合せ先>

〒047-8660

小樽市花園2丁目12番1号

小樽市役所 総務部 企画政策室（総合計画担当）

電話(代表) : 0134-32-4111 (内線271)

ファクス : 0134-22-6727

e-mail : kikaku@city.otaru.lg.jp

2. 小樽市に暮らしていて感じることについて

①暮らしやすさ

あなたは、小樽市の暮らしやすさについてどう思われているかお答えください。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

1. 暮らしやすい
2. どちらかと言えば暮らしやすい
3. ふつう
4. どちらかと言えば暮らしづらい
5. 暮らしづらい

②-1 定住の意向

あなたは、今後も小樽市に住み続けたいと思いますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

1. 今後も住み続けたい
(②-2へ)

2. 小樽市外に転出したい
(②-3へ)

3. どちらともいえない
(次のページへ)

②-2 居住理由

「②-1」で「1」と答えた方のみお答えください。
今後も住み続けたいと思う理由は何ですか。次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 小樽市に愛着があるから
2. 仕事や就学のため
3. 子どもの教育のため
4. 家賃や地代などが安いから
5. 買い物など日常生活が便利だから
6. 医療・福祉の面が整っているから
7. 自然環境に恵まれているから
8. 歴史・文化が豊かだから
9. 交通の便が良いから
10. 災害や治安の面で安心だから
11. 人情味にあふれているから
12. 食べ物が新鮮でおいしいから
13. 楽しむ場所や機会が充実しているから
14. 他のまちより行政サービスが充実しているから
15. その他
()

②-3 市外転出希望理由

「②-1」で「2」と答えた方のみお答えください。
市外に転出したいと思う理由は何ですか。次の中から当てはまるものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 小樽市になじめないから
2. 仕事や就学のため
3. 子どもの教育のため
4. 家賃や地代などが高いから
5. 買い物などの日常生活が不便だから
6. 医療・福祉の面が整っていないから
7. 自然環境に恵まれていないから
8. 歴史・文化が乏しいから
9. 交通の便が悪いから
10. 災害や治安の面で不安だから
11. 楽しむ場所や機会が不足しているから
12. 他のまちの方が行政サービスが充実しているから
13. その他
()

3. 市政に対する現在の満足度と今後の重要度について、次の各項目にお答えください。

項目	現在の満足度 (1～6のいずれかに○印)						今後の重要度 (1～6のいずれかに○印)					
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	重要	やや重要	今のままでよい	あまり重要ではない	重要ではない	わからない
生涯学習に関する項目												
1) 学校の教育内容や教育環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2) 市民の学習機会や学習環境 (図書館・総合博物館など)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
3) 文化・芸術に親しむ機会や環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4) スポーツ・レクリエーション に親しむ機会や環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
5) 青少年の非行防止や子どもの 居場所づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
市民福祉に関する項目												
1) 福祉活動やボランティア活動への支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2) 保育などの子育て支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
3) 高齢者の生きがいづくりや 生活支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4) 障がい者の支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
5) 健診・予防接種や食の安全などの体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
6) 安心して暮らせる医療環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7) 男女がともに支え合い、対等に 社会参画できる環境づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

項目	現在の満足度 (1～6のいずれかに○印)						今後の重要度 (1～6のいずれかに○印)					
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	重要	やや重要	今のままでよい	あまり重要ではない	重要ではない	わからない
生活基盤に関する項目												
1) 上下水道（水の安定供給など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2) 道路や河川の整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
3) 住宅（市営住宅、リフォーム支援など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4) 除排雪やロードヒーティング	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
5) まちなかななどの市街地整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
6) 交通（公共交通機関や道路の利便性）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7) 地震・津波・土砂災害などへの防災体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
8) 消防や救急救助の体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
9) 交通安全、防犯や消費者相談の体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

項目	現在の満足度 (1～6のいずれかに○印)						今後の重要度 (1～6のいずれかに○印)					
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	重要	やや重要	今のままでよい	あまり重要ではない	重要ではない	わからない
産業振興に関する項目												
1) 農業の振興や森林管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2) 水産業の振興	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
3) 商店街など商業の振興	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4) 地場産業の振興や企業誘致	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
5) 観光振興（PRや受入れ体制の充実など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
6) 港湾の施設整備や利用促進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7) 雇用・労働対策	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
8) 姉妹都市交流など国内・国際交流	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
環境やまちなみに関する項目												
1) 環境保全（温暖化対策の推進や意識の向上）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2) ごみや資源物の収集・処理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
3) 公園や緑地の整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4) 歴史的建造物の保全など、良質な景観づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

4. 市政に対する市民意見等について

①市政に対する関心度

あなたは、市政についてどのくらい関心を持っていますか。次の中から当てはまるものを一つ **選び**、番号に○印をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 2. どちらかと言えば関心がある |
| 3. どちらかと言えば関心がない | 4. 関心がない |
| 5. どちらともいえない | |

②市政に対する市民意見等の反映度

あなたは、市民の意見や要望が市政に反映されていると思いますか。次の中から当てはまるものを一つ **選び**、番号に○印をつけてください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 反映されている | 2. ある程度反映されている |
| 3. あまり反映されていない | 4. 反映されていない |
| 5. どちらともいえない | |

③市民意見を市政に反映させるための方策

市民の意見を市政に反映させるために、何が必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを二つまで **選び**、番号に○印をつけてください。

1. 計画づくりなどに参加できる機会（委員の公募）を充実させる
2. 計画づくりの際に意見を聴く機会（パブリックコメント制度など）を充実させる
3. 審議会などの会議を傍聴できる機会を充実させる
4. 市政の重要な課題について、懇談する機会を充実させる
5. 市政の評価に参加できる機会を充実させる
6. アンケート調査など多数の意見を聴く機会を増やす
7. その他（）
8. 特に必要ない
9. わからない

5. まちづくりへの参加について

※「まちづくり」とは、豊かで活力ある地域社会の実現のための公共的な活動（町内会活動を含む）をいいます。

①-1 まちづくりへのこれまでの参加

あなたは、まちづくりのための市民活動（町内会活動を含む）に参加したことがありますか。次の中から当てはまるものを一つ選び、番号に○印をつけてください。

- | | | |
|--------------|-----------------|--------------------------|
| 1. 現在、参加している | 2. 以前、参加したことがある | 3. 参加したことはない
(次のページへ) |
|--------------|-----------------|--------------------------|

①-2 これまでの参加分野

「①-1」で「1」、「2」と答えた方のみお答えください。

あなたは、これまでどのようなまちづくりに参加しましたか。次の中から当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

1. 美しいまちをつくるための美化・清掃活動
2. お年寄りや障がいのある方などに対する支援活動
3. 子育て支援に関する活動
4. 青少年の健全育成に関する活動
5. 歴史や文化など郷土遺産を守り育てる活動
6. 自然保護やリサイクルなど、環境保全に関する活動
7. 町内会など地域における活動
8. 交通安全や防犯、防災などに関する活動
9. 観光案内などの観光振興活動
10. 国際交流や姉妹都市交流に関する活動
11. イベント等のまちを活性化させるための活動
12. 上記以外の活動に参加したことがある

8. 小樽市の将来イメージについて

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中からあなたの思う将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 国内外の客船や貨物船でにぎわい、人・もの・情報が交流する【国際港湾都市】
2. 豊かな自然環境と歴史的景観が訪れる人を魅了する【風格ある観光都市】
3. 市民が生き生きと働き、活発な産業が人を呼び込む【活力ある産業のまち】
4. まちなかにお店や住居が集まり、利便性の高い【コンパクトなまち】
5. 誰もが文化・芸術に親しみ、スポーツ・レクリエーションを楽しむ【生涯学習のまち】
6. 安心して子どもを産み育てることができ、教育環境が整った【子どもを^{はぐく}むまち】
7. 保健・福祉・医療が充実し、健康で心豊かに生活できる【健やかに暮らせるまち】
8. 多くの市民がまちづくりに参加し、ともに支えあう【みんなで作る協働のまち】
9. 自然とまちなみが調和し、みんなで環境保全を実践する【美しく環境にやさしいまち】
10. 事故や犯罪が少なく、災害に強い【安心・安全のまち】
11. 水道・道路・除排雪・公共交通機関などが行きとどいた【生活基盤が充実したまち】
12. その他（）

これからのまちづくりについて、御意見や御提案がありましたら下記にお書きください。

以上でアンケートは終了です。

記入内容を確認いただき、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、9月14日（水）までに投かんくださいますようお願いいたします。なお、切手は不要です。

御協力ありがとうございました。

次期小樽市総合計画策定のための 地区別アンケート 御協力をお願い

謹啓 時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、市政に対し特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、小樽市では、市政の最も基本的な計画となる「小樽市総合計画」を策定しており、この度、平成31年度からスタートする新しい総合計画策定への取組を始めたところです。

本調査は、次期総合計画の策定に当たり、市内の町内会・自治体の方々の、まちの将来に対する認識などについて調査するものです。

つきましては、時節柄お忙しいこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき御協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

平成28年8月

小樽市長 森井 秀明

< 御回答についてお願い >

※このアンケートの所要時間は10分程度です。

1. 御記入は、代表者（責任者）以外の方であっても結構です。
2. 回答では設問ごとの説明にしたがって、あてはまる番号（数字）に○印をつけてください。その際、「一つを選んで」、「すべてに」などそれぞれ指定されていますので、御注意ください。
3. 選択肢で「その他」を回答された場合は、（ ）内に具体的な内容を御記入ください。
4. 御記入いただいた調査票は同封の封筒に入れ、平成28年9月14日（水）までに投かんしてください。（切手は不要です）

<お問合せ先>

〒047-8660

小樽市花園2丁目12番1号

小樽市役所 総務部 企画政策室（総合計画担当）

電話(代表) : 0134-32-4111（内線271）

ファクス : 0134-22-6727

e-mail : kikaku@city.otaru.lg.jp

2. 集会施設の状況について

①活動の場所

あなたの町内会では、主にどのような施設で活動していますか。当てはまるもの一つを選び、番号に○印をつけてください。

1. 町内会館	2. 他の町内会の会館	3. 集合住宅の集会所
4. 公共施設	5. 個人の住宅	6. その他の施設
7. 施設を利用する活動は行っていない (「3. 地域における生活環境等について」へ)		

②利用状況

「①活動の場所」で「1」～「6」と答えた方のみお答えください。

② -1 月に何日程度利用されていますか。

1か月に_____日程度

② -2 集会施設を主にどのような活動に利用されていますか。当てはまるものすべての番号に○印をつけてください。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 町内会の会合 | 2. 子ども会などの子どもに関する活動 |
| 3. 趣味・サークル活動 | 4. 老人クラブなどの高齢者に関する活動 |
| 5. 葬儀 | 6. その他 () |

3. 地域における生活環境等について

地域における生活環境等の中で特に重要と考えているものは何ですか。次の項目について、重要度が高いと考えるものを二つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 生活道路の整備について
2. 除雪・排雪の充実について
3. 公園や子どもの遊び場の整備について
4. 地震などの自然災害への対策について
5. 高齢者の安否確認などの見守り体制の構築について
6. その他 ()

4. 小樽市の将来イメージについて

小樽市は将来どのような姿になるのがふさわしいと思いますか。次の中から将来像に近いものを三つまで選び、番号に○印をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 国内外の客船や貨物船でにぎわい、人・もの・情報が交流する【国際港湾都市】 |
| 2. 豊かな自然環境と歴史的景観が訪れる人を魅了する【風格ある観光都市】 |
| 3. 市民が生き生きと働き、活発な産業が人を呼び込む【活力ある産業のまち】 |
| 4. まちなかにお店や住居が集まり、利便性の高い【コンパクトなまち】 |
| 5. 誰もが文化・芸術に親しみ、スポーツ・レクリエーションを楽しむ【生涯学習のまち】 |
| 6. 安心して子どもを産み育てることができ、教育環境が整った【子どもを育むまち】 |
| 7. 保健・福祉・医療が充実し、健康で心豊かに生活できる【健やかに暮らせるまち】 |
| 8. 多くの市民がまちづくり※に参加し、ともに支えあう【みんなで作る協働のまち】 |
| 9. 自然とまちなみが調和し、みんなで環境保全を実践する【美しく環境にやさしいまち】 |
| 10. 事故や犯罪が少なく、災害に強い【安心・安全のまち】 |
| 11. 水道・道路・除排雪・公共交通機関などが行きとどいた【生活基盤が充実したまち】 |
| 12. その他（ ） |

※「まちづくり」とは、豊かで活力ある地域社会の実現のための公共的な活動（町内会活動を含む）をいいます。

これからのまちづくりについて、御意見や御提案がありましたら下記にお書きください。

以上でアンケートは終了です。

記入内容を確認いただき、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、9月14日（水）までに投かんくださいますようお願いいたします。なお、切手は不要です。

御協力ありがとうございました。

次期小樽市総合計画策定のための 団体別アンケート 御協力をお願い

謹啓 時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、市政に対し特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、小樽市では、市政の最も基本的な計画となる「小樽市総合計画」を策定しており、この度、平成31年度からスタートする新しい総合計画策定への取組を始めたところです。

本調査は、次期総合計画の策定に当たり、関係諸団体の方々の方々のまちの将来に対する認識などについて調査するものです。

つきましては、時節柄お忙しいこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき御協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

平成28年8月

小樽市長 森井 秀明

< 御回答についてお願い >

※このアンケートの所要時間は10分程度です。

1. 御記入は、代表者（責任者）以外の方であっても結構です。
2. 回答では設問ごとの説明にしたがって、あてはまる番号（数字）に○印をつけてください。
3. 選択肢で「その他」を回答された場合は、（ ）内に具体的な内容を御記入ください。
4. 御記入いただいた調査票は同封の封筒に入れ、平成28年9月14日（水）までに投かんしてください。（切手は不要です）

<お問合せ先>

〒047-8660

小樽市花園2丁目12番1号

小樽市役所 総務部 企画政策室（総合計画担当）

電話(代表) : 0134-32-4111（内線271）

ファクス : 0134-22-6727

e-mail : kikaku@city.otaru.lg.jp

次期総合計画づくりに当たっての団体別アンケート調査票

団体名	
-----	--

1. まちづくりについて

小樽のまちづくりについて、どの分野に力を入れるべきとお考えですか。次の中から当てはまるものを五つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 新幹線、高速道路など広域交通体系の整備を進める。
2. 生活関連道路や公共交通機関など市内交通網の充実を図る。
3. 物流基盤やクルーズ客船受入れなど港湾施設の充実と港湾の活用の促進を図る。
4. 小樽製品のブランド化や販路拡大などにより商業の振興を図る。
5. 高度な加工技術を生かした製造業の振興を図る。
6. 農林水産業の振興を図る。
7. 時間消費型観光への移行や受入れ体制の整備、観光客誘致を進める。
8. 積極的な企業立地・誘致の推進を図る。
9. まちなかのにぎわいを取り戻し、商店街の振興を図る。
10. 公園や緑地などの環境整備を進める。
11. 良好な自然環境の保全に努める。
12. 良好な環境を有する住宅の整備を進める。
13. 歴史と自然を生かした景観づくりを進める。
14. 防災や防犯、交通安全などの対策について充実を図る。
15. お年寄りや障がいのある方に対する施策の充実を図る。
16. 子育て支援の施策について充実を図る。
17. 健康づくりや医療サービスの充実を図る。
18. 学力向上やいじめ対策、開かれた学校づくりなど学校教育の充実を図る。
19. 大学などの高等教育機関と地域の連携を図る。
20. 芸術、文化、スポーツなどの振興を図る。
21. 国際交流や地域間交流を進める。
22. コミュニティ活動や集会施設などの充実を図る。
23. 若者の定住や移住の推進など人口対策を進める。
24. 男女がともに社会に参加できる環境の整備を進める。
25. インターネットなどを活用し、生活に役立つ情報システムの整備を進める。
26. 様々な分野での市政への参加・協働の充実を図る。
27. 様々な分野における近隣市町村との広域連携を進める。
28. その他（）

次期小樽市総合計画策定のための 市外在住者アンケート 御協力をお願い

謹啓 時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、市政に対し特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、小樽市では、市政の最も基本的な計画となる「小樽市総合計画」を策定しており、この度、平成31年度からスタートする新しい総合計画策定への取組を始めたところです。

次期総合計画の策定に当たっては、市民3,000人を対象としたアンケート調査のほか、各町会や関係諸団体の方々へのアンケート調査を実施しておりますが、本市に縁のある市外在住者の皆様にも小樽のまちづくりについてアンケート調査を実施させていただき、御意見をお聞きしたいと存じます。

つきましては、時節柄お忙しいこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき御協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

平成28年8月

小樽市長 森井 秀明

< 御回答についてお願い >

※このアンケートの所要時間は10分程度です。

1. 宛名の御本人がお答えください（代筆可）。
2. 回答では設問ごとの説明にしたがって、あてはまる番号（数字）に○印をつけてください。その際、「一つを選んで」、「すべてに」などそれぞれ指定されていますので、御注意ください。
3. 選択肢で「その他」を回答された場合は、（ ）内に具体的な内容を御記入ください。
4. 御記入いただいた調査票は同封の封筒に入れ、平成28年9月14日（水）までに投かんしてください。（切手は不要です）
5. 返信用封筒についているバーコードは、郵便料金の支払いのものであり、全ての封筒に同じものが印刷されていますので個人を特定するものではありません。

< お問合せ先 >

〒047-8660

小樽市花園2丁目12番1号

小樽市役所 総務部 企画政策室（総合計画担当）

電話(代表) : 0134-32-4111 (内線271)

ファクス : 0134-22-6727

e-mail : kikaku@city.otaru.lg.jp

2. 移住や二地域居住について

※「二地域居住」とは、今の住居はそのままに、一定期間を「もう一つの場所」で暮らす、「交流（観光など）」と「定住」の中間的なライフスタイルをいいます。

①-1 あなたは、移住や二地域居住について、現在どのようにお考えですか。次の中から**当てはまるものすべての**番号に○印をつけてください。

1. 小樽市への移住に関心がある
2. 小樽市との二地域居住に関心がある
3. 他のまちへの移住や二地域居住に関心がある
4. 移住や二地域居住は考えていない (次のページへ)



「①-1」で「1」～「3」を選んだ方のみお答えください。

①-2 あなたが移住や二地域居住に関心がある理由をお答えください。
次の中から**当てはまるものを三つまで**選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 故郷だから・愛着がある | 2. 家族・親戚・知人が住んでいる |
| 3. 人情味にあふれている | 4. 食べ物や水がおいしい、空気がきれい |
| 5. 家賃や地代などが安い | 6. 住環境が良い |
| 7. 子育て環境が良い | 8. 医療・福祉の環境が良い |
| 9. 災害や治安の面で安心 | 10. 自然が豊か・景観が美しい |
| 11. 気候が過ごしやすい | 12. 歴史や文化が豊か |
| 13. ゆったりとした生活をしたい | 14. 新しい仕事をしたい |
| 15. スポーツ・レジャー・趣味を楽しみたい | |
| 16. その他 () | |

①-3 あなたが、移住や二地域居住をする上で、どんなことが問題になりますか。
次の中から**当てはまるものを三つまで**選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 希望する働き口が見つからない | 2. 希望する住居が見つからない |
| 3. 買物など日常生活の利便性が低い | 4. 交通の利便性が低い |
| 5. 除排雪など冬期間の暮らしが大変 | 6. 医療・福祉が充実していない |
| 7. 教育など子育て環境が不安 | 8. 文化・芸術・趣味の環境が不足 |
| 9. その他 () | |

次期小樽市総合計画策定のための 観光客アンケート

このアンケートは、「次期小樽市総合計画」策定の基礎資料とするために実施するものです。
無記名の調査であり、調査結果は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはありません。
より魅力的なまちづくりを行うため、率直な御意見をお聞かせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

1 どちらからいらっしゃいましたか？ 当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1 北海道内	2 北海道外
--------	--------

2 あなたの年代について、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1 20歳代以下	2 30歳代	3 40歳代	4 50歳代	5 60歳代以上
----------	--------	--------	--------	----------

3 小樽への訪問は何回目ですか？ 当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1 初めて	2 2～3回目	3 4回目以上
-------	---------	---------

**4 小樽の魅力について、小樽に「(1)来る前」と「(2)来てから」のそれぞれの評価をお答えください。
(わからない・評価できない項目については、無回答で結構です。)**

項 目	(1)小樽に来る前の印象 次のいずれかの番号に○を してください。 (5 そう思う 4 ややそう思う 3 ふつう 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)	(2)小樽に来てからの感想 次のいずれかの番号に○を してください。 (5 そう思う 4 ややそう思う 3 ふつう 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)
A 地元ならではのおいしい食べ物がある	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
B 魅力的な特産品や土産物がある	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
C 運河や歴史的建造物などの観光スポットに魅力がある	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
D 楽しい施設、体験メニュー、アクティビティ、イベントがある	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
E 宿泊施設、温泉に魅力がある	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
F 海・山などの自然環境が良い	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
G 地元の人のホスピタリティ(おもてなしの心)を感じる	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
H 観光情報・案内が充実している	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
I 見所がコンパクトにまとまっていて便利	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
J 他のまちや空港などの交通アクセスが良い	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

5 上の項目以外に、小樽で魅力を感じる場所があればお書きください。

6 小樽に不足しているところや改善すべきところがあればお書きください。

7 その他、小樽観光についてのご意見やご提案があればお書きください。